



10 BASE-T LAN PC Card

REX-R280

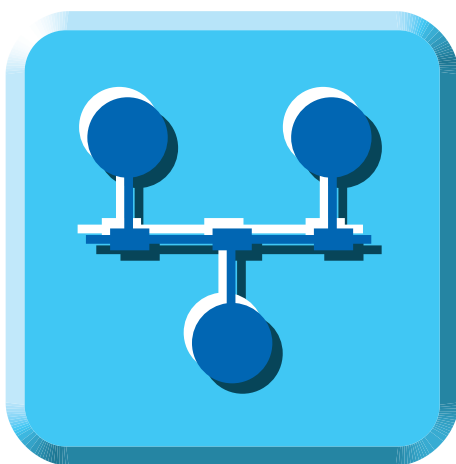
PC Card Standard対応
ユーザーズマニュアル

Windows 95

Windows NT

DOS/Windows 3.1

Mac OS



1998年7月

第1.6版



ラトックシステム株式会社

目次

ご注意	1
製品に関するお問い合わせ	3
第1章 REX-R280シリーズについて	5
対応パソコン	5
対応OS (オペレーティングシステム)	5
添付品	6
添付ソフトウェア (提供ソフトウェア)	6
制限	6
第2章 LAN PCカードのセットアップ	7
PCカードスロットの電源供給の確認	8
オートパワーダウン機能での注意	8
LAN PCカードのPCカードスロットへの装着	8
FDDがPCカードスロット接続の場合	8
LANケーブルの接続	9
HUBへの接続	9
HUBまでの距離が離れている場合	9
第3章 Windows 95でのインストール	10
ドライバのインストール(新しいハードウェア)	10
ドライバのインストール(デバイスドライバウィザード)	12
ドライバの確認	16
ネットワークプロトコルのインストールの確認	17
LAN PCカードの取り外し	17
デバイス使用許可の切り替え(新しいハードウェア)	18
デバイス使用許可の切り替え(デバイスドライバウィザード)	19
リソースの変更	20
ドライバの削除	21
ドライバの再インストールの手順	21
デバイスツリーからの削除	21
ドライバファイルとINFファイルの削除	21
レジストリの削除	22

第4章 Client32 for Windows 95でのインストール	23
Client32システムのインストール	23
Client32インストーラの起動	23
仮のドライバ選択	24
ネットワークの設定	24
接続するサーバ情報の設定	25
Client32ファイルのコピー	26
システムの再起動	26
REX-R280ドライバのインストール	27
ドライバのインストール(新しいハードウェア)	27
ドライバのインストール(デバイスドライバウィザード)	28
NetWareログイン	32
第5章 Windows NT3.5xでのインストール	33
ドライバのインストール	33
ネットワークアダプタのインストール	33
ネットワークアダプタの設定	35
インストール後の確認	36
「Pcmcia」項目が「実行中」ではない、または無い場合	36
「REX-R280 アダプタドライバ」項目が「実行中」ではない場合	37
第6章 Windows NT4.0でのインストール	38
ドライバのインストール	38
ネットワークの設定	38
ネットワークアダプタの登録	39
使用プロトコルの設定	40
使用ネットワークサービスの設定	41
コンポーネントのインストールと設定	41
ネットワークの起動	43
システムの再起動	44
インストール後の確認	45
デバイスの動作確認	45
「Pcmcia」項目が「実行中」ではない、または無い場合	46
「REX-R280 アダプタドライバ」項目が「実行中」ではない場合	46

第7章 DOS/Windows 3.1での使用方法	47
DOS/Windows 3.1での使用について	47
カードサービスのインストール	48
占有メモリについて	48
「カードサービス」により使用する占有メモリについて	48
「カードサービス」を使用しない場合の占有メモリについて(DOS/V)	49
LANドライバに指定する割り込み番号について(PC-9821)	50
第8章 DOSODIドライバのインストール	51
DOSODIドライバについて	51
NetWareシェルのアンロードについて (PC-9821)	51
パラメータ値について	52
INTオプション(ハードウェア割り込み)	52
FRAMEオプション(フレームタイプ)	52
PORTオプション(ポート)	52
MEMオプション(メモリバンク) (DOS/V i82365 直接制御のみ)	52
SLOTオプション(カードスロット)	52
PCIC BASEオプション(DOS/V i82365直接制御のみ)	52
NetWare4.1Jでのインストール	53
インストールディスクの準備	53
インストーラの起動	53
ネットワークボードの選択	54
REX-R280の設定	55
インストールの続行	55
インストーラの起動	56
NetWare3.12Jでのインストール	56
インストールディスクの準備	56
ネットワークボードの選択	57
REX-R280の設定	58
インストールの続行	58
DOS用インストーラの起動	60
Personal NetWareでのインストール	60
インストールディスクの準備	60
ネットワークインターフェースカードの選択	61
REX-R280の設定	62
インストールの開始	62
Windows3.1用インストーラの起動	63
ユーザ名等の入力	63
ターゲットディレクトリ等の入力	64
その他のドライバの読み込み	64
1次ネットワークインターフェースカードの選択	65
その他の設定	65
REX-R280の設定	66
インストールの開始	66

NET.CFGファイルの位置について	67
NET.CFGの記述例	67
NET.CFGファイルの編集	67
NET.CFGファイルについて	67
Windows3.1用オプション	68
ネットワーク接続/切離用バッチファイルの編集	69
接続用バッチファイルの作成	69
切離用バッチファイルの作成	70
TCP/IPプロトコルを使用する場合のNET.CFG記述例	71
NetWareとの共存を行わない場合	71
NetWareとの共存を行う場合	72
アライドテレシス(株) 製CentreNet PC/TCPでの例	73
ドライバの表示メッセージ	77
パラメータ値について	80
INTERRUPTオプション(ハードウェア割り込み)	80
第9章 NDISドライバのインストール	80
NDISドライバについて	80
IOBASEオプション(I/Oベースアドレス)	81
MEMBASEオプション(メモリウインドウ)	81
SOCKETオプション(ソケット番号)	81
BEEPオプション(カード挿入時のビープ音)	81
TXEVENPADオプション(偶数パディング)	81
NODEオプション(ローカルノードアドレス)	81
PCIC BASEオプション(DOS/V i82365直接制御のみ)	81
日本語MS LANマネージャ v2.1でのインストール	82
インストールディスクの準備	82
インストーラの起動	82
インストールの開始	82
LANドライバのコピー	83
インストールの完了	84
パラメータの設定	84
システムの再起動	84
LANマネージャのアップデート (PC-9821)	84
ドライバパラメータの再設定	85
設定の変更	85
CHAMELEONでのインストール	86
インストールディスクの準備	86
インストーラの起動	86
シリアル番号等の入力	86
Customのハードウェア設定	87
NDISドライバのコピー	88
CHAMELEONでの設定ファイル例	88
エラーメッセージについて	88

第10章	パケットドライバのインストール	89
	パケットドライバについて	89
	パケットドライバのインストール	89
	ドライバのコピー	89
	ドライバのパラメータ	90
	パケットドライバの起動確認	92
	ドライバのロード	92
	ドライバのアンロード	92
	PC/TCPのセットアップ	93
	アライドテレシス(株)製 CentreNET PC/TCPでの例	93
	Pingユーティリティによる動作確認	95
	ドライバの表示メッセージ	95
第11章	PCMCIAデバイスドライバについて	98
	「カードサービス」について	98
	「DATABOOK CardTalk」について	99
	カードサービスがない場合	100
	別途カードサービスを用意する	100
	カードサービスを使用しない (DOS/Vのみ)	100
	PCMCIAコントローラ(i82365)の確認方法(DOS/V)	101
第12章	診断プログラムの使用方法	102
	ループバックテスト(NICUT)	102
	割り込みを使用しないループバックテスト	102
	割り込みを使用するループバックテスト	103
第13章	Macintoshでのインストール	104
	PC Card Manager 3.0の確認 (Mac OS 7.6.1 以前)	104
	ドライバのインストール	104
	その他のデバイスに? PCMCIA Cardがある場合	107
	LSL実行時Ver2.11以上で実行してくださいとなる場合	107
	ダウンロードした最新ドライバを組み込めない場合	107
第14章	トラブルシューティング	107
	AppleTalkの経路先にREX-R280が表示されないとき	108
	他のWindows パソコンを参照できないとき	108
	カードアイコンの名前が10BASE-T CARD R280となるとき	108
	REX-R280をクリックするとフォーマットしますかとなるとき	108
第15章	付録	109
	LAN PC カードの仕様	109
	デスクトップパソコンでREX-R280シリーズを使用する場合	110
	ネットワークに関する設定例	111
	CardWizard (CardWorks) がインストールされている場合のセットアップ方法	127

このたびはREX-R280 PC Card LANアダプタをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。この製品はネットワーク環境をノートパソコンで実現できるように設計されたPCMCIAスロット専用のLAN PCカードです。今後も各ドライバのバージョンアップなど、より一層のサポートを充実していきますので末永くご愛用賜りますようお願い申し上げます。

本書は、REX-R280シリーズの導入ならびに運用方法を説明したマニュアルです。REX-R280シリーズを正しくお使い頂くため、ご使用前に必ず本書をよくお読みください。

また、添付ディスクに入っている「READMEファイル」、および「はじめにお読みください」には本マニュアルに記載できなかった情報がありますので合わせてご覧ください。最新の動作検証機種、ドライバについては弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

ご注意

本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤りなどにお気づきになりましたらご連絡願います。



運用の結果につきましては、責任を負いかねますので、予めご了承ください。

本製品の保証や修理に関しては、添付の保証書に記載されております。必ず内容をご確認の上、大切に保管してください。

本製品および本製品添付のマニュアルに記載されている名称・会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

このユーザーズマニュアルには、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止し、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項が示されています。表記と記号の意味は次のようになっています。内容を理解してからお読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いを行うと人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いを行うと人が負傷を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。



警告



分解禁止: 発火のおそれがあります

PCカードや添付ケーブルの分解や改造等は絶対に行わないでください。また、無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものをのせることは行わないでください。



警告

煙が出たり、変な臭いがする場合は、だだちにパソコンや周辺機器の電源を切り、電源ケーブル等もコンセントから抜いてください。

必ず、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。



警告

PCカードや添付ケーブルが濡れた場合、ショートによる火災や感電のおそれがあるため使用しないでください。

必ず、販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。



注意

PCカードは電子機器ですので静電気を与えないようにしてください。

故障するおそれがあります。



注意

ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与え誤動作することがあります。



注意

モータなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してご使用ください。



注意

本製品(ソフトウェアを含む)は、日本国内仕様です。日本国外で使用された場合の責任は負いかねます。



注意

本製品は、医療機器、原子力機器、航空宇宙機器、輸送設備など人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備、機器での使用は意図されておりません。これらの設備、機器制御システムに本製品を使用し、本製品の故障により人身事故、火災事故などが発生しても弊社ではいかなる責任も負いかねます。

保管に関するご注意:

本製品を保管する場合、PCカードスロットから外し添付のケースに保管してください。また、故障の原因となりますので次のような場所での保管は避けてください。

直射日光の当たる場所や異常に温度が高くなる場所、暖房器具等の近く、

温度差の激しい場所

チリやほこり、湿気の多い場所

振動や衝撃の加わる場所

製品に関するお問い合わせ

本製品に関するご質問等がございましたら、下記まで電話、手紙またはFAXでお問い合わせください。

ラトックシステム株式会社 サポートセンター

〒556-0012

大阪市浪速区敷津東1 - 6 - 14 朝日なんばビル

TEL 06-633-6766

土日祝を除く月～金の10:00～17:00

FAX 06-633-3553

FAXでの受け付けは24時間行っております。

インターネットのホームページでも最新の情報などをお届けしています。

ラトックシステムのホームページアドレス

<http://www.rexpccard.co.jp>

また、NIFTY Serveの以下のフォーラムでも受け付けております。

NIFTY Serve PC Vendor Station E (SPCVE)

電子会議室8番「ユーザサポート」

お問い合わせの際には、最後のページの「質問用紙」に必要事項を記入の上、上記FAX番号までお送りください。折り返し弊社より電話またはFAXにて回答させていただきます。

また、ご質問に対する回答は上記営業時間内の処理となりますのでご了承ください。

ご質問の内容によってテスト・チェック等の関係上、時間がかかる場合がありますのでご了承ください。

サポートに関する物品の送料等はおお客様負担となりますので、予めご了承ください。

空白ページ

第1章 REX-R280シリーズについて

REX-R280シリーズはOADG仕様のパーソナルコンピュータ、日本電気株式会社製(NEC)パーソナルコンピュータPC-98NOTEシリーズおよびMacintoshのPC Card Standard以降のPCカードスロットに装着するように設計された、PCカード型のLANアダプタです。

本カードは、LAN(ローカルエリアネットワーク)で標準となっているIEEE802.3(draft10)準拠の通信ポートを装備しており、以下の特徴があります。

PC Card Standard仕様のPCカードスロット内に装着するため、ノート型パソコンの省スペース性を損なうことなくネットワークが使用できます。

本カードから接続ケーブルを外すだけでパソコンを移動できるため、ネットワークとの接続・取り外しが簡単で、ノート型パソコンの携帯性を損ないません。

カードと接続ケーブルの接続部には脱落防止ロックが付いており、不用意な断線がないためネットワークを安心してご使用いただけます。

新開発のLANコントローラチップの採用により低消費電力を実現。バッテリー駆動時の負担を軽減します。

対応パソコン

本製品は、PC Card Standard以降のPCカードスロットを装備している以下のパソコンに対応しています。

- ・PC/AT 互換機
- ・NEC PC98-NXシリーズ
- ・NEC PC-9821シリーズ
- ・EPSON PC-486/586 Noteシリーズ
- ・Macintosh Power Book G3,3400,2400シリーズ

ただし、一部の機種では制限があったり正常に動作しない場合もありますので、メーカー名・機種型番の詳細については弊社サポートセンターに直接ご確認ください。

対応OS (オペレーティングシステム)

本製品は、以下のOS(オペレーティングシステム)に対応しています。

- ・Windows 95,95a
- ・Windows 95B(OSR2)
- ・Windows NT 3.5
- ・Windows NT 3.51/4.0
- ・DOS 6.2 以上
- ・Windows 3.1 以上
- ・Mac OS 7.6, Mac OS 7.6.1, Mac OS 8, 8.1

第1章 REX-R280シリーズについて

添付品

本製品にはLANアダプタ以外に以下のものが添付しています。

10BASE-Tコネクタ付ケーブル(1.5m)	×1
10BASE-Tケーブル延長用コネクタ	×1
ドライバソフトウェア	×1
ドライバソフトウェア for Mac	×1
マニュアル	×1
ご愛用者登録カード(はがき) / 保証書(注1)	×1

(注1).ご愛用者登録カードは保証書を切り離した後、必要事項を記入の上必ずご返送ください。ご返送頂けない場合、バージョンアップなどのサポートサービスは受けられませんのでご注意ください。

添付ソフトウェア (提供ソフトウェア)

本製品に添付のドライバソフトウェアディスクには次のソフトウェアが含まれています。

Windows 95用 NDISドライバ
Windows NT 3.5x/4.0用 NDISドライバ
DOS ODIドライバ
NDIS 2ドライバ
診断テストプログラム

また、インターネット等より、次のソフトウェアはダウンロードできるように用意されています。

Client32 for Windows 95, 3.1, DOS, Server用 386ODIドライバ
Packet Driver

フロッピーディスク内のディレクトリ階層構造やファイル名については同ディスク内のREADMEファイルをノートパッド等を使用して確認してください。

READMEファイルにはマニュアルに記載できなかった最新情報がありますので必ずご覧ください。

制限

本製品はほとんどのドライバを収めてありますが、ディスクスペースの都合上、EPSON 98 互換機対応のドライバ、およびClient32用ドライバを省略してあります。たいへん恐れ入りますが、NIFTY,またはインターネットよりドライバをダウンロードしていただくようお願いします。

第2章 LAN PCカードのセットアップ

LAN PCカードをネットワークに接続して使用するには次のインストール作業が必要です。
DOS/Windows 3.1で使用する場合、「第7章 DOS/Windows 3.1での使用方法」を参照願います。
Macintoshで使用する場合、「第13章 Macintoshでのインストール」を参照願います。

1. LAN PCカードを装着する。

Windows 95 または Windows NT を起動して、LAN PCカードをパソコン本体のPCカードをスロットへ装着します。詳しくはこの章の「LAN PCカードの装着」をご覧ください。



2. 必要なドライバを登録をする。

添付フロッピーのドライバディスクからドライバを読み込ませます。詳しくは、「第3章 Windows 95でのインストール」、「第5章 Windows NT3.5Xでのインストール」、「第6章 Windows NT 4.0でのインストール」をご覧ください。



3. LANケーブルの接続

使用するサーバ・HUB等への接続を行います。詳しくはこの章の「LANケーブルの接続」をご覧ください。



4. Windows 95の再起動

Windows 95 または Windows NT を再起動してください。

ご使用になる環境によりましては、本書の手順通りインストールできない場合もありますので予めご了承ください。

NetWare Client32 for Windows 95でLAN PCカードを使用する場合は、先にClient32 for Windows 95をインストールする必要があります。詳しくは「第4章 Client32 for Windows95でのインストール」を参照してください。

第2章 LAN PCカードのセットアップ

PCカードスロットの電源供給の確認

PCカードスロットの電源供給のオン・オフ設定ができる機種では、電源が供給されるような設定になっていることを確認してください。

多くの機種では、この設定はセットアップやパワーセーブ機能の中の項目にあります。例えばIBM ThinkPadでは、[ThinkPad機能設定]プログラムの[カードスロット]項目で[電源供給する]になるように設定します。

PCカードスロットに電源が供給されていない状態では、PCカードが全く使用できませんのでご注意ください。

オートパワーダウン機能での注意

ノートパソコンでは、設定された時間内に何も操作がなかった場合に自動的にパソコン本体の電源を落とす機能(オートパワーダウン機能)を備えたものがあります。パソコンの機種によっては、この機能が働いた時にPCカードスロットへの電源供給も止める場合があります。仮にREX-R280でネットワークに接続中にこのような状態になると、再びPCカードスロットに電源が供給されてもサーバへアクセスできない状態になったり、ネットワーク障害を引き起こす可能性があります。またNetWareサーバに接続している場合、約15分クライアントが応答しない時には接続が切り放されます。このような不具合を回避するために必ずオートパワーダウン機能が働かないようにパソコン本体を設定してください。

LAN PCカードのPCカードスロットへの装着

パソコンを起動し、パソコン本体添付のマニュアルに従ってREX-R280をPCカードスロットに装着してください。通常の場合、PCカードの「REX-R280」と表記されている面を上にしてゆっくりと水平に挿入します。

Windows 95の場合

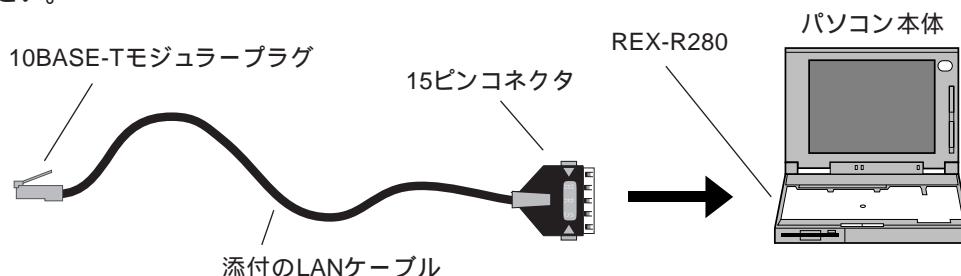
初めてREX-R280を装着した場合、「新しいハードウェア」ウインドウが表示されます。この場合、後述第3章内の「ドライバのインストール(新しいハードウェア)」の説明に従って本製品添付フロッピーディスクからドライバを読み込ませてください。また「デバイスドライバウイザード」ウインドウが表示される場合もあります。この場合、後述第3章内の「ドライバのインストール(デバイスドライバウイザード)」の説明に従ってください。

FDDがPCカードスロット接続の場合

PCカードスロットが1スロットでしかもフロッピーディスクドライブがPCカード接続のパソコンでは、直接フロッピーディスクからのインストールはできません。この場合、REX-R280をPCカードスロットへ装着する前に、あらかじめ本製品添付のフロッピーディスクの内容をパソコン本体内蔵のハードディスクへコピーします。その後、REX-R280を装着してパソコン本体内蔵のハードディスクからドライバを読み込ませてください。

LANケーブルの接続

本製品添付のLANケーブルの大きい方のコネクタ(15ピンコネクタ)をREX-R280に差し込んでください。



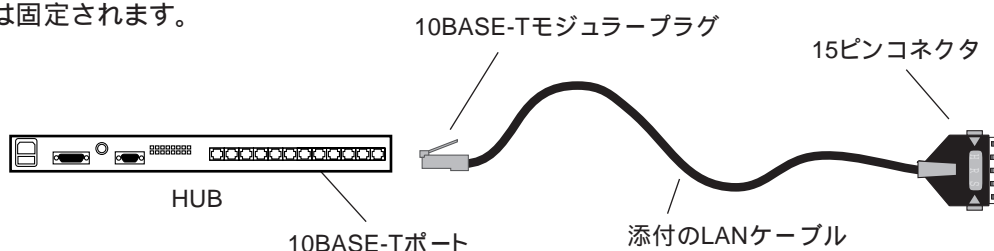
LANケーブルを取り外す場合の注意

LANケーブルの15ピンコネクタをPCカードから取り外す場合は、コネクタ両側の金具を押さえながら取り外してください。

金具を押さえずに無理にコネクタを外すとPCカードやコネクタが破損するおそれがあります。この場合、保証対象外となりますので注意してください。

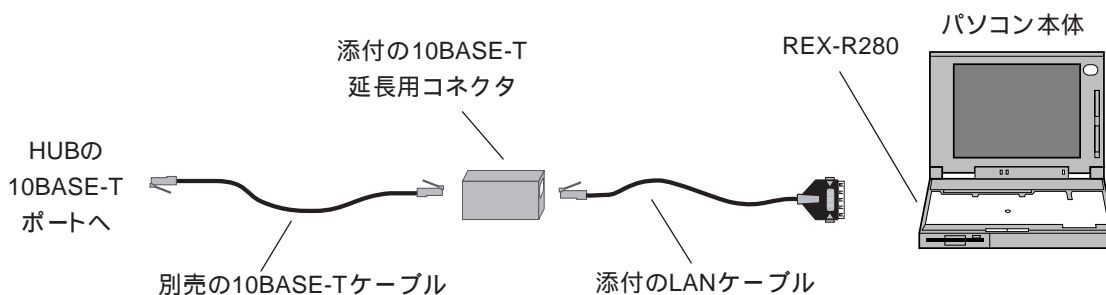
HUBへの接続

本製品添付のLANケーブルのモジュラープラグ部を、HUBの10BASE-Tポートに接続します。そのまま「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。最後まで差し込まれるとそのままケーブルは固定されます。



HUBまでの距離が離れている場合

使用するHUBまでの距離が離れている時、本製品添付のLANケーブルでは届かない場合があります。この場合は本製品添付の10BASE-T延長用コネクタと別売の10BASE-Tケーブルを使用してHUBと接続してください。



第3章 Windows 95でのインストール

ここではWindows 95上でREX-R280シリーズを使用する場合のインストール方法を示します。まずご使用のパソコンにWindows 95をインストールしてください。インストール方法はWindows 95のインストールガイド等を参照してください。また、本書以外にもWindows 95に含まれるREADMEファイルやHELPファイルでPCカード、ネットワークに関する記述があります。そちらの方も合わせてご覧ください。

ドライバのインストール(新しいハードウェア)

LAN PC Card REX-R280シリーズをWindows 95で使用する場合の実際のインストール手順を示します。(このインストール手順はDOS/V機を想定して記述してありますのでPC-98の場合はドライブ名が異なります)

ここではWindows 95上でREX-R280シリーズをインストールする場合に「新しいハードウェア」ウィンドウが表示される場合のインストール方法について説明します。

(1).ご使用のパソコンでWindows 95を起動し、PCカードスロットへREX-R280を挿入します。このとき新しいハードウェアを登録するためのウィンドウが表示されます。

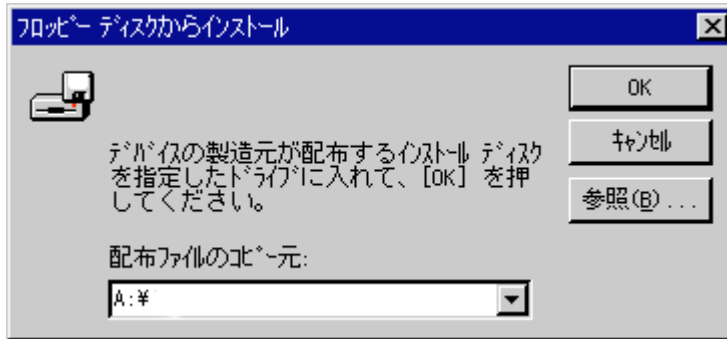
このとき「デバイスドライバのインストール」ウィンドウが表示される場合、後述の「ドライバのインストール(デバイスドライバウィザード)」の説明に従ってください。

ここで「ハードウェアの製造元が提供するドライバ」を選択して「OK」ボタンをクリックします。



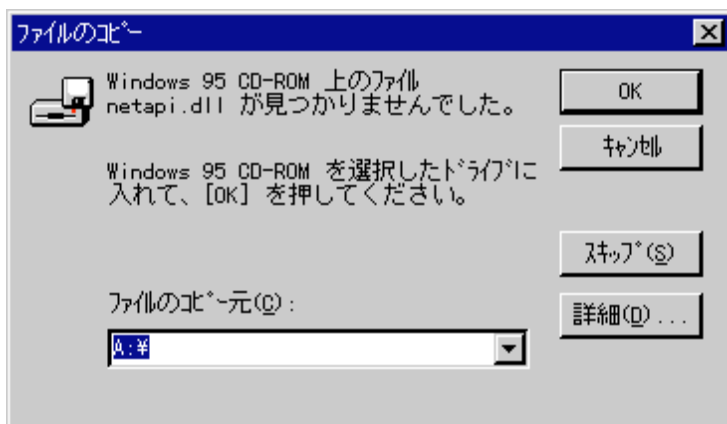
(2).次にドライバの入ったディスクを指定するウィンドウが表示されます。ここで本製品に添付しているドライバディスクをフロッピードライブに挿入し、「配布ファイルの北元」欄にディスクを挿入したドライブ名とディレクトリ名を入力して「OK」をクリックします。ディレクトリ名は以下のように指定します。

使用パソコン	ディレクトリ名
PC AT互換機(DOS/V)	¥WIN95¥AT
PC-9821シリーズ	¥WIN95¥98
PC-9821Ne	¥WIN95¥98¥PC9821NE
EPSON 98互換機	¥WIN95¥EP



パソコン本体がPC-9821Neの場合のみ「¥WIN95¥98¥PC9821NE」を指定してください。「¥WIN95¥98」を指定した場合、動作の保証は致しかねます。(この指定はPC-9821Neの場合のみで、PC9821Ne2、Ne3の場合は、「¥98」を指定します) また、パソコン本体がPC-9821Ne以外の時に「¥WIN95¥98¥PC9821NE」を指定した場合も動作の保証は致しかねます。

- (3).ドライブ名とディレクトリ名を指定し、「OK」をクリックすると自動的にドライバが読み込まれます。現在、ネットワーククライアント・プロトコルなどの必要なドライバ・設定等が登録されている場合、この時点でネットワークが使用可能になります。
- (4).初めてネットワークをインストールしたときなどは、コンピュータ名・ワークグループ名等を設定するウィンドウが表示されます。次に「ファイルのドライブ」ウィンドウが表示され、Windows 95のCD-ROMを要求してきます(Windows 95のシステムフロッピーディスクを要求する場合があります)。この場合も表示されたメッセージに従ってください。

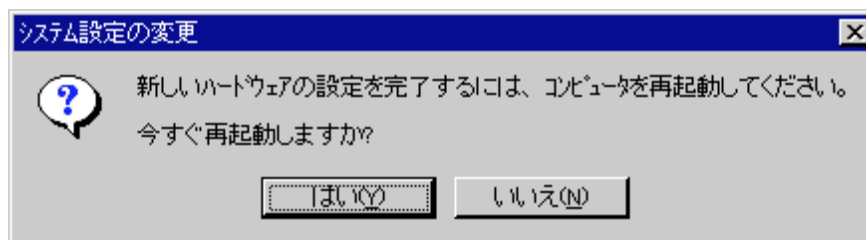


Windows 95 プレインストールモデルのパソコンの場合、「C:¥Windows¥Options¥Cabs」というディレクトリ名を指定してください。

- (5).CD-ROMやフロッピーを読み込ませた場合、以下のようなコピー状況を示すウインドウが表示されます。



- (6).また下のように再起動を要求してきた場合も、指示に従って再起動してください。



ドライバのインストール(デバイスドライバウィザード)

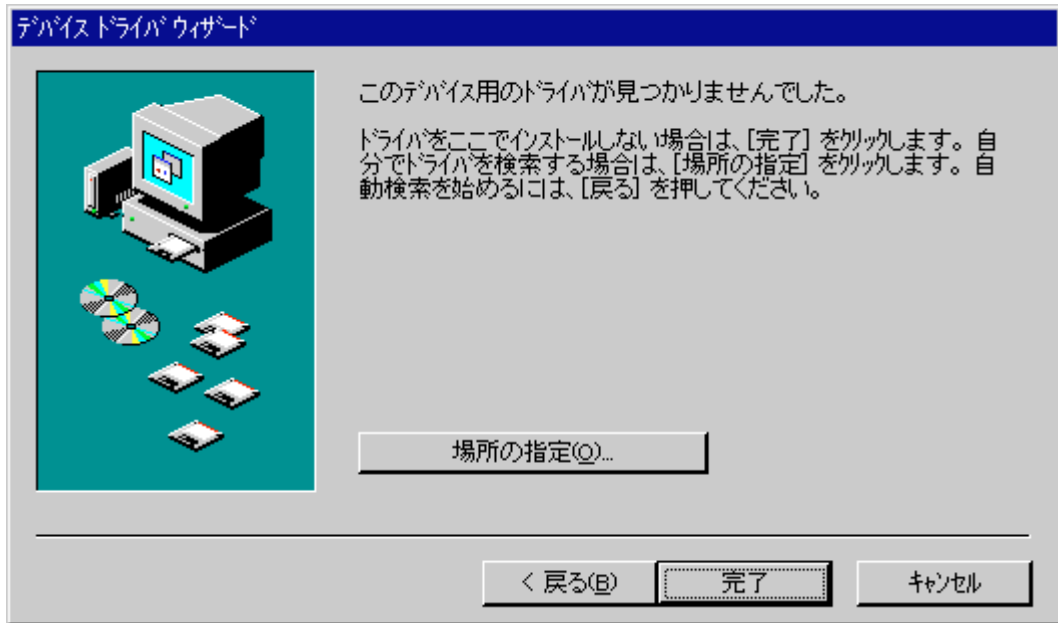
LAN PC Card REX-R280シリーズをWindows 95で使用する場合の実際のインストール手順を示します。(このインストール手順はDOS/V機を想定して記述してありますのでPC-98の場合ドライブ名が異なります)

ここではWindows 95上でREX-R280シリーズをインストールする場合に、「デバイスドライバウィザード」ウインドウが表示される場合のインストール方法について説明します。

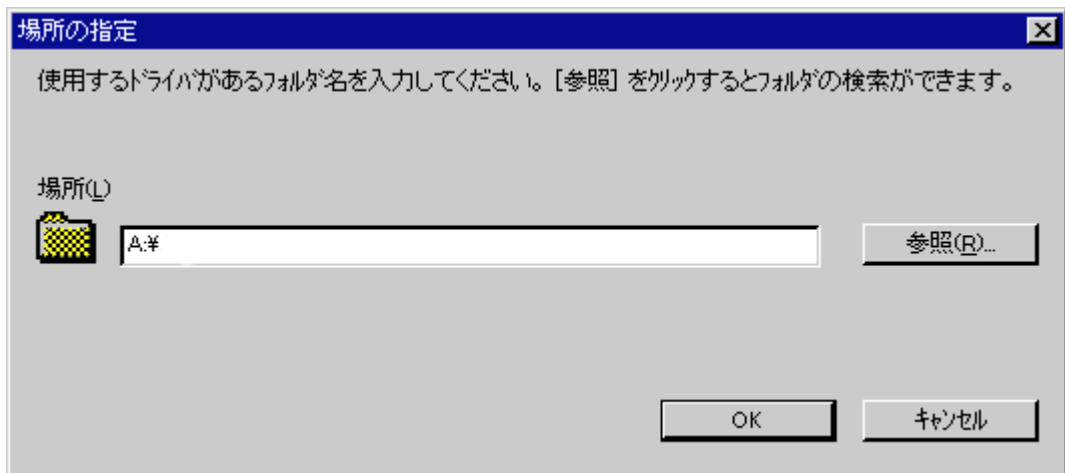
- (1).ご使用のパソコンでWindows 95を起動し、PCカードスロットへREX-R280を挿入します。このとき「デバイスドライバウィザード」ウインドウが表示されます。ここで本製品に添付しているドライバディスクをフロッピードライブに挿入し「次へ>」をクリックします。



(2) このとき「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした。」等のメッセージが表示されますので、ここでは「場所の指定(O)...」をクリックします。



(3) 下のウィンドウが表示されたら実際にドライバのあるディレクトリを指定します。「場所(L)」にドライブ名とディレクトリ名を入力して「OK」をクリックします。ディレクトリ名は以下のように指定します。



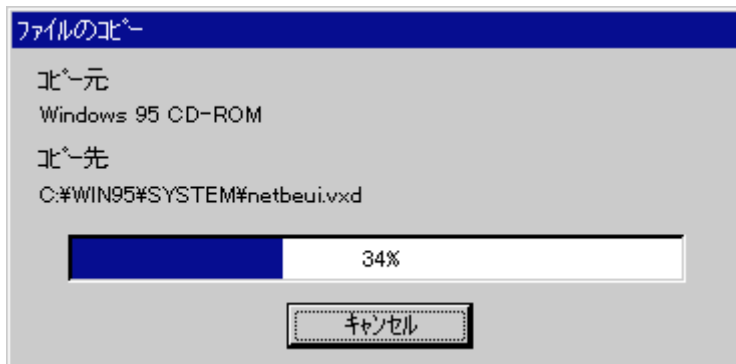
使用パソコン	ディレクトリ名
PC AT互換機(DOS/V)	¥WIN95¥AT
PC-9821シリーズ	¥WIN95¥98

第3章 Windows 95でのインストール

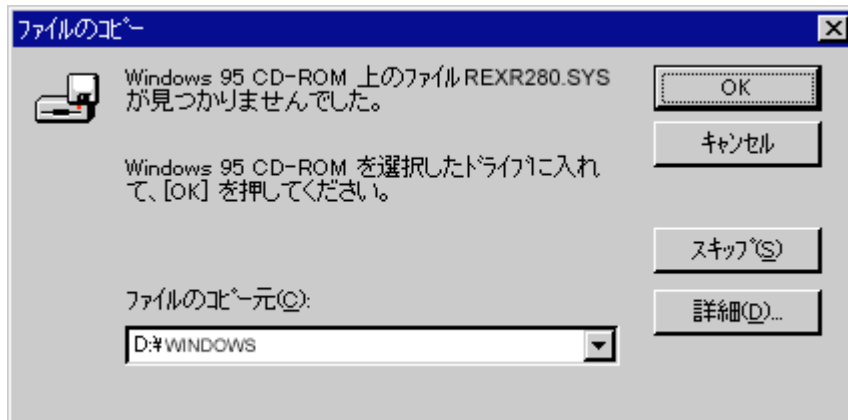
- (4). 指定のディレクトリを検索した後、下のウィンドウが表示されます。ここで「Network PC Card REX-R280」と表示されていることを確認して「完了」をクリックします。このウィンドウや「Network PC Card REX-R280」が表示されない場合、正しく「場所の指定(O)...」を入力し直してください。



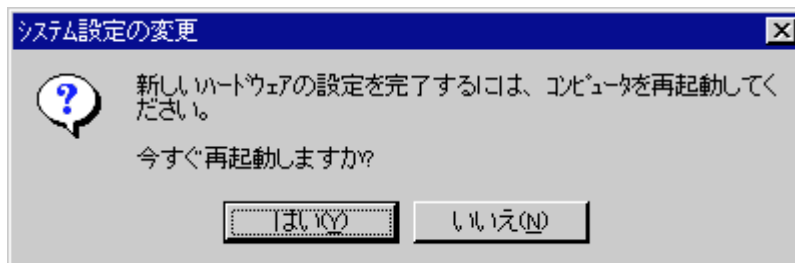
- (5). ネットワークのインストールが開始されWindows 95のCD-ROMを要求してきます。この場合表示されたメッセージに従ってください。ファイルのコピー中等は下のウィンドウが表示されます。



- (6).ファイルのコピー中に下のウインドウが表示されたら、先程入力したディレクトリ (A:¥WIN95¥AT C:¥WIN95¥98など)をもう一度入力し「OK」をクリックします。



- (7).下のウインドウが表示されたら指示に従い再起動してください。現在、ネットワーククライアント・プロトコルなどの必要なドライバ・設定等が登録されている場合、この時点でネットワークが使用可能になります。



このバージョンのWindows 95では「デバイス使用許可の切り替え」の項目が少し違います。この項目については、後述の「デバイス使用許可の切り替え(デバイスドライバウイザード)」を参照してください。それ以外の項目について(「ドライバの確認」, 「リソースの変更」, 「LAN PCカードの取り外し」, 「ドライバの削除」, 「ドライバの再インストールの手順」)は同様です。

ドライバの確認

ドライバが正しくインストールされているかの確認は以下の手順で行います。

(1).コントロールパネルのシステムを開きます。

「スタート」メニューから「設定(S)」「コントロール 板(C)」を選択し、コントロールパネル中の「システム」をダブルクリックします。

(2).デバイスマネージャを開きます。

「システムのプロパティ」ウィンドウから「デバイス マネージャ」タブをクリックしてください。デバイスツリー表示に切り替わります。この中に「ネットワーク アダプタ」がありますので、この項目の左の「+」をクリックして「Network PC Card REX-R280」が表示されていることを確認します。



登録されていない場合は次の確認をします。

「その他のデバイス」「不明なデバイス」等の項目の左の「+」をクリックして、誤って「Network PC Card REX-R280」が登録されていないかを確認します。ここに登録されている場合は全ての「Network PC Card REX-R280」を削除します。その後、ドライバの再登録を後述の「ドライバの再インストールの手順」に従って行ってください。

(3)「ネットワーク アダプタ」の項目に「Network PC Card REX-R280」が二つ以上登録されている場合も、全ての「Network PC Card REX-R280」を削除します。その後、ドライバの再登録を後述の「ドライバの再インストールの手順」に従って行ってください。

(4)「Network PC Card REX-R280」項目の先頭のアイコンに「!」、「×」、「?」表示があるかを確認します。

「×」表示がある場合、デバイスが使用できないように設定されています。この場合、後述の「デバイス使用許可の切り替え」に従ってデバイスを使用可能に設定してください。

「!」表示がある場合、リソースが競合しています。この場合、後述の「リソースの変更」に従ってリソースを設定してください。

ネットワークプロトコルのインストールの確認

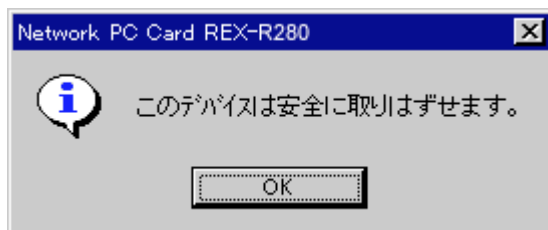
ドライバの確認が終了するとLANカード自体のインストールは完了ですが実際にネットワークに接続するには、追加でネットワークプロトコルのインストールおよび設定変更が必要となります。具体的な設定例については「第15章 付録」の「ネットワークに関する具体的な設定例」項目を参照してください。

LAN PCカードの取り外し

LAN PCカードを取り外す場合、Windows95のタスクバーにあるPCカードのアイコン「Network PC Card REX-R280 の中止」を選択します。(タスクバーにあるPCカードのアイコンを右クリックすると「Network PC Card REX-R280 の中止」が表示されますので、さらにカーソルを移動して表示を反転しクリックします。)

Network PC Card REX-R280 の中止

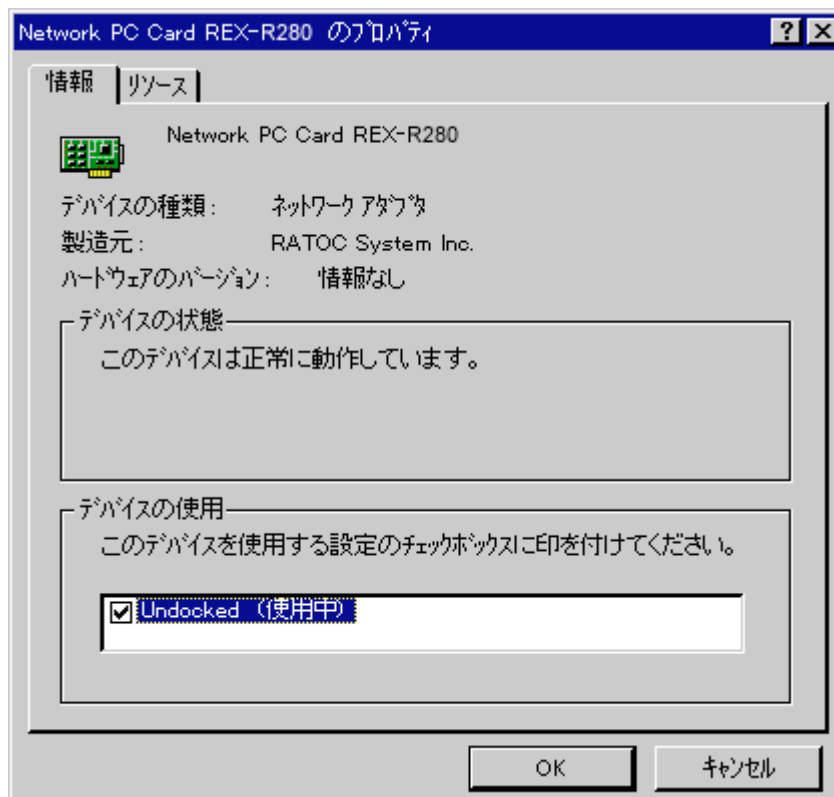
しばらくすると「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されますので、このあとでLAN PCカードを取り外してください。



デバイス使用許可の切り替え(新しいハードウェア)

ここではREX-R280シリーズの使用許可を切り替える方法を説明します。ただし、ここで説明するのはREX-R280シリーズをインストールした際に「新しいハードウェア」ウインドウが表示されるWindows95を使用している場合のものです。

- (1).前項の「ドライバの確認」と同様に、システムのデバイスマネージャのネットワークアダプタ・「Network PC Card REX-R280」を表示してください(前項を参照してください)。
- (2).「Network PC Card REX-R280」項目をダブルクリックしてプロパティウインドウを開きます。



- (3).このウインドウの「デバイスの使用」項目内に「 Undocked (使用中) 」チェックボックスがあります。このチェックを切り替えてデバイス(ネットワークアダプタ)の使用許可を決定します。チェックを付けた場合はデバイスは使用できる状態になります。チェックを消した場合はデバイスは使用できません。

デバイス使用許可の切り替え(デバイスドライバウイザード)

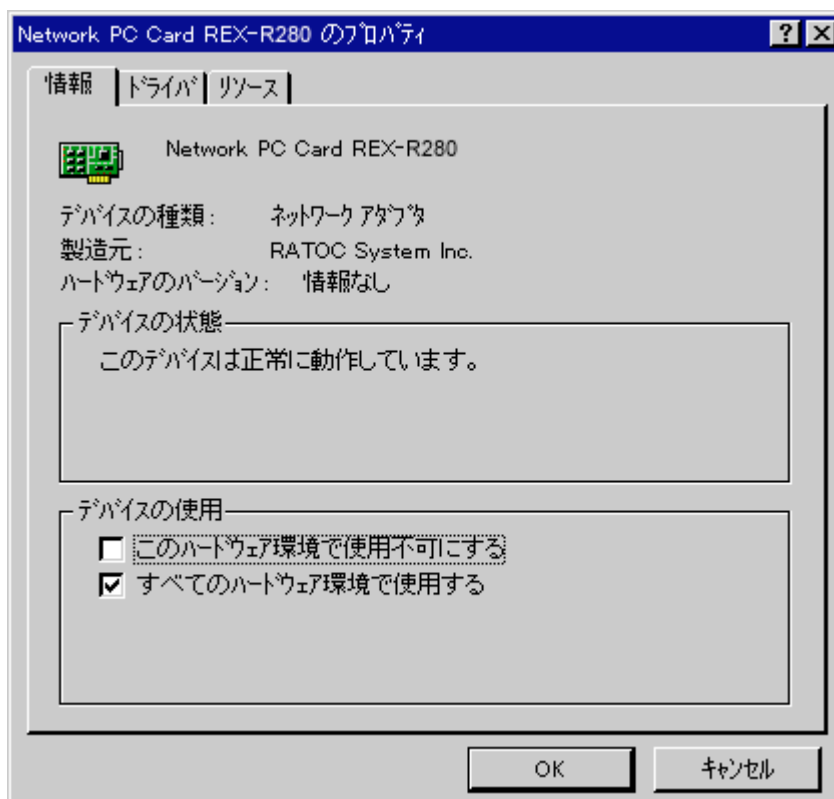
ここでもREX-R280シリーズの使用許可を切り替える方法を説明します。ただし、ここで説明するのはREX-R280シリーズをインストールした際に、「デバイスドライバウイザード」ウィンドウが表示されるWindows 95を使用している場合のものです。

(1).コントロールパネルのシステムを開きます。

「スタート」メニューから「設定(S)」、「コントロール(C)」を選択し、コントロールパネル中の「システム」をダブルクリックします。

(2).「第3章Windows 95でのインストール」の「ドライバの確認」と同様に、システムのデバイスマネージャのネットワークアダプタ・「Network PC Card REX-R280」を表示してください。

(3).「Network PC Card REX-R280」項目をダブルクリックしてプロパティウインドウを開きます。



(4).このウインドウの「デバイスの使用」内にある項目のチェックボックスを切り替えてデバイス(REX-R280)の使用許可を決定します。

「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェックを付けた場合はデバイスは使用できません。チェックを消した場合はデバイスは使用できる状態になります。

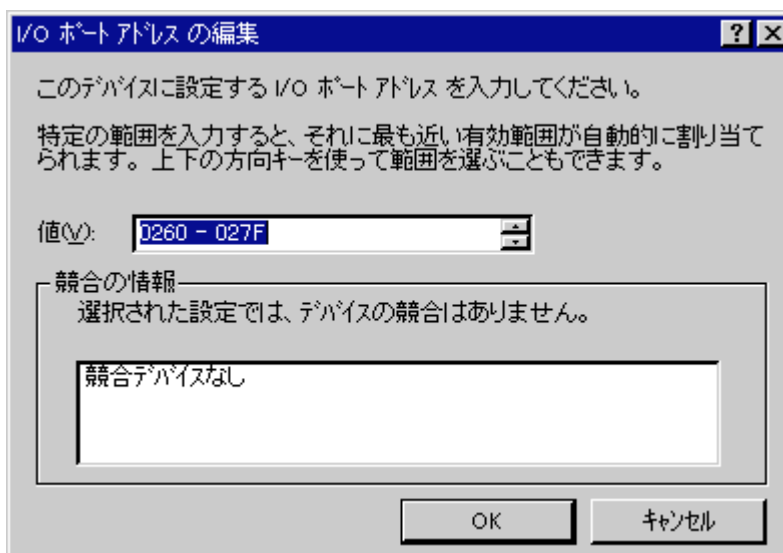
「すべてのハードウェア環境で使用する」のチェックを付けた場合は使用できる状態になります。チェックを消した場合はデバイスは使用できません。

リソースの変更

- (1).前項の「デバイス使用許可の切り替え」と同様に、ネットワークアダプタのプロパティウインドウを表示(前項を参照してください)し、上部の「リソース」タブをクリックします。



- (2).「設定の変更(C)...」ボタンをクリックして、他のデバイスと競合しない「I/O ポートアドレス」、「IRQ」を選択します。



- (3).「OK」ボタンをクリックしてプロパティウインドウを閉じます。再起動を要求された場合はメッセージに従ってください。

ドライバの削除

- (1)「ドライバの確認」と同様に、コントロールパネル内のシステムのデバイスマネージャを表示してください。その中のネットワークアダプタの左の「+」をクリックして「Network PC Card REX-R280」を表示してください。
- (2)「Network PC Card REX-R280」を選択(反転表示)して、「削除(E)」ボタンをクリックするか「DEL」キーを押します。

ドライバの再インストールの手順

ここではドライバのインストールがうまく行かない・カードを挿入してもWindows95がPC Cardを認識しない等の場合の再インストール方法について説明します。

デバイスツリーからの削除

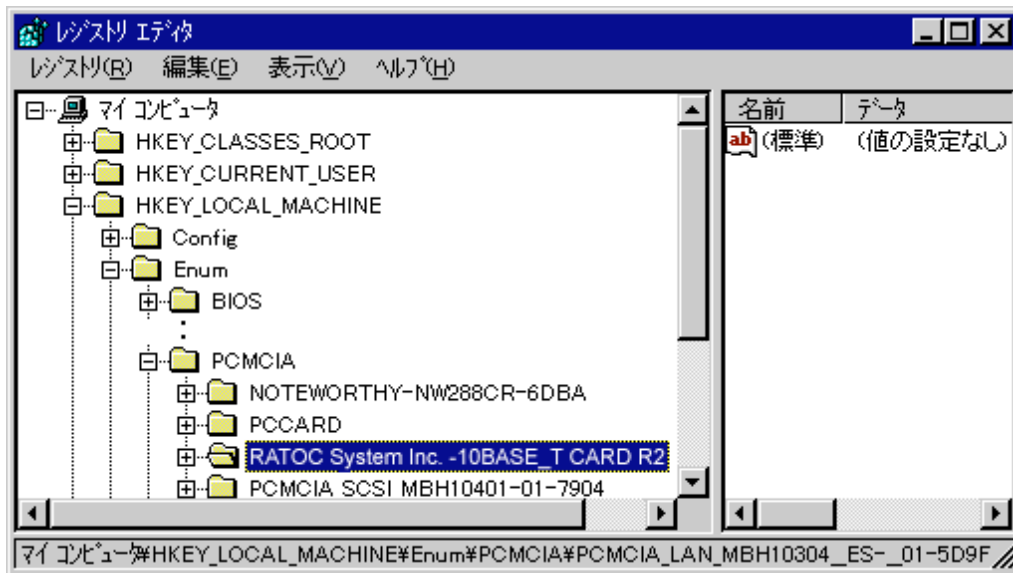
上記の「ドライバの削除」を参考にしてデバイスツリーから「Network PC Card REX-R280」を削除します。また「その他のデバイス」の中に「Network PC Card REX-R280」がある場合も同様に削除します。

ドライバファイルとINFファイルの削除

- (1)「マイコンピュータ」を開き「表示(V)」メニュー「オプション(O)...」を選択します。オプションダイアログの「表示」タグをクリックし、ファイルの表示から「全てのファイルを表示(S)」ボタンを選択してください。選択し終わったら「OK」をクリックします。
- (2)ドライバファイルを検索するために「スタート」メニューから「検索(F)」 「ファイルやフォルダ (F)...」を選択します。「名前(N):」フィールドに「REX*.SYS」と入力して「検索開始(I)」をクリックします。
- (3)「REXR280.SYS」が検索されたら、そのファイルを選択し「DEL」キーを押して削除します。
- (4)同様に検索ウインドウの「名前(N):」フィールドに「NETR280A.INF」と入力して「検索開始(I)」をクリックします。見つからない場合、(5)の作業は必要ありません。
- (5)「NETR280A.INF」が検索されたら、そのファイルの選択し「DEL」キーを押して削除します。このファイルが複数ある場合は全て削除します。
(PC-98の場合は「NETR280N.INF」、EPSON PCの場合は「NETR280E.INF」)

レジストリの削除

- (1).レジストリエディタを起動するために「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行(R)...」を選択します。表示されたウィンドウの「名前(O):」フィールドに「REGEDIT」と入力し、「OK」をクリックします。
- (2).レジストリエディタウィンドウが表示されたら「HKEY_LOCAL_MACHINE」「Enum」「PCMCIA」の順に開きます。ここに現在までに使用したPCMCIAの種類が登録されています。この中の文字列の最初が「RATOC System Inc. -10BASE_T CARD R280...」と一致するものがある場合は、その行を選択し「DEL」キーを押して全て削除します。全て削除し終わったらレジストリエディタを終了します。



以上の作業でドライバが完全に削除されました。一度再起動しなおしてから「ドライバのインストール」に従ってドライバをインストールしてください。

第 4 章 Client32 for Windows 95 でのインストール

ここではNetWare Client32 for Windows 95上でREX-R280シリーズを使用する場合のインストール方法を示します。まずご使用のパソコンにWindows 95をインストールしてください。インストール方法はWindows 95のインストールガイド等を参照してください。また、本書以外にもWindows 95に含まれるREADMEファイルやHELPファイルでPCカード、ネットワークに関する記述があります。そちらの方も合わせてご覧ください。

Client32 for Windows 95をインストールする場合、一度仮のドライバをインストールする必要があります。実際のインストール手順を以下に示します。

Client32システムのインストール

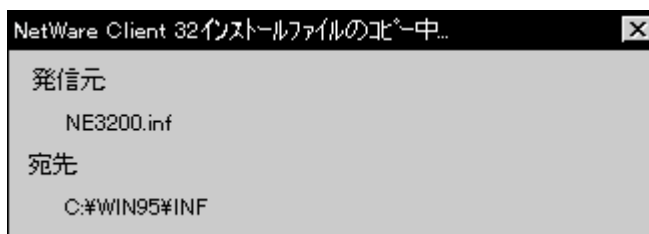
LAN PC Card REX-R280シリーズをClient32 for Windows 95で使用する場合の実際のインストール手順を示します。まず最初にClient32システムをインストールします。(このインストール手順はDOS/V機を想定して記述してあります)

Client32インストーラの起動

(1).ご使用のパソコンでWindows 95を起動します。このときREX-R280を装着する必要はありません。次にClient32 for Windows 95のセットアッププログラムを起動してください。下のようなウィンドウが表示されますので「NDIST[®]ドライバ[®]をODIに自動アップグレード(U)」のチェックを外し、「開始(S)>」をクリックします。



(2).順次ファイルのコピー・ドライバ情報データベースの作成等を自動的に行います。



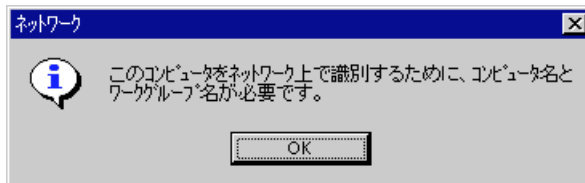
仮のドライバ選択

ここでは一旦仮のドライバを登録します。「製造元(M):」が「検出されたネットワークドライバ」で「モデル(D):」が「既存の Ndis2 ドライバ」を選択して「OK」をクリックします。

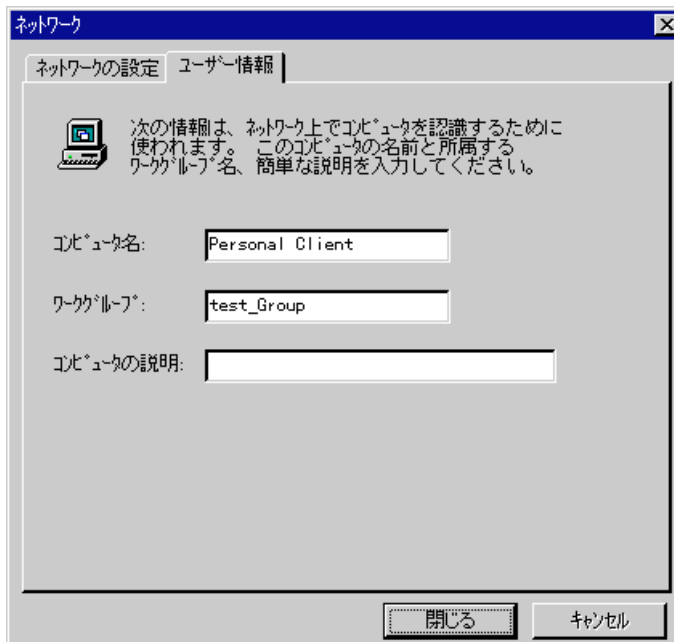


ネットワークの設定

(1).初めてネットワークを使用する場合、パソコンに対してコンピュータ名とワークグループ名を設定する必要があります。「OK」をクリックして指示に従ってください。

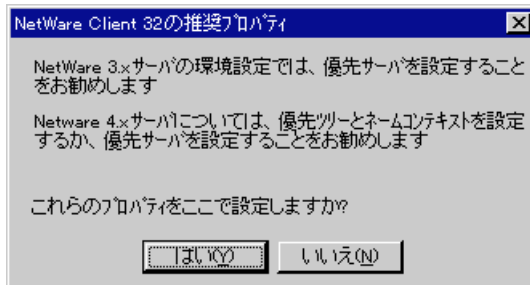


(2).コンピュータ名とワークグループ名を入力し、「閉じる」をクリックします。



接続するサーバ情報の設定

- (1).下のウィンドウが表示されると接続するサーバの情報を設定することができます。ここで設定する場合は「はい(Y)」をクリックして指示に従ってください。また、この設定は後から変更することもできるのでサーバ情報が分からない場合等は「いいえ(N)」をクリックします。

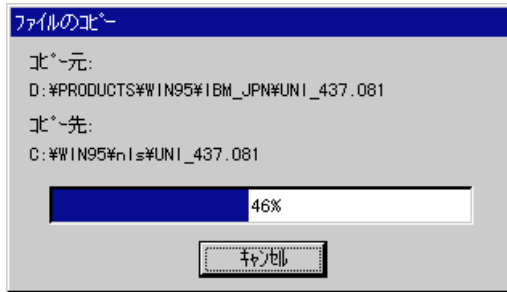


- (2).「Client 32」の「ログイン」の「デフォルトキャプチャ」の「詳細設定」タブ内の必要な項目を設定して「OK」をクリックします。

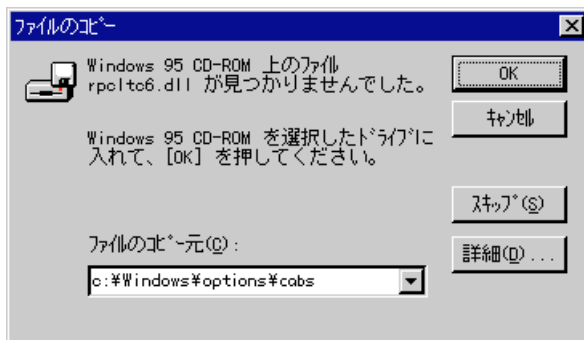


Client32ファイルのコピー

(1).自動的にClient32システムに必要なファイルが読み込まれます。

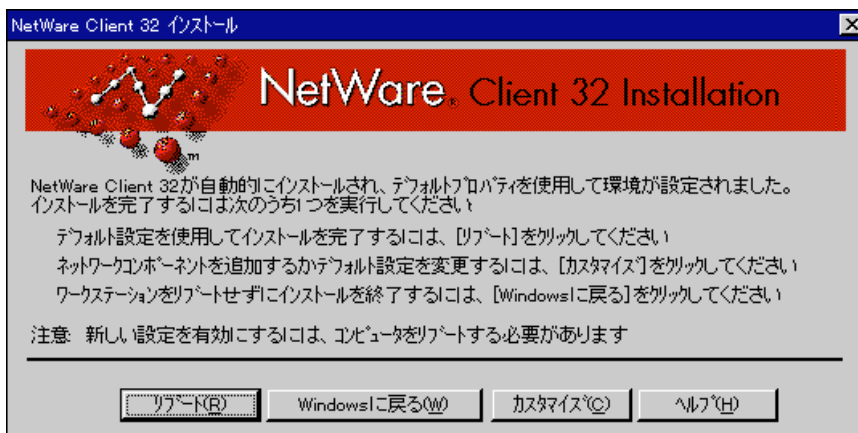


(2).途中で下のようにWindows 95のCD-ROMが要求されますので、Windows 95のCD-ROMをセットしドライブ名とディレクトリ名を入力して「OK」をクリックします。CD-ROMの場合は「D:\\$Win95」です(CD-ROMドライブがD:の場合)。Windows 95プレインストールモデルの場合、「C:\\$Windows\\$Options\\$Cabs」というディレクトリ名を指定してください。



システムの再起動

インストールが終了すると下のウインドウが表示されますので、指示に従い「リブート(R)」をクリックしパソコンを再起動してください。



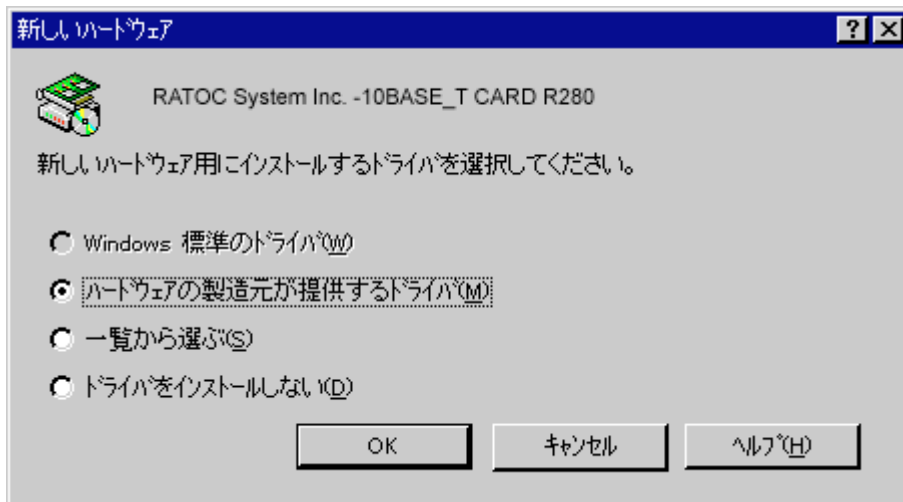
REX-R280ドライバのインストール

Windows 95を起動し、パソコン本体添付のマニュアルに従ってREX-R280シリーズをPCカードスロットに装着してください。Windows 95で初めてREX-R280シリーズを装着した場合、「新しいハードウェア」ウインドウが表示されます。この場合、後述の「ドライバのインストール(新しいハードウェア)」の説明に従って本製品添付フロッピーディスクからドライバを読み込ませてください。また「デバイスドライバウイザード」ウインドウが表示される場合もあります。この場合、後述の「ドライバのインストール(デバイスドライバウイザード)」の説明に従ってください。

ドライバのインストール(新しいハードウェア)

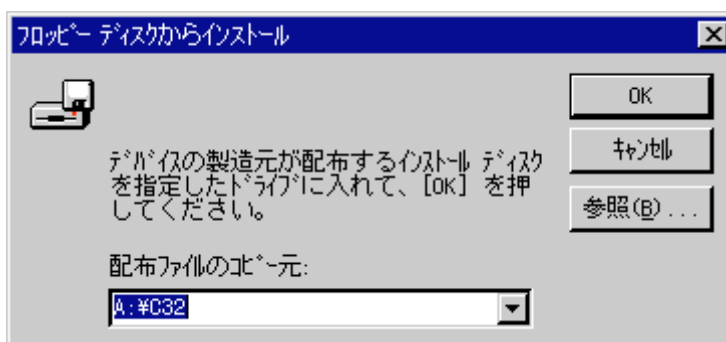
ここではWindows 95上でREX-R280シリーズをインストールする場合に、「新しいハードウェア」ウインドウが表示される場合のインストール方法について説明します。(このインストール手順はDOS/V機を想定して記述してあります)

- (1).下のように「新しいハードウェア」ウインドウが表示されましたら「ハードウェアの製造元が提供するドライバ(M)」を選択して「OK」をクリックします。



- (2).ここで本製品添付のドライバディスクをフロッピードライブに挿入し、「配布ファイルのルート」欄にディスクを挿入したドライブ名とディレクトリ名を入力して「OK」をクリックします。ディレクトリ名は以下のように指定します。

使用パソコン	ディレクトリ名
PC AT互換機(DOS/V)	¥C32
PC-9821シリーズ	¥C32
EPSON 98互換機	¥C32¥EP



- (3).インストール途中でClient32やWindows 95のCD-ROMを要求される場合があります。指示に従ってCD-ROM等を読み込ませてください。Windows 95プレインストールモデルのパソコンでWindows 95のCD-ROMを要求された場合、「C:\%Windows%\Options\Cabs」というディレクトリ名を指定してください。



- (4).REX-R280用のドライバを読み込むとWindows 95のウィンドウに戻ります。以上の手順でシステムの再起動後からネットワークを使用することができます。またシステムを再起動するよう要求された場合も、指示に従って再起動してください。

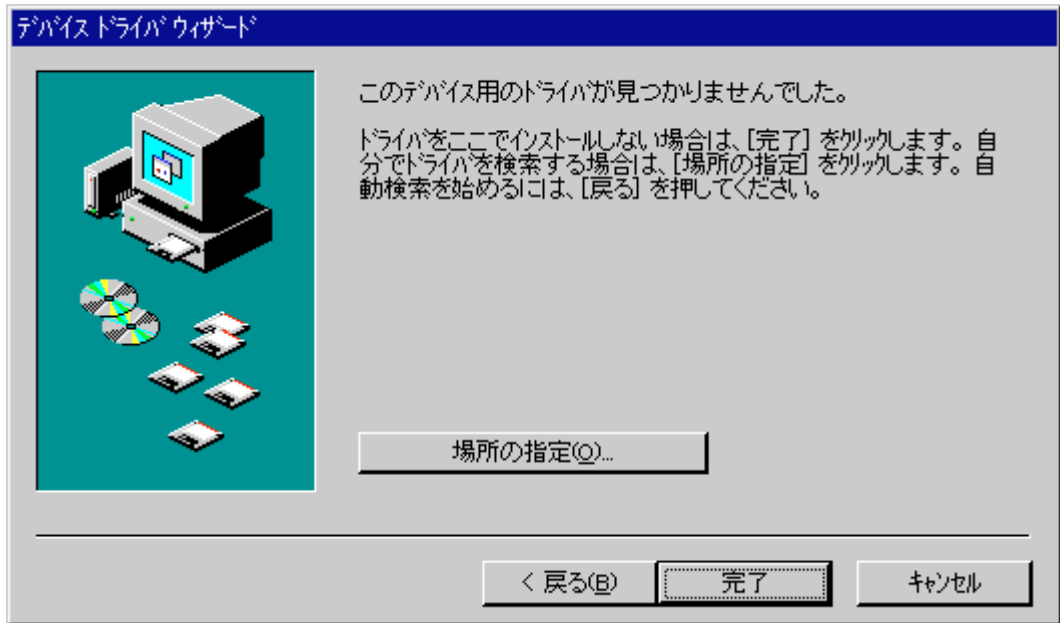
ドライバのインストール(デバイスドライバウィザード)

ここではWindows 95上でREX-R280シリーズをインストールする場合に、「デバイスドライバウィザード」ウィンドウが表示される場合のインストール方法について説明します。(このインストール手順はDOS/V機を想定して記述してあります)

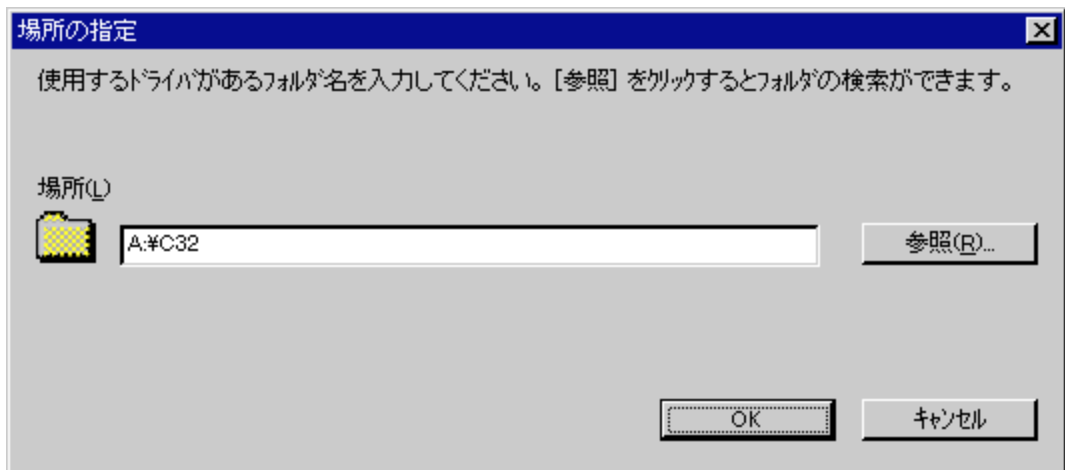
- (1).下のように「デバイスドライバウィザード」ウィンドウが表示されましたら、本製品に付属しているドライバディスクをフロッピードライブに挿入し「次へ>」をクリックします。



- (2) このとき「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした。」等のメッセージが表示されますので、ここでは「場所の指定(O)...」をクリックします。



- (3) 下のウィンドウが表示されたら実際にドライバのあるディレクトリを指定します。「場所(L)」にドライブ名とディレクトリ名「C32」を入力して「OK」をクリックします。ディレクトリ名は以下のように指定します。



使用パソコン	ディレクトリ名
PC AT互換機(DOS/V)	¥C32
PC-9821シリーズ	¥C32

第4章 Client32 for Windows 95でのインストール

- (4). 指定のディレクトリを検索した後、下のウィンドウが表示されます。ここで「LAN PC Card REX-R280」と表示されていることを確認して「完了」をクリックします。このウィンドウや「LAN PC Card REX-R280」が表示されない場合、正しく「場所の指定(O)...」を入力し直してください。



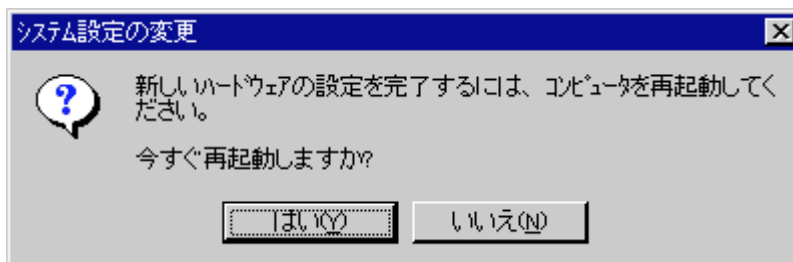
- (5). インストール途中でClient32やWindows 95のシステムディスクを要求される場合があります。この場合、指示に従ってCD-ROM等を読み込ませてください。Windows 95 プレインストールモデルのパソコンでWindows 95のCD-ROMを要求された場合、「C:\Windows\Options\Cabs」というディレクトリ名を指定してください。



- (6).ファイルのコピー中に下のウインドウが表示されたら、先程入力したディレクトリをもう一度入力し「OK」をクリックします。



- (7).下のウインドウが表示されたら指示に従い再起動してください。現在、ネットワーククライアント・プロトコルなどの必要なドライバ・設定等が登録されている場合、この時点でネットワークが使用可能になります。



NetWareログイン

Windows 95を起動したときにREX-R280を装着している場合、下のようなログインウィンドウが表示されます。「ログイン名(A):」等を入力して「OK」をクリックしてサーバにログインしてください。またWindows 95の起動後にREX-R280を挿入した場合、「スタート」メニューから「プログラム(P)」 「NOVELL」 「NetWare Login」を選択し、サーバにログインしてください。



その他「ドライバの確認」、「デバイス使用許可の切り替え」、「LAN PCカードの取り外し」、「リソースの変更」、「ドライバの削除」は「第3章 Windows 95でのインストール」内の項目を参照してください。なおこの場合、以下の表にしたがってモジュール名を読み替えてください。

第3章での記述	読み替え後の内容
REXR280.SYS	C32R280.SYS
NETR280A.INF	C32R280G.INF
NETR280N.INF	C32R280G.INF
NETR280E.INF	C32R280E.INF

第5章 Windows NT3.5xでのインストール

ここではWindows NT3.5x上でREX-R280シリーズを使用する場合のインストール方法を示します。まずご使用のパソコンにWindows NT3.5xをインストールしてください。インストール方法はWindows NT3.5xのインストールガイド等を参照してください。また、本書以外にもWindows NTに含まれるREADMEファイルやHELPファイルでPCカード、ネットワークに関する記述があります。そちらの方も合わせてご覧ください。

Windows NT3.5用ドライバはPCカードスロットの1stスロットのみサポートしています。使用するノートパソコンに複数のPCカードスロットが搭載されている場合、REX-R280を1stスロット側に挿入してください。(スロットが上下に並んでいる場合、ほとんどが下側)

Windows NT3.5xでは、Plug-and-Playがサポートされておりません。

Windows NT3.5x起動時にREX-R280がスロットに挿入されていないとネットワーク機能を使用できません。

Windows NT 3.51の場合、PCMCIAを有効にする必要があります。

ドライバのインストール

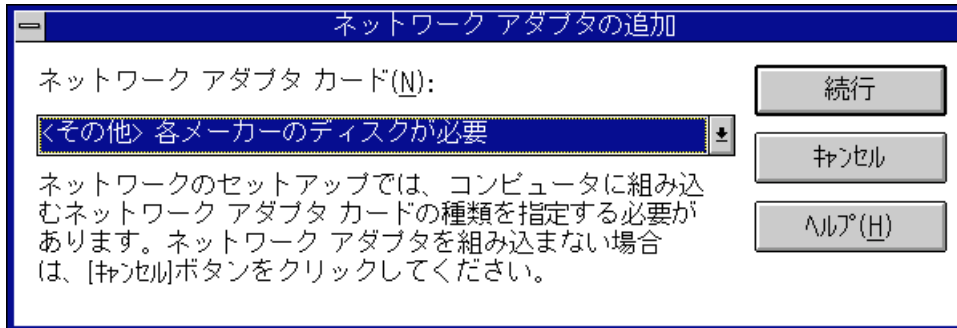
LAN PC Card REX-R280シリーズをWindows NT3.5xで使用する場合の実際のインストール手順を示します。(このインストール手順はDOS/V機を想定して記述してあります)

ネットワークアダプタのインストール

(1).ご使用のパソコンでWindows NTを起動します。このときREX-R280を装着する必要はありません。Windows NT3.5xを起動し、メインウィンドウのコントロールパネルより「ネットワーク」をダブルクリックして開きます。

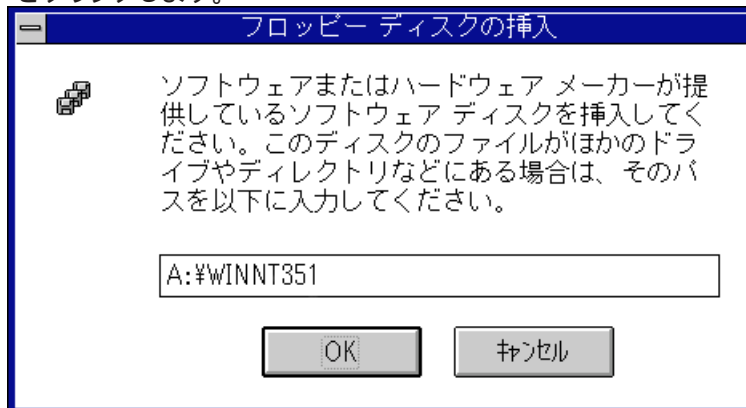


- (2)「ネットワークの設定」ウインドウより「アダプタカードの追加(P)...」をクリックします。しばらくすると次のようなウインドウが表示されます。



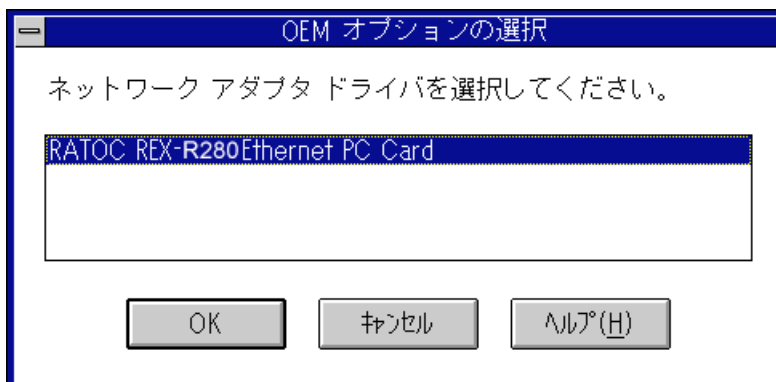
この「ネットワークアダプタカード(N):」入力で「<その他>各メーカーのディスクが必要」を選択し(入力欄の右側にあるポップアップメニューをクリックして選択します)、「続行」ボタンをクリックします。

- (3)次の「フロッピーディスクの挿入」ウインドウが表示されたらREX-R280添付のドライバディスクをドライブにセットし、「A:¥Winnt351」(NT3.5の場合は「A:¥Winnt350」)と入力して「OK」ボタンをクリックします。



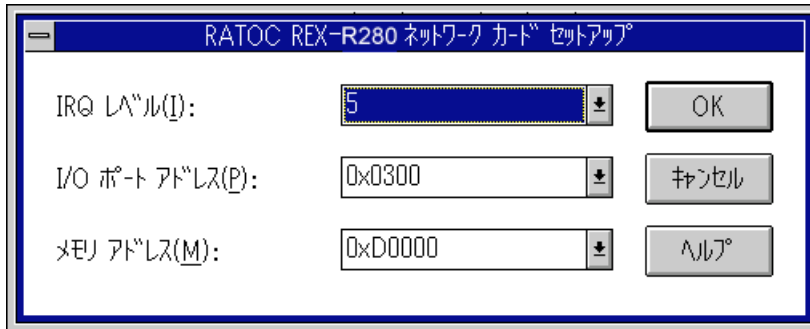
EPSON vividy Noteシリーズをご使用の場合は「A:¥WINNT351¥365」を指定してください。

- (4)「OEMオプションの選択」ウインドウで、REX-R280用のドライバを選択します。「RATOC REX-R280 Ethernet PC Card」を選択して「OK」ボタンをクリックします。

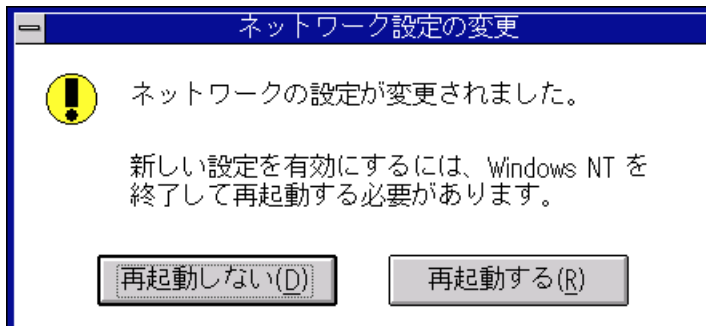


ネットワークアダプタの設定

- (1)「RATOC REX-R280 ネットワークカード セットアップ」ウインドウでは使用するIRQレベル(割り込み番号)、I/Oポートアドレス、メモリアドレスを入力し(値が分からない場合や変更の必要がない場合はデフォルト値のIRQレベル=5、I/Oアドレス=0x0300、メモリウィンドウ=0xD0000を入力してください)、「OK」ボタンをクリックします。



- (2)使用するプロトコルの設定、もしくは変更を終えて「ネットワークの設定」ウインドウを閉じると、コンピュータを再起動して変更内容を有効にするか尋ねるメッセージが表示されます。コンピュータをすぐに再起動する場合は、REX-R280をスロットに挿入し「再起動する(R)」ボタンをクリックします。「再起動しない(D)」を選んだ場合も、ネットワークを使用するときは一度再起動してください。



インストール後の確認

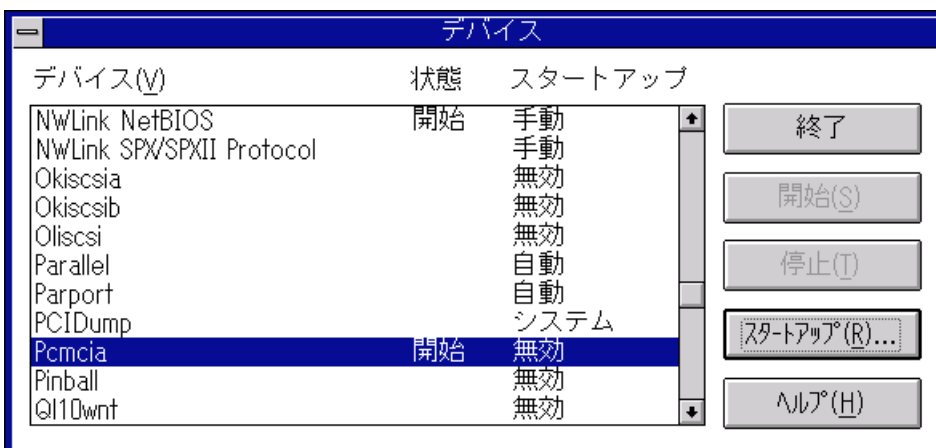
ここではドライバが正しくインストールされて正常に動作しているのかの確認方法について説明します。

- (1)「管理ツール」グループから「Windows NT診断プログラム」を起動します。
- (2)「ドライバドライバ(R)...」ボタンを押して「ドライバー一覧」ウインドウを開きます。この一覧の中に「Pcmcia」、「RATOC REX-R280 アダプタドライバ」の項目が表示されており、「状態」が「実行中」になっていることを確認します。

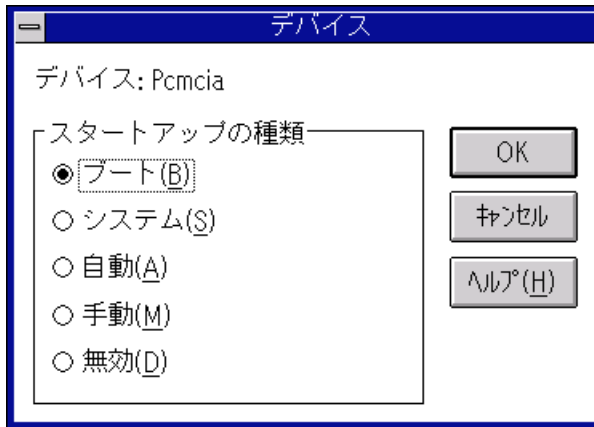


「Pcmcia」項目が「実行中」ではない、または無い場合

- (1)「メイン」グループから「コントロールパネル」を起動し、「デバイス」を開きます。
- (2)「デバイス(V)」項目から「Pcmcia」を選択して「スタートアップ(R)...」ボタンを押します。



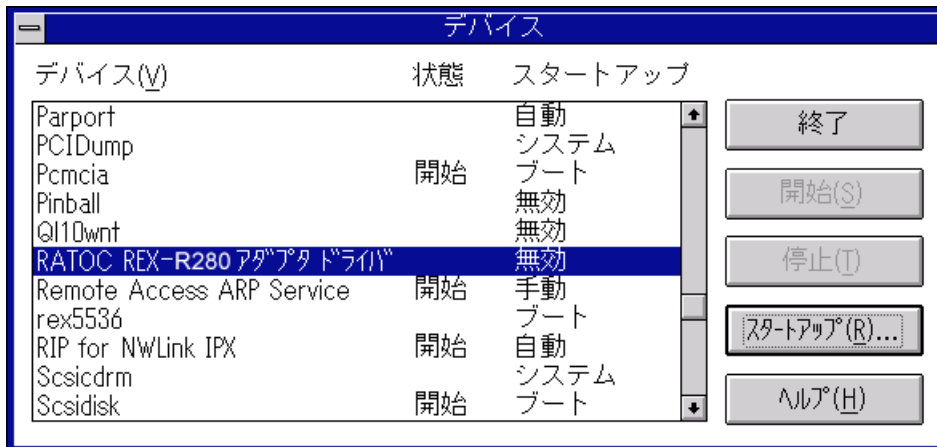
(3).下のウインドウで「スタートアップの種類」項目に「ブート(B)」を選択して「OK」を押します。



(4).元の「デバイス」ウインドウに戻り、「開始(S)」ボタンを押して状態を開始にします。次に「終了」ボタンを押して「コントロールパネル」に戻り「コントロールパネル」を終了します。

「REX-R280 アダプタドライバ」項目が「実行中」ではない場合

このような場合、インストールが正常に終了していない可能性があります。ドライバを再インストールしてください。



第6章 Windows NT4.0でのインストール

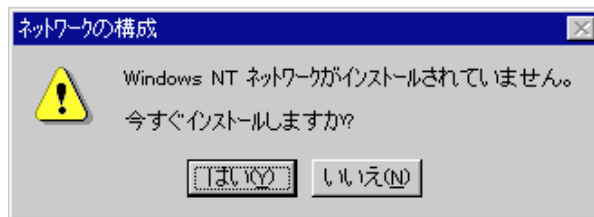
ここではWindows NT4.0上でREX-R280シリーズを使用する場合のインストール方法を示します。まずご使用のパソコンにWindows NT4.0をインストールしてください。インストール方法はWindows NT4.0のインストールガイド等を参照してください。また、本書以外にもWindows NT4.0に含まれるREADMEファイルやHELPファイルでPCカード、ネットワークに関する記述があります。そちらの方も合わせてご覧ください。

ドライバのインストール

LAN PC Card REX-R280シリーズをWindows NT4.0で使用する場合の実際のインストール手順を示します。(このインストール手順は、DOS/V機で初めてネットワークを使用する場合を想定して記述してあります)

ネットワークの設定

- (1).ご使用のパソコンでWindows NT4.0を起動します。このときREX-R280を装着する必要はありません。Windows NT4.0を起動し、メインウインドウのコントロールパネルより「ネットワーク」をダブルクリックして開きます。記のウインドウが表示されたら「はい(Y)」をクリックします。



- (2).「ネットワーク セットアップ ウィザード」が起動され、暫くすると下のウインドウが表示されます。ここではREX-R280を使用しますので「ネットワークに接続(W):」をチェックして「次へ(N) >」をクリックします。

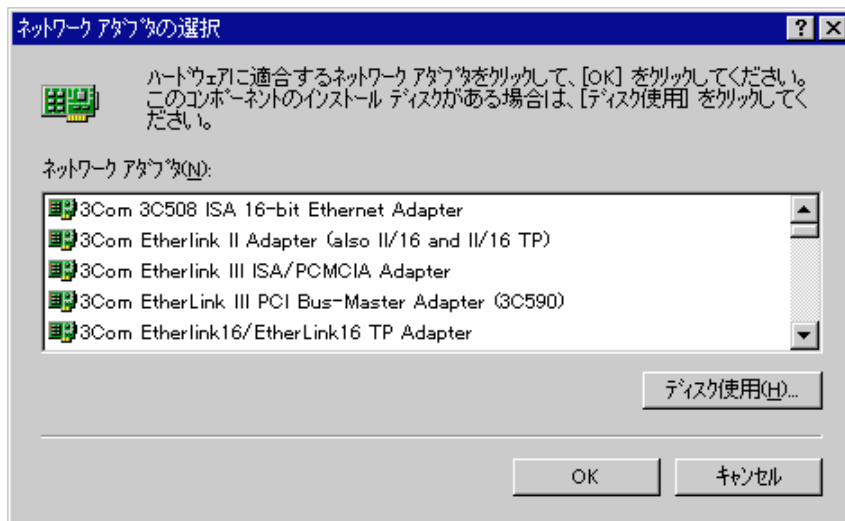


ネットワークアダプタの登録

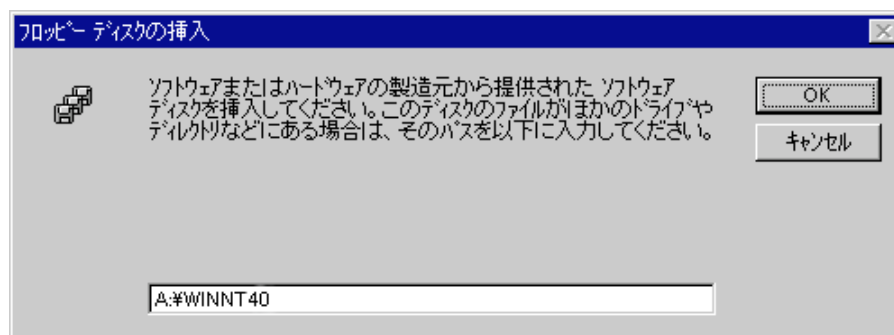
- (1).使用するネットワークアダプタ REX-R280を登録します。「一覧から選択(S)...」をクリックします。



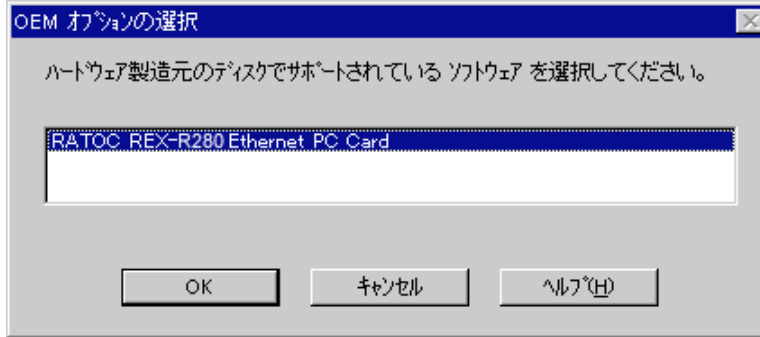
- (2).下の一覧にはREX-R280がありませんので「ディスク使用(H)...」をクリックします。



- (3).ここで本製品添付のドライバディスクをフロッピードライブに挿入し、ドライブとディレクトリを指定します。ディレクトリ名は「¥Winnt40」です。正しく入力したら「OK」をクリックします。



(4)「RATOC REX-R280 Ethernet PC Card」が表示されますので「OK」をクリックします。



(5) ネットワークアダプタに「RATOC REX-R280 Ethernet PC Card」が表示されていることを確認して「次へ(N) >」をクリックします。



使用プロトコルの設定

使用するネットワークプロトコルを選択します。ご使用状況に合わせ選択してください。ここではWindowsサーバにTCP/IPプロトコルで接続する例を示します。「TCP/IPプロトコル」をチェックして「次へ(N) >」をクリックします。



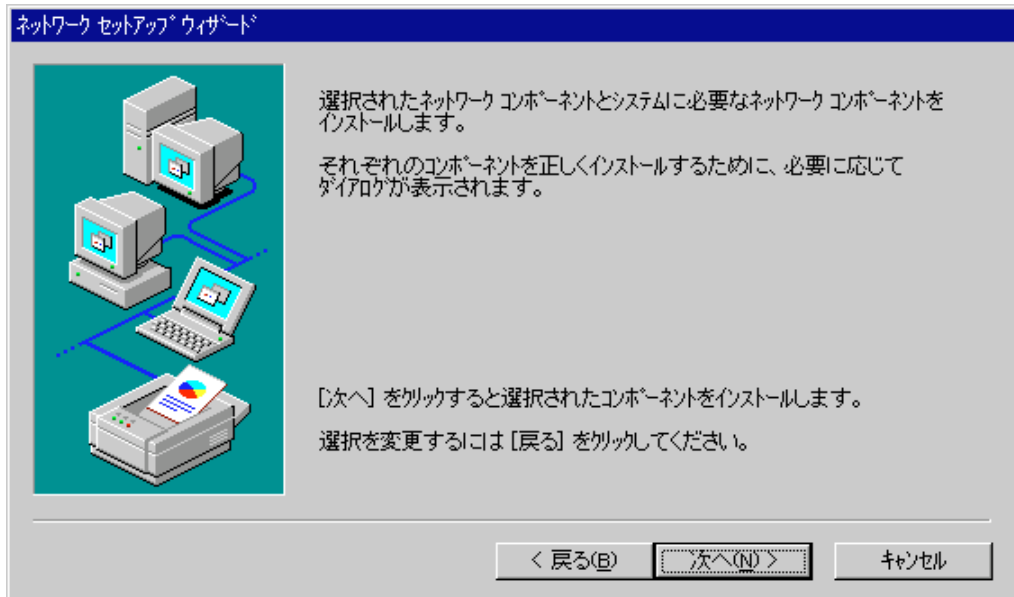
使用ネットワークサービスの設定

使用するネットワークサービスを選択します。ご使用状況に合わせ選択・追加してください。ここでは「次へ(N) >」をクリックします。

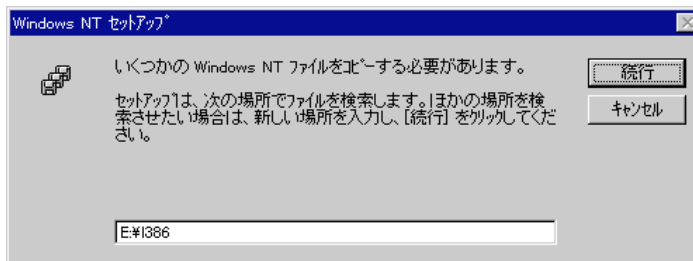


コンポーネントのインストールと設定

使用するコンポーネントをインストールして設定します。Windows NTのファイル等を要求される場合はCD-ROM等を用意して指示に従ってください。ここでは「次へ(N) >」をクリックします。

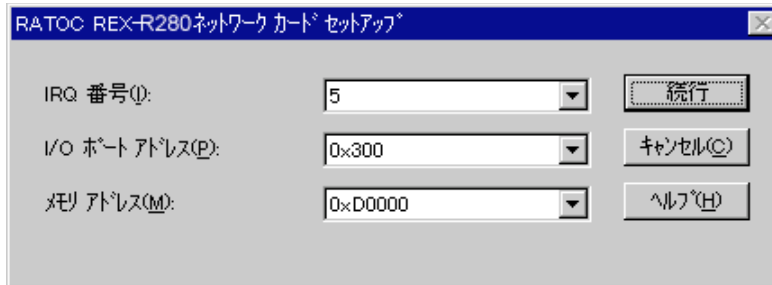


CD-ROM等のディレクトリ名を指定して「続行」をクリックします。

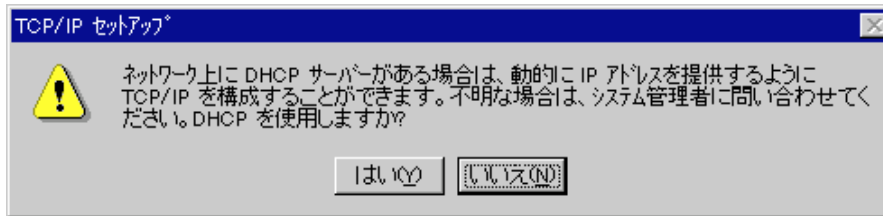


第6章 Windows NT4.0でのインストール

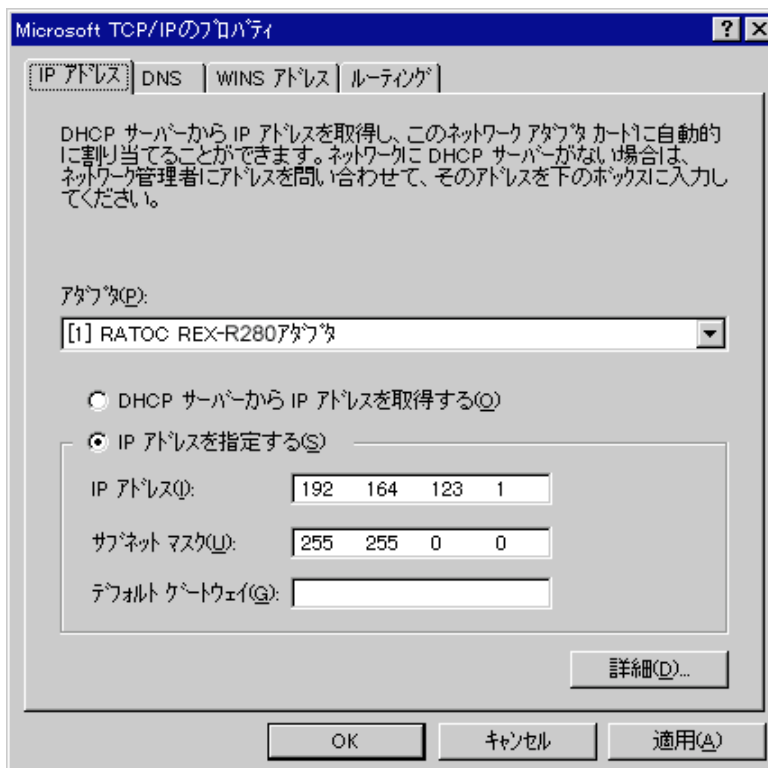
- (1).下のウィンドウが表示されたら、IRQ番号(割り込み番号)、I/Oポートアドレス、メモリアドレスを入力(値が分からない場合や変更の必要がない場合はデフォルト値のIRQ番号=5、I/Oポートアドレス=0x300、メモリアドレス=0xD0000を選択してください)し「続行」をクリックします。



- (2).下のウィンドウではとりあえず「いいえ(N)」をクリックします。その後ファイルのコピー等が始まります。



- (3).使用するパソコンに合わせ、IPアドレス等のTCP/IP接続に必要な値を設定して「OK」をクリックします。下記の図はIPアドレスの入力例です。



- (4).このウィンドウでバインドの設定(使用するサービスの有効・無効を切り替える)を行い「次へ(N) >」をクリックします。



ネットワークの起動

- (1).設定を継続するためにネットワークを起動します。「次へ(N) >」をクリックします。



(2).ワークグループ名・ドメイン名等の設定を行ってから「次へ(N) >」をクリックします。

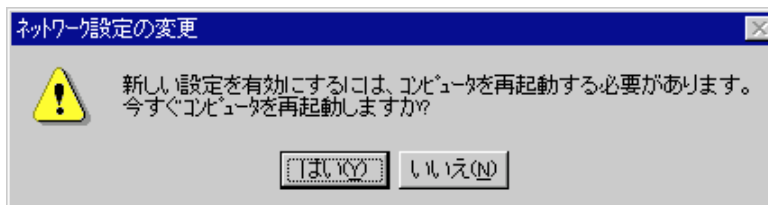


システムの再起動

(1).全ての設定が終了すると下のウィンドウが表示されますので「完了」をクリックします。



ネットワークを使用するためにシステムを再起動します。コンピュータをすぐに再起動する場合は、REX-R280をPCカードスロットに挿入しメッセージに従い「はい(Y)」をクリックします。「いいえ(N)」を選んだ場合も、ネットワークを使用するときは一度再起動してください。



インストール後の確認

ここではドライバが正しくインストールされて正常に動作しているのかの確認方法について説明します。

デバイスの動作確認

(1).タスクバーのスタートから「プログラム(P)」、「管理ツール(共有)」、「Windows NT 診断プログラム」を選択します。

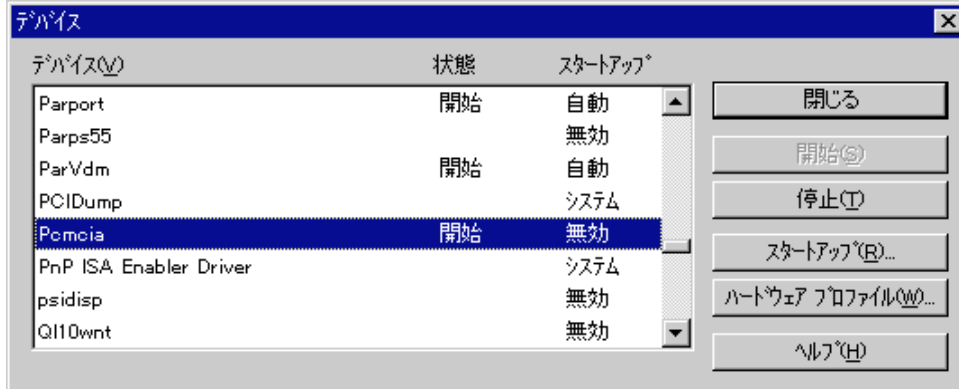
(2).「サービス」タグの「デバイス(D)」ボタンを押してデバイスの一覧を表示します。この一覧の中に「Pcmcia」、「RATOC REX-R280 外部ドライブ」の項目が表示されており、「状態」が「実行中」になっていることを確認します。それ以外の場合は「Pcmcia」項目が「実行中」ではない、または「無の場合」に従ってください。



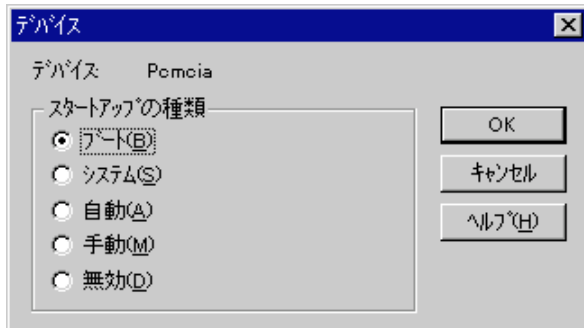
「Pcmcia」項目が「実行中」ではない、または無い場合

(1).タスクバーのスタートから「設定(S)」、「コントロール 板(C)」を選択します。この中の「デバイス」を起動してください。

(2).「デバイス(V)」項目から「Pcmcia」を選択して「スタートアップ (R)...」をクリックします。



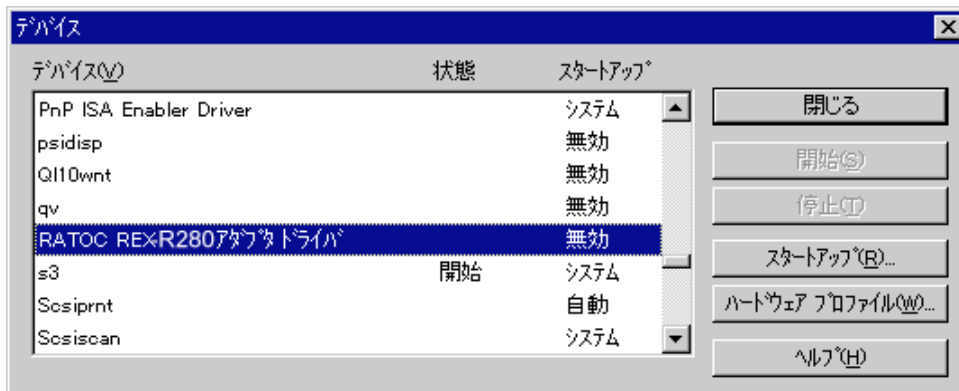
(3).下のウインドウで「スタートアップの種類」項目に「ポート(B)」を選択して「OK」をクリックします。



(4).元の「デバイス」ウインドウに戻り、「開始(S)」をクリックして状態を開始にしてください。そして全てのウインドウを順次閉じてください。システムの再起動後、PCMCIAが使用できます。

「REX-R280 アダプタドライバ」項目が「実行中」ではない場合

このような場合、インストールが正常に終了していない可能性があります。ドライバを再インストールしてください。



その他ネットワークプロトコル・ネットワークサービス等は、Windows NTに添付しているマニュアル等を参照して設定してください。

第7章 DOS/Windows 3.1での使用方法

DOS/Windows 3.1での使用について

この章ではDOS/Windows3.1上で本製品に添付するDOSODIドライバ,NDISドライバ,パケットドライバを使用する場合の使用法説明します。第8章より第10章においての共通の説明を行います。

インストールにおいては、以下の手順で行います。

1、カードサービス・ソケットサービスをインストールする。

DOSを起動して、各カードサービス・ソケットサービスをインストールします(PCカード直接制御版ドライバを使用する場合はこの作業は必要ありません)。



2、LAN PCカードを装着する。

LAN PCカードをパソコン本体のPCカードをスロットへ装着します。



3、ドライバのインストールをする。

使用するネットワークシステム(ソフトウェア)に合わせて添付フロッピーからドライバを読み込ませます。詳しくは、各ドライバのインストールのページをご覧ください。



4、LANケーブルの接続

使用するサーバ・HUB等への接続を行います。詳しくは、この第2章の「LAN PC カードのセットアップ」をご覧ください。



5、システムの再起動

システムの再起動が必要な場合に応じて行ってください。

ご使用になる環境によりましては、本書の手順通りインストールできない場合もありますので予めご了承ください。

カードサービスのインストール

MS-DOS上でPCカードスロットおよびPCカードを使用するために専用のデバイスドライバ(カードサービス)を組み込む必要があります。このドライバソフトは通常パソコン本体のメーカーより提供されているため、本製品には添付していません。(カードサービスについての詳しい説明は、各パソコンに添付のマニュアルをご覧ください。)

カードサービスがインストールされていない場合、パソコン本体に添付しているフロッピーディスク等からカードサービスをインストールします。インストールが終わったらパソコン本体を再起動してカードサービスが正しく起動していることを画面のメッセージなどで確認してください。

また、対応しているカードサービス等については第11章の以下の項目を合わせてご覧ください。

カードサービスについて

対応カードサービス等について説明しています。

カードサービスがない場合

パソコン本体にカードサービスが添付されていない場合について説明しています。

占有メモリについて

本製品はカード属性情報を4Kバイト持っており、この情報をパソコン本体のメモリウインドウを通して読み出します。使用するメモリの開始アドレスは、C0000H～DF000Hの間でROMやEMSのページフレーム、UMBなどが使用していない任意アドレスです。

「カードサービス」により使用する占有メモリについて

カードサービスにより本製品を使用する場合、先に説明した範囲で4Kバイト以上の連続した空きメモリを必ず確保してください。

たとえば「EMM386.EXE」が組み込まれている場合、「X」または「/E」オプションで設定します。DOS/V場合、以下のとおりに設定しておくことCF000H～CFFFFHの4Kバイトがメモリウインドウとして確保されます。

```
DEVICE = EMM386.EXE 512 FRAME=D000 X=CF00-CFFF
```

「カードサービス」を使用しない場合の占有メモリについて(DOS/V)

「PCカード・コントローラ直接制御」でLANDライバを使用する場合は、「NET.CFG」、「PROTOCOL.INI」ファイル等のドライバ・オプションにも占有メモリに関する設定が必要です。また、PCカード・スロットが2スロット以上で使用スロットの指定をしないでLANDライバを使用する場合は、メモリウィンドウを8Kバイト確保してください。

DEVICE = EMM386.EXE 512 FRAME=D000 X=CE00-CFFF

記述例

	使用スロット指定の場合	使用スロット自動検出の場合
EMM386のXオプション	X=CF00-CFFF	X=CE00-CFFF
NET.CFGファイルのLink Driverセクション	Link Driver REXR280A Int 5 Port 300 Slot 1 Mem CF000	Link Driver REXR280A Int 5 Port 300 Mem CE000
PROTOCOL.INIファイルのREXR280A_NIFセクション	[NDR280A_NIF] DRIVERNAME=NDR280A\$ INTERRUPT=5 IOBASE=0x300 SOCKET=1 MEMBASE=0xCF000	[NDR280A_NIF] DRIVERNAME=NDR280A\$ INTERRUPT=5 IOBASE=0x300 MEMBASE=0xCE000

SlotまたはSOCKETで指定するスロット番号は1または2を指定してください。0を指定した場合およびSlot、SOCKET文を省略した場合は、指定なし(使用スロット自動検出)と同じ意味になります。

LANドライバに指定する割り込み番号について(PC-9821)

PC-98シリーズでは一般的に拡張インターフェイスが使用する割り込み信号は、拡張バス割り込み信号名の「INT0～INT6」で指定します。ところがNetWareやLANマネージャでは割り込みコントローラの割り込み信号名「IRQ0～IRQF」で指定します。したがって本製品で提供される各LANドライバも「IRQ番号」の値で指定するように統一されています。

各ドライバに指定する割り込み番号は必ず下表のIRQ番号で記述してください。

PC98拡張バス割り込み信号名	割り込み番号(IRQ)	注意
INT 0	3	
INT 1	5	赤外線インターフェースが使用
INT 2	6	カードサービスが使用
INT 5	12	本体内蔵サウンドが使用

たとえば、NetWareの「NET.CFG」ファイルでドライバオプションに割り込み番号「INT0(IRQ3)」を指定する場合は、次のように記述します。

```
Link Driver REXR280N
INT 3
```


第8章 DOSODIドライバのインストール

DOSODIドライバについて

この章ではDOS/Windows3.1上で本製品に添付するDOSODIドライバをNetWare 4.11J/4.1J/ 3.12J / 3.11J/ Personal Netwareで使用する場合のインストール手順を説明します。このドライバはNetWare 4.11J/4.1J/ 3.12J/ 3.11Jではクライアント用、Personal Netwareではサーバおよびクライアントの両方用として動作します。

Netware 3.12J/3.11Jで使用する場合、LSL.COMのアップグレードが必要になります。
LSLのバージョン2.11以降のLSL.COMを入手してください。

実際に使用されるLANドライバ名の一覧を以下に示します。DOS上でLANドライバをロードする場合この名称を入力します。

機種	PCMCIAドライバ	LANドライバ
DOS/V	カードサービス	REXR280A.COM
	i82365直接制御	REXR280I.COM
PC-9821	カードサービス	REXR280N.COM
EPSON	カードサービス	REXR280E.COM

対応PCMCIAドライバに関しては後述の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

NetWareシェルのアンロードについて (PC-9821)

PC-98シリーズではNetWareシェルを正常にアンロードするために次の設定が必要になります。起動ドライブの「CONFIG.SYS」ファイル中のソケットサービス登録行に、「/T」オプションを追加します。

使用機種	対応するPCMCIAドライバ	オプション例
PC-9821 Np,Ns,Ne2,Nd,Ld,Nf,Nm,Lt PC-9801 NL/A	カードサービス	DEVICE=A:¥CDCOMP.SYS /T=0
PC-9821 Ne PC-9801 NX/C,NS/A,P,NL/R	カードサービス (別売り)	DEVICE=A:¥CDCOMP.SYS /T=0

第8章 DOSODIドライバのインストール

パラメータ値について

NetWare用のLANドライバに設定できる値は以下の通りです。

INTオプション(ハードウェア割り込み)

機種	設定できる割り込み番号	デフォルト値
DOS/V	3, 5, 9, 10, 11, 12, 15	5
PC-9821	3, 5, 6, 12	5
EPSON	3, 5, 12	3

FRAMEオプション(フレームタイプ)

機種	設定できるフレームタイプ	デフォルト値
共通	ETHERNET_802.2 ETHERNET_802.3 ETHERNET_II ETHERNET_SNAP	ETHERNET_802.2

PORTオプション(ポートアドレス)

機種	設定できるポートアドレス	デフォルト値
DOS/V	240, 280, 2C0, 300, 340, 380	300
PC-9821	カードサービス D0, 1D0, 2D0, 3D0, 4D0, 5D0	D0
EPSON	380, 3A0, 3C0	3C0

MEMオプション(メモリアドレス) (DOS/V i82365 直接制御のみ)

機種	設定できるメモリアドレス	デフォルト値
DOS/V	Cn000 ~ Dn000 (n:0 ~ F) ROMおよびEMS,USBが使用していないメモリアドレス	CE000

SLOTオプション(カードスロット)

機種	設定できるスロット番号	デフォルト値
DOS/V	0 (自動検出)	0 (自動検出)
PC-9821	1 (下側)	
	2 (上側)	

PCIC BASEオプション(DOS/V i82365直接制御のみ)

機種	設定できる値	デフォルト値
EPSON Vividy Note	3000	3E0

NetWare4.1Jでのインストール

インストールディスクの準備

クライアントパソコンの機種に対応した以下のフロッピーディスクと、本製品添付のLANドライバディスクを用意してください。

DOS/V	NetWare Client for DOS and Windows Disk 1 ~ 4 DOS/V
PC-9821	NetWare Client for DOS and Windows Disk 1 ~ 4 PC-9800
EPSON	NetWare Client for DOS and Windows Disk 1 ~ 4 PC-9800

インストーラの起動

NetWare4.1Jのクライアントディスク「Disk-1」をパソコン本体のフロッピーディスクドライブに挿入し、次のように入力します。

```
C:¥>SET NWLANGUAGE=NIHONGO <Enter>
C:¥>A: <Enter>
A:¥>INSTALL <Enter>
```

環境設定変数を日本語にする
カレントドライブをDISK-1に移動
INSTALLの起動

インストーラを起動すると以下のように表示されますので、1～4の項目については使用状況に合わせて設定してください(NetWare4.1J添付のインストールマニュアルを参照)。

1. コピー先のディレクトリを入力してください:
C:¥NWCLIENT
2. AUTOEXEC.BATおよびCONFIG.SYSファイルを変更して、バックアップを作成します。変更しますか? (Y/N): Yes
3. MS Windowsのサポートをインストールしますか? (Y/N): Yes
MS Windowsのディレクトリを入力してください: C:¥WIN31
カスタマイズするには、ここを選択して<Enter>を押してください
4. SBACKUPなどNetWareサーバソフトウェアでバックアップを実行するために環境設定を行いますか? (Y/N): No
5. ネットワークカードのドライバを選択してください
リストを表示するには、ここを選択して<Enter>を押してください
6. ここを選択して<Enter>を押すとインストールを開始します

第8章 DOSDIドライバのインストール

ネットワークボードの選択

1~4の項目を設定し、ネットワークボードの選択で<Enter>キーを押しリストを表示してください。この時フロッピーディスクに最初から入っているネットワークボードのリストが表示されますので、一番下の「他のドライバ」を選択してください。

ドライバディスクの挿入
ドライバディスクまたはサードパーティのドライバディスクを挿入してください ドライバディスクにはDRIVER.DOSファイルまたは各ドライバのINSファイルが入っている必要があります
ドライバディスクが別の場所にある場合は、 以下に新しいパスを入力してください:
A:¥
準備ができたなら<Enter>を押してください。 キャンセルするには<Esc>を押してください

この時、本製品添付のLANドライバディスクをフロッピーディスクドライブに挿入してください。次に「新しいパスを入力...」の項目を以下のように変更し、<Enter>キーを押してください。

「A:」 「A:¥NETWORK」

フロッピーディスク内の情報ファイルを読み込み以下のように表示されます。

ネットワークボード
RATOC REX-R280 for DOS/V(for Card Services)
RATOC REX-R280 for DOS/V(for i82365 Direct)
RATOC REX-R280 for EPSON PC
RATOC REX-R280 for PC-98(for Card Services)
他のドライバ

ここで下記の表を参考にREX-R280用のLANドライバを選択してください。対応PCMCIAドライバに関しては後述の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

DOS/V	
カードサービス	REX-R280 for DOS/V(for Card Services)
i82365直接制御	REX-R280 for DOS/V(for i82365 Direct)
PC-9821シリーズ PC-9821Ne PC-9801 NL/A NX/C,NS/A,P,NL/R	
カードサービス	REX-R280 for PC-98(for Card Services)
EPSON	
カードサービス	REX-R280 for EPSON PC

REX-R280の設定

LANドライバを選択すると以下のような画面が表示されて、REX-R280の設定を行います。

RATOC REX-R280 for DOS/V(for Card Services)の設定	
スロット	SLOT 0
ハードウェア割り込み	INT 5
フレームタイプ	FRAME ETHERNET_802.2
ハードウェアポート	PORT 300

デフォルト値以外の値を設定する場合(「ハードウェア割り込み」、「ハードウェアポート」の値が「NICUT.EXE」で正常動作を確認できた値と異なる場合)、変更する項目にカーソルを合わせ<Enter>を押して値を変更してください。変更の必要がない場合(変更が完了した場合)は<F10>キーを押してこの画面を終了してください。

インストールの続行

インストーラの起動直後画面に戻りますので、「ネットワークカードのドライバを...」項目に先ほど選択した「RATOC REX-R280 for ...」が表示されていることを確認してください。良ければ「ここを選択して<Enter>を押して...」を選択して<Enter>キーを押し、インストールを続行してください。

あとは画面の指示に従ってインストーラを終了すればインストール作業は終了します。

また実際のサーバへの接続は、この章後述の「NET.CFGファイルの編集」、「ネットワーク接続用/切離用バッチファイルの編集」を参照してください。

「NET.CFGファイルの編集」では、DOSODIドライバが動作するために必要な情報の記述を行います。「ネットワーク接続用/切離用バッチファイルの編集」では実際のNetWareコマンド等を使用してサーバへの接続までを説明します。

NetWare3.12J

でのインストール

インストールディスクの準備

クライアントパソコンの機種に対応した以下のフロッピーディスクと、本製品添付のLANドライバディスクを用意してください。

DOS/V	WSDOS_1 DOS/V、WSWIN_1
PC-9821	WSDOS_1 NEC、WSWIN_1
EPSON	WSDOS_1 NEC、WSWIN_1

なお、購入したままのNetWare 3.12Jでは、使用できません。LSL のバージョンが2.11以上でないと動作しません。NetWare購入元より入手してください。

インストーラの起動

NetWare3.12Jのクライアントディスク「WSDOS_1」をパソコン本体のフロッピーディスクドライブに挿入し、次のように入力します。

```
C:¥>SET NWLANGUAGE=NIHONGO <Enter>
C:¥>A: <Enter>
A:¥>WSINST <Enter>
```

環境設定変数を日本語にする
カレントドライブをWSDOS_1に移動
インストーラの起動

インストーラを起動すると以下のように表示されますので、ステップ1~4の項目については使用状況に合わせて設定してください(NetWare3.12J添付のインストールマニュアルを参照)。

```
ステップ 1. NetWareクライアント用プログラムをインストールするディレクトリ名を入力してください
C:¥NWCLIENT

ステップ 2. インストールプログラムはDOSシステムファイルを変更し、バックアップを作成します
自動変更しますか? (Y/N): Yes

ステップ 3. MS-Windows対応プログラムをインストールしますか? (Y/N): Yes
MS-Windowsディレクトリ: C:¥WINDOWS

ステップ 4. SMS用TSAを設定しますか? (Y/N): No

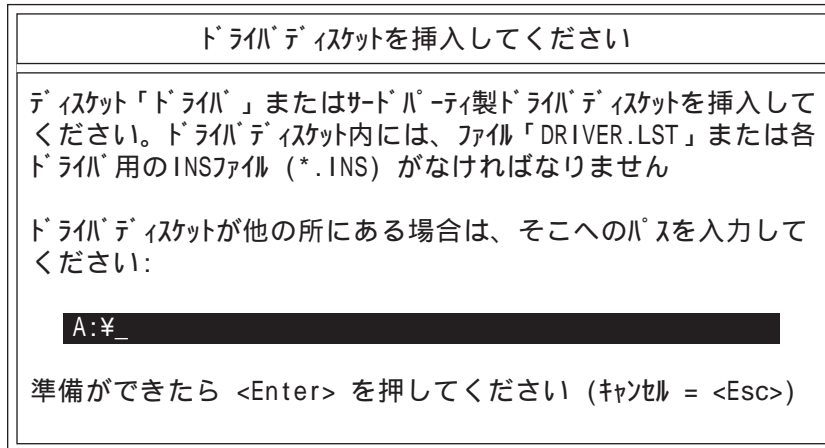
ステップ 5. ネットワークポート用のドライバを選択するには<Enter>を押し、
矢印キーを使用してポート名を選択してください

リストを表示するには <Enter> を押してください

ステップ 6. インストールするには <Enter> を押してください
```

ネットワークボードの選択

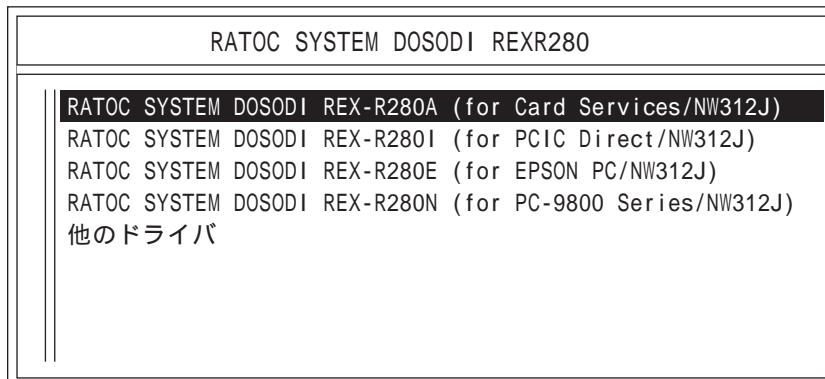
ステップ1~4の項目を設定し、ネットワーク用ボードのドライバ選択で<Enter>キーを押してください。次のような[ドライバディスクを挿入してください]ウィンドウが表示されます



この時、本製品添付のLANドライバディスクをフロッピーディスクドライブに挿入してください。次に「パスを入力...」の項目を

「A:」 「A:¥NETWORK」

に変更し、<Enter>キーを押してください。フロッピーディスク内の情報ファイルを読み込み以下のように表示されます。



ここで下記の表を参考にREX-R280用のLANドライバを選択してください。対応PCMCIAドライバに関しては後述の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

DOS/V	
カードサービス	REX-R280 for DOS/V(for Card Services)
i82365直接制御	REX-R280 for DOS/V(for i82365 Direct)
PC-9821シリーズ PC-9821Ne PC-9801 NL/A,NX/C,NS/A,P,NL/R	
カードサービス	REX-R280 for PC-98(for Card Services)
EPSON	
カードサービス	REX-R280 for EPSON PC

第8章 DOSODIドライバのインストール

REX-R280の設定

ネットワークボードを選択すると以下のような画面が表示されて、REX-R280の設定を行います。

RATOC REX-R280 for DOS/V(for Card Services) 用の設定	
スロット	SLOT 0
ハードウェア割込み	INT 5
フレームタイプ	FRAME ETHERNET_802.2
ハードウェアポート	PORT 300

デフォルト値以外の値を設定する場合(「ハードウェア割込み」、「ハードウェアポート」の値が「NICUT.EXE」で正常動作を確認できた値と異なる場合)、変更する項目にカーソルを合わせ<Enter>を押して値を変更してください。変更の必要がない場合(変更が完了した場合)は<ESC>キーを押してこの画面を終了してください。

インストールの続行

インストーラの起動直後画面に戻りますので、「ネットワークボード用のドライバを...」項目に先ほど選択した「RATOC REX-R280 for ...」が表示されていることを確認してください。良ければ「インストールするには <Enter> を押して...」を選択して<Enter>キーを押し、インストールを続行してください。

あとは画面の指示に従ってインストーラを終了すればインストール作業は終了します。

また実際のサーバへの接続は、この章後述の「NET.CFGファイルの編集」、「ネットワーク接続用/切離用バッチファイルの編集」を参照してください。

「NET.CFGファイルの編集」では、DOSODIドライバが動作するために必要な情報の記述を行います。「ネットワーク接続用/切離用バッチファイルの編集」では実際のNetWareコマンド等を使用してサーバへの接続までを説明します。

第8章 DOSODIドライバのインストール

Personal NetWareでのインストール

インストールディスクの準備

クライアントパソコンの機種に対応したPersonal NetWareディスクと、本製品添付のLANドライバディスクを用意してください。Personal NetWareではDOSとWindows3.1両方からインストールする事ができます。ここではその両方について説明します。

Netware 3.12J/3.11Jで使用する場合、LSL.COMのアップグレードが必要になります。
LSLのバージョン2.11以降のLSL.COMを入手してください。

DOS用インストーラの起動

Personal NetWareのインストールディスク「Disk1」をパソコン本体のフロッピーディスクドライブに挿入し、次のように入力します。

```
C:¥>A: <Enter>  
A:¥>WSINST <Enter>
```

カレントドライブをDisk1に移動
インストーラの起動

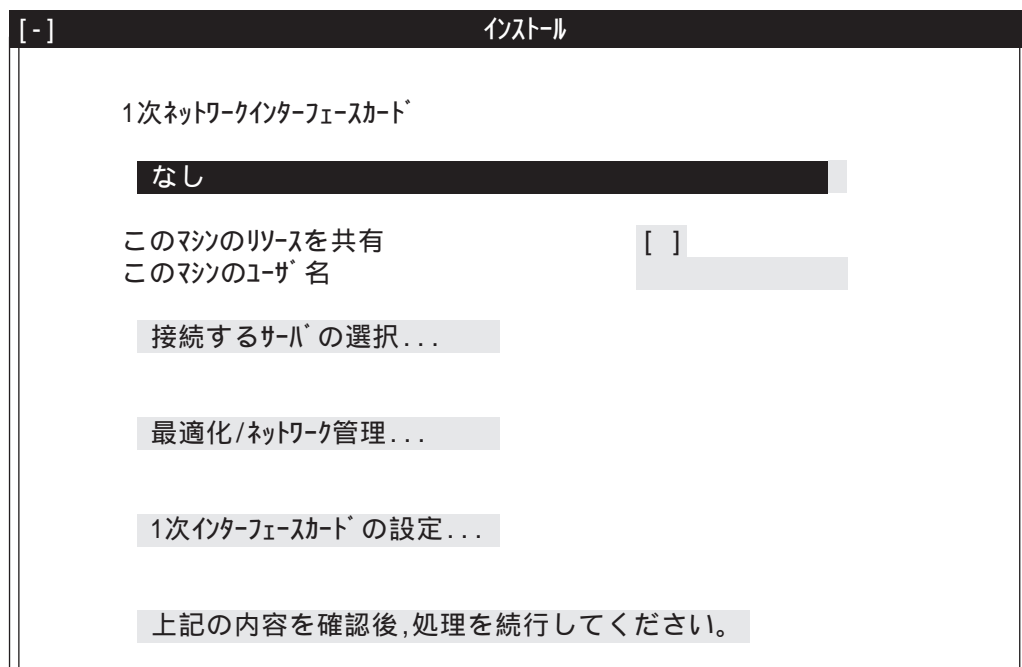
インストーラーのメッセージに従い

「ユーザ名:」、「会社名:」、「シリアル番号:」の入力する

「MS Windows用ファイル」のコピーをするかを選択する

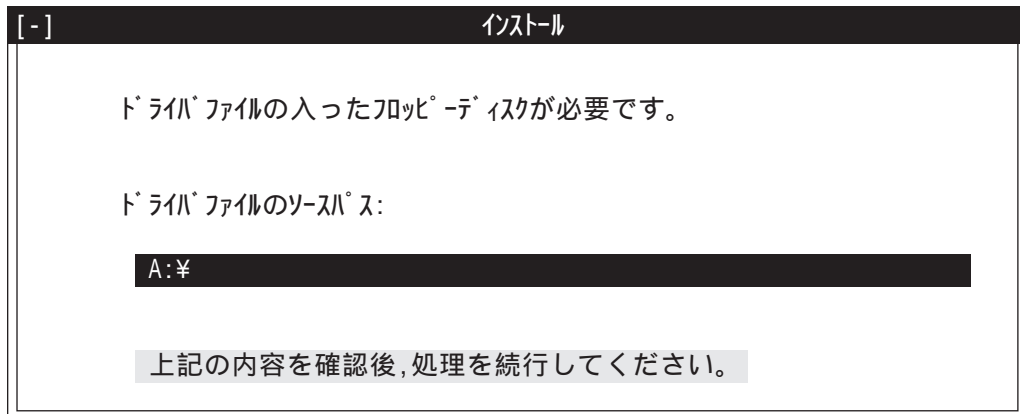
「北-先のドライブとディレクトリを変更します。」から「ブートドライブ」、「Personal NetWare用ファイル」

「MS Windows用ファイル」の変更をする
を入力して次の画面まで進んでください。



ネットワークインターフェースカードの選択

「1次ネットワークインターフェースカード」項目を選択して<Enter>キーを押してください。標準で使用できるネットワークインターフェースカードの一覧が表示されますので、「OEM製ドライバ」を選択してください。次のようなウィンドウが表示されます



「ドライバファイルのソース:」項目を

「A:」 「A:¥NETWARE」

に変更してください。

Personal NetWare J1.0 NetWare4.1J対応版以前のものでは、ご使用できません。

本製品添付のLANドライバディスクをフロッピーディスクドライブに挿入して、「上記の内容を確認...」を選択してください。

以上の作業で「1次ネットワークインターフェースカード」項目にREX-R280カードが追加されます。ここでもう一度「1次ネットワークインターフェースカード」項目を選択して、この中から使用する機種・PCMCIAドライバ(カードサービス等)に合ったLANドライバを選択してください(下記の表を参考にREX-R280用のLANドライバを選択してください)。対応PCMCIAドライバに関しては後述の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

DOS/V	
カードサービス	REX-R280 for DOS/V(for Card Services)
i82365直接制御	REX-R280 for DOS/V(for i82365 Direct)
PC-9821シリーズ PC-9821Ne PC-9801 NL/A,NX/C,NS/A,P,NL/R	
カードサービス	REX-R280 for PC-98(for Card Services)
EPSON	
カードサービス	REX-R280 for EPSON PC

REX-R280の設定

1次ネットワークインターフェースカードを選択し、「このマシンのリソースを共有」、「このマシンのユーザー名」、「接続するサーバの選択...」、「最適化/ネットワーク管理...」を設定した後、「1次インターフェースカードの設定...」を選択してください。以下のような画面が表示されますので、REX-R280の設定を行ってください。

インストール	
NetWareインターフェースカードの設定	
INT	5
PORT	300
ETHERNET_802.2	[]
ETHERNET_802.3	[X]
ETHERNET_II	[]
ETHERNET_SNAP	[]
0	[X]
1	[]
2	[]
上記の内容を確認後、処理を続行してください。	

デフォルト値以外の値を設定する場合(「INT」、「PORT」の値が「NICUT.EXE」で正常動作を確認できた値と異なる場合)、変更する項目にカーソルを合わせ<Enter>を押して値を変更してください。変更の必要がない場合(変更が完了した場合)は「上記の内容を確認...」を選択してください。

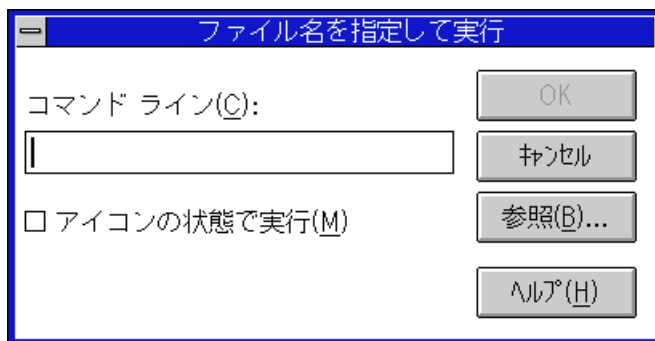
インストールの開始

インストール画面に戻りますので、「上記の内容を確認...」を選択してインストールを開始してください。

あとは画面の指示に従ってインストーラを終了すればインストール作業は終了します。

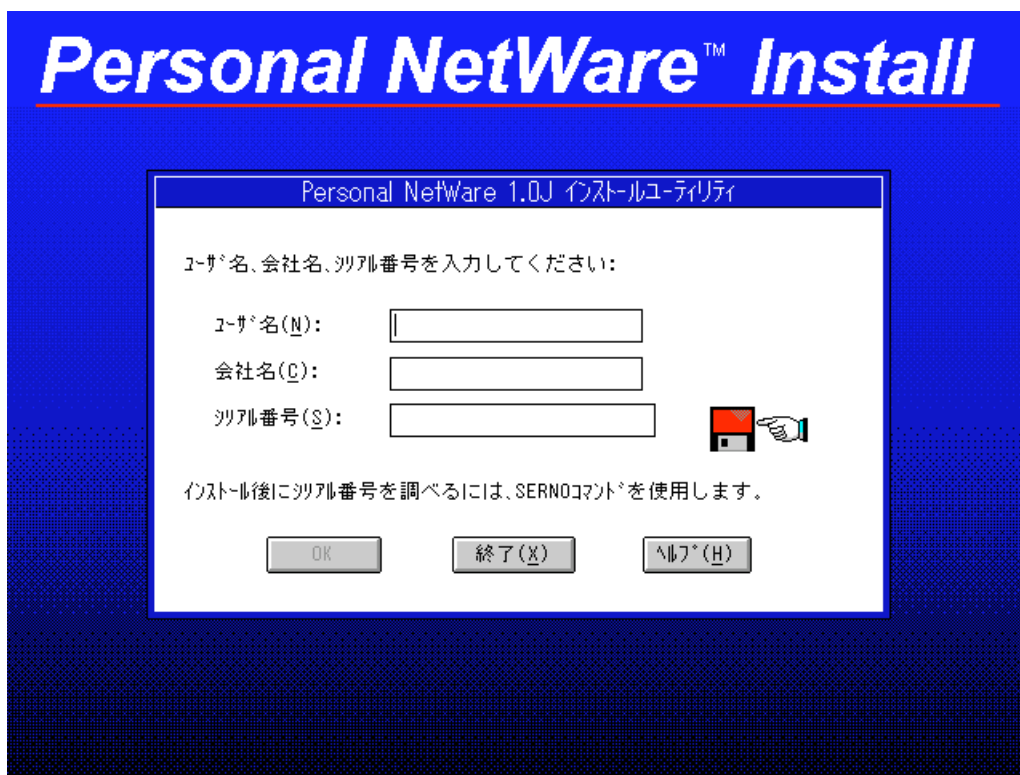
Windows3.1 用インストーラの起動

Personal NetWareのインストールディスク「Disk1」をパソコン本体のフロッピーディスクドライブに挿入し、「アイコン(E)」メニューより「ファイル名を指定して実行(R)...」を選択してください。次に下のウインドウの「コマンドライン(C):」に「A:¥INSTALL」を入力して「OK」をクリックしてください。



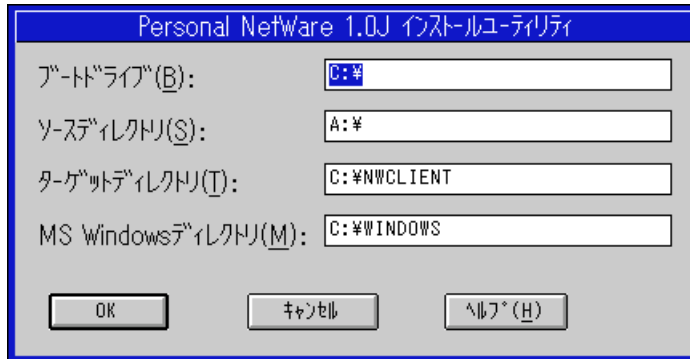
ユーザ名等の入力

インストーラーが起動すると以下のような画面が表示されます。ここでは「ユーザ名:」、「会社名:」、「シリアル番号:」の入力を行い、「OK」をクリックしてください。



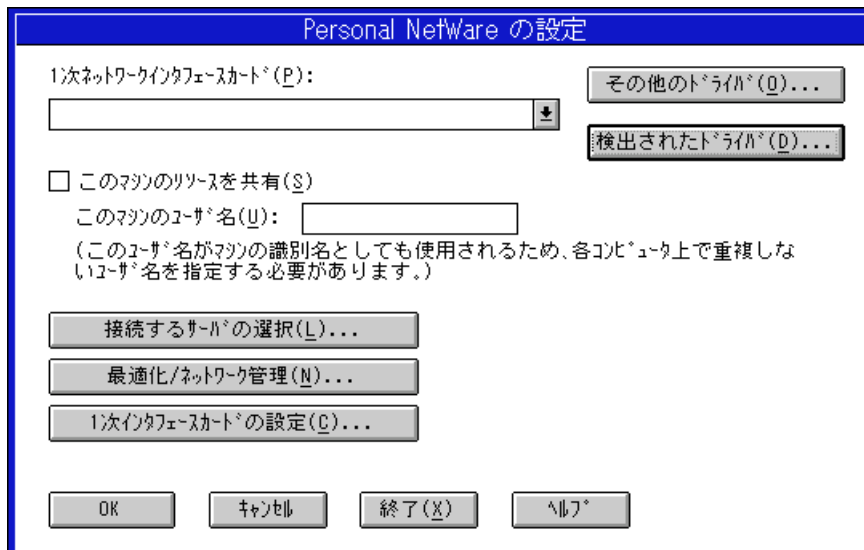
ターゲットディレクトリ等の入力

次に「ブートドライブ(B):」、「ソースディレクトリ(S):」、「ターゲットディレクトリ(T):」、「MS Windowsディレクトリ(M):」の入力を行い、「OK」をクリックしてください。また「OK」をクリックした後に「ロードされているドライブがありません。」が表示された場合は、そのまま続行してください。

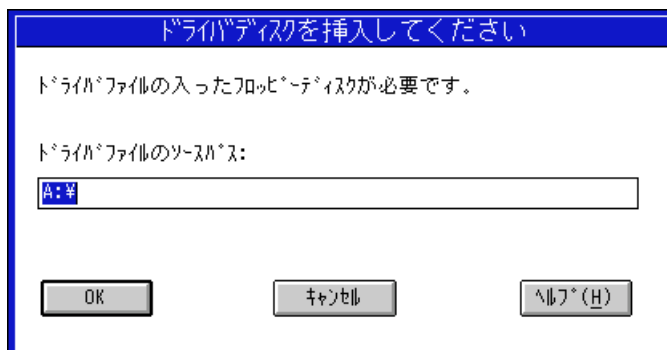


その他のドライブの読み込み

この画面から「その他のドライブ(O)...」をクリックしてください。

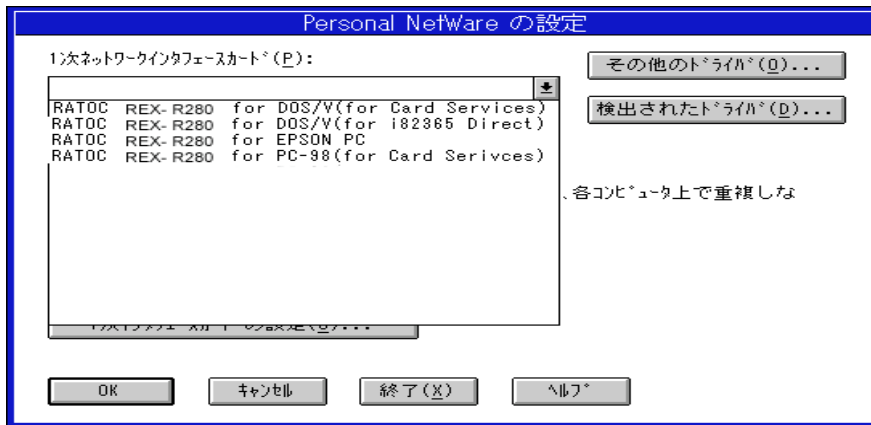


ここで「ドライブ ファイルのソースパス:」項目を
「A:」 「A:¥NETWARE」
に変更してください。



1次ネットワークインターフェースカードの選択

「1次ネットワークインターフェースカード (P)」項目右端の「↓」をクリックして、読み込んだネットワークカードの一覧を表示してください。



この中から使用する機種・PCMCIAドライバ(カードサービス等)に合ったLANドライバを選択してください(下記の表を参考にREX-R280用のLANドライバを選択してください)。対応PCMCIAドライバに関しては後述の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

DOS/V	
カードサービス	REX-R280 for DOS/V(for Card Services)
i82365直接制御	REX-R280 for DOS/V(for i82365 Direct)
PC-9821シリーズ PC-9821Ne PC-9801 NL/A,NX/C,NS/A,P,NL/R	
カードサービス	REX-R280 for PC-98(for Card Services)
EPSON	
カードサービス	REX-R280 for EPSON PC

その他の設定

[Personal NetWare 設定]画面内の「このマシンのリソースを共有(S)」・「このマシンのユーザ名(U)」・「接続するサーバの選択(L)」・「最適化/ネットワーク管理(N)」項目について設定してください(必要な場合のみ)。

REX-R280の設定

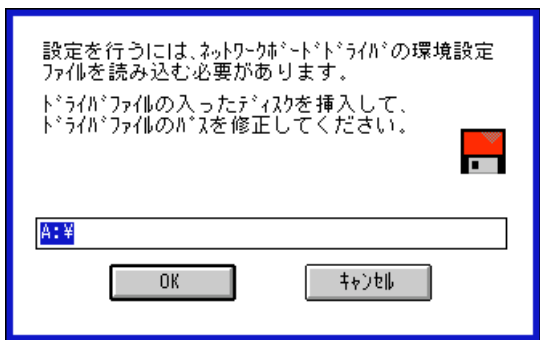
「1次インターフェースの設定(C)...」をクリックして、以下のような[LANボードの設定]画面を表示し、REX-R280の設定を行ってください。



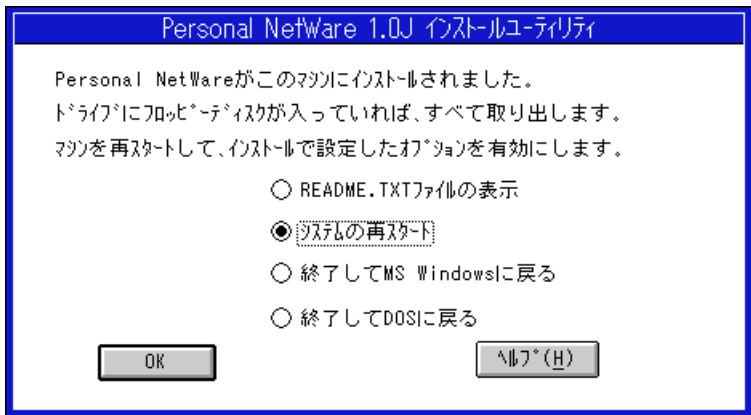
デフォルト値以外の値を設定する場合(「ハードウェア割込み」、「ハードウェアI/Oポート」の値が「NICUT.EXE」で正常動作を確認できた値と異なる場合)、変更する項目にカーソルを合わせ<Enter>を押して値を変更してください。変更の必要がない場合(変更が完了した場合は「OK」をクリックしてください)。

インストールの開始

[Personal NetWare 設定]画面に戻りますので、全ての設定が良ければ「OK」をクリックしてインストールを開始してください。また、インストール中にドライバディスクを要求されますので、メッセージに従ってください。以下の画面では、先ほど入力したディレクトリ名を(「A:¥NETWARE」)入力してください。そしてLANドライバディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「OK」をクリックしてください。



あとは画面の指示に従ってインストーラを終了すればインストール作業は終了します。



NET.CFGファイルの編集

NET.CFGファイルについて

DOSODIドライバが動作するために必要な情報は「NET.CFG」というDOSのテキストファイルで構成されています。本製品添付のLANDライバディスクにはNET.CFGファイルのサンプルが含まれており、REX-R280を標準的なNetWare動作環境で使用する場合はこのサンプルファイルをそのままコピーして使用できます。

NET.CFGファイルの位置について

NET.CFGファイルの位置は「LSL.COM」コマンドによって認識されるため、必ず「LSL.COM」コマンドと同じディレクトリに保存しなければなりません。

NET.CFGの記述例

以下にNET.CFGファイルの記述例を示します(以下の例はDOS/Vでカードサービスを使用した環境の場合)。

NetWare 3.12J/4.1J

;	REX-R280 for DOS/V	(a)
Link Driver	REXR280A	(b)
INT	5	(c)
PORT	300	(c)
FRAME	Ethernet_802.2	(c)
NetWare DOS Requester		
Checksum = 0		
First Network Drive = F		
Short Machine Type = DOSV		
Signature Level = 0		

(a)「; REX-R280 for DOS/V」 ~ コメント行 ~
行の先頭を「;」セミコロンで始めます。

(b)「Link Driver REXR280A」 ~ メインセクション見出し ~
行の先頭から左詰めで記述します。「Link」と「Driver」の間にはスペースを1個だけ入れます。スペースが無くても2個以上あっても無効になります。またスペースの代わりにTABを入れても無効になります。「Link Driver」に続けてLinkDriver名(LANDライバ名)を記述します。「Link Driver」とLinkDriver名の間も先ほどと同じようにスペースを1個だけ入れます。またNetWare3.12J/4.1Jの場合はスペースの代わりにTABを入れてもかまいません。

第8章 DOSODIドライバのインストール

(c)「INT 5」「PORT 300」「FRAME Ethernet_802.2」 ~ ドライバオプション ~

この3行は「Link Driver」メインセクションのドライバオプションで、各行の先頭に必ずスペースかTABを入れて記述します。行の先頭に必ずスペースかTABが無い場合、その行のオプション記述は無視されます。また各オプション項目に続けてオプション値を記述しますが、項目名とオプション値間にスペースかTABを入れます。

この記述例の「INT」、「PORT」、「FRAME」は本来はデフォルト値であるため本来省略が可能ですが、ここではあえて説明のために記述しています。

各リンクドライバ名は以下の通りです。また各ドライバオプションの設定値については、この章の最初の「パラメータ値について」を参考にしてください。

機種	PCMCIAドライバ	LANドライバ名	Link Driver名
DOS/V	カードサービス i82365直接制御	REXR280A.COM REXR280I.COM	REXR280A REXR280I
PC-9821	カードサービス	REXR280N.COM	REXR280N
EPSON	カードサービス	REXR280E.COM	REXR280E

対応PCMCIAドライバに関しては後述の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

Windows3.1用オプション

「NETX.COM」、「EMSNETX.EXE」、「XMSNETX.EXE」を用いてWindows3.1上で使用する場合、Windows用のモジュールの追加と合わせてNET.CFGファイルに2つのネットワークシェルオプションを追加する必要があります。

```
SHOW DOTS=ON          (a)
FILE HANDLES=60       (b)

; REX-R280 for DOS/V
Link Driver REXR280x
```

(a)「SHOW DOTS=ON」

ディレクトリエントリ「.」、「..」のエミュレーション有効

(b)「FILE HANDLES=60」

ネットワーク上でワークステーションが同時にオープンできるファイル数を60にする

シェルオプションは、必ず全てのメインセクションより前に行の先頭から左詰めで記述します。NET.CFGファイルのシェルオプションをネットワークシェルが使用している場合、ネットワークシェルロード時に下のメッセージが表示されます。

```
Using Configuration file NET.CFG
SHOW DOTS ON
FILE HANDLES 60
接続しているサーバ :SVR_FIELD
```

ネットワーク接続 / 切離用バッチファイルの編集

接続用バッチファイルの作成

DOSのテキストエディタを使用して、リンクサポートレイヤ・LANDライバ・プロトコルスタック・シェルの順にロードするバッチファイルを作成します。

例として「LD.BAT」というファイル名で以下の内容に編集して保存します(この例はNetWare 4.1Jのものです)。

<pre>LSL REXR280A IPXODI VLM</pre>	<pre>リンクサポートレイヤのロード LANDライバのロード プロトコルスタックのロード シェルのロード</pre>
------------------------------------	---

作成したバッチファイルを実行します。

```
C>LD <Enter>      バッチファイルの実行

C>LSL              リンクサポートレイヤのロード
NetWare Link Support Layer v2.14 (941011)
(C) Copyright 1990-1994 Novell, Inc. All Rights Reserved.

MAX STACKS 8
使用された環境設定ファイルは「C:¥NWCLI410¥NET.CFG」です
最多ポート数 4, 最多スタック数 8

C>REXR280A        LANDライバのロード
REX-R280/REX-5588/85 Ethernet MLID v1.00 (970522)
for IBM Card Services PCMCIA 1.07, 2.00
for System Soft Card Services PCMCIA 2.01, 2.10
for Phoenix Card Services PCMCIA 2.00, 2.01, 2.10 / PCPLUS 3.2
for DataBook Card Services PCMCIA 2.10
for NetWare 4.1xJ (3.1xJ)
(C) Copyright 1992-1997 RATO System Inc. Osaka Japan. All Rights Reserved.

Slot 1, IRQ 5, Port 300, Node Address C0D0550923 L
Max Frame 1514 bytes, Line Speed 10 Mbps, Bus ID 3
Board 1, Frame ETHERNET_802.2, LSB Mode

C>IPXODI          プロトコルスタックのロード
NetWare IPX/SPX Protocol v3.01 (941031)
(C) Copyright 1990-1994 Novell, Inc. All Rights Reserved.

論理ポート 1 (REXR280A)にバインドされました: プロトコル ID E0

C>VLM             シェルのロード
VLM.EXE          - NetWare virtual loadable module manager v1.20 (941108)
(C) Copyright 1994 Novell, Inc. All Rights Reserved.
Patent pending

VLM.EXEファイルは他のVLMを初期化中です.....
VLM.EXEファイルはXMSメモリを使用しています
アタッチしているサーバ SVR_FIELD

C>
```

第8章 DOSODIドライバのインストール

切離用バッチファイルの作成

DOSのテキストエディタを使用して、シェル・プロトコルスタック・LANドライバ・リンクサポートレイヤの順にアンロードするバッチファイルを作成します。

例として「ULD.BAT」というファイル名で以下の内容に編集して保存します(この例はNetWare 4.1Jのものです)。

```
VLM U
IPXODI U
REXR280A U
LSL U
```

シェルのアンロード
プロトコルスタックのアンロード
LANドライバのアンロード
リンクサポートレイヤのアンロード

作成したバッチファイルを実行します。

```
C>ULD <Enter>      バッチファイルの実行

C>VLM U            シェルのアンロード
VLM.EXE          - NetWare virtual loadable module manager v1.20 (941108)
(C) Copyright 1994 Novell, Inc. All Rights Reserved.
Patent pending

VLM.EXEファイルはメモリからアンロードされました

C>IPXODI U        プロトコルスタックのアンロード

IPXプロトコルはメモリからアンロードされました

C>REXR280A U      LANドライバのアンロード
REX-R280/REX-5588/85 Ethernet MLID v1.00 (970522)
for IBM Card Services PCMCIA 1.07, 2.00
for System Soft Card Services PCMCIA 2.01, 2.10
for Phoenix Card Services PCMCIA 2.00, 2.01, 2.10 / PCPLUS 3.2
for DataBook Card Services PCMCIA 2.10
for NetWare 4.1xJ (3.1xJ)
(C) Copyright 1992-1997 RATOC System Inc. Osaka Japan. All Rights Reserved.

The REXR280A driver has been successfully removed.

C>LSL U          リンクサポートレイヤのアンロード
NetWare Link Support Layer v2.14 (941011)
(C) Copyright 1990-1994 Novell, Inc. All Rights Reserved.

LSLはメモリからアンロードされました

C>
```

TCP/IPプロトコルを使用する場合のNET.CFG記述例

ここではDOSODIドライバ上で動作するTCP/IPソフトを使用する場合のNET.CFGファイルの記述例について説明します。

ここではLSL v2.xに対応したNET.CFGの記述で説明しています。LSL v1.xの場合と多少異なりますのでご注意ください。

NetWareとの共存を行わない場合

ここではLANドライバREXR280Aを使用してTCP/IPサポートソフトのみを動作させる場合のNET.CFGファイルの記述例を示します。

Protocol	IP			(a)
Bind		1		(b)
Protocol	ARP			(a)
Bind		1		(b)
; REX-R280 for DOS/V				
Link Driver	REXR280A			
INT		5		
PORT		300		
FRAME		Ethernet_II		(c)
Protocol	IP	0800	Ethernet_II	(d)
Protocol	ARP	0806	Ethernet_II	(d)

- (a)「Protocol IP」 ~ Protocolメインセクション見出し ~
行の先頭から左詰めで記述します。「Protocol」に続けてプロトコル名を記述します。通常TCP/IPサポートソフトでは「IP」と「ARP」の2つのプロトコルを指定します。
- (b)「Bind」 ~ Bindオプション ~
Protocolメインセクションのオプションで「Bind」に続けて論理ボード番号を記述します。論理ボード番号はLink DriverセクションのFrameオプションで登録するフレームタイプの順番を1~4の数字で指定します。ここではLink Driverセクションで指定するフレームタイプが1個のため「1」を記述しています。
- (c)「FRAME」 ~ Frameオプション ~
TCP/IPで使用するプロトコル「IP」と「ARP」のフレームタイプ「ETHERNET_II」を記述します。
- (d)「Protocol」 ~ Protocolオプション ~
TCP/IPで使用するプロトコル「IP」と「ARP」のプロトコルIDとフレームタイプを記述します。

論理ボードとは

DOSODIドライバには最大4個のプロトコルを常駐させることができます。そして、それぞれ常駐したプロトコルを論理的なボードにバインドさせることにより、複数のプロトコルを処理させることができます。Bindオプションに指定する数字はこの論理ボード番号を表します。この番号はLANDライバをロードしたときの「Board 1,...」メッセージの「Board」の次の数字に対応しています。

```

REX-R280/REX5588/85 Ethernet MLID v1.00 (970522)
for IBM Card Services PCMCIA 1.07, 2.00
for System Soft Card Services PCMCIA 2.01, 2.10
for Phoenix Card Services PCMCIA 2.00, 2.01, 2.10 / PCPLUS 3.2
for DataBook Card Services PCMCIA 2.10
for NetWare 4.1xJ (3.1xJ)
(C) Copyright 1992-1997 RATOC System Inc. Osaka Japan. All Rights Reserved.

Slot 1, IRQ 5, Port 300, Node Address C0D0550923 L
Max Frame 1514 bytes, Line Speed 10 Mbps, Bus ID 3
Board 1, Frame ETHERNET_802.2, LSB Mode      論理ボード「1」がEthernet_802.2
Board 2, Frame ETHERNET_II, LSB Mode        論理ボード「2」がEthernet_II
Board 3, Frame ETHERNET_SNAP, LSB Mode      論理ボード「3」がEthernet_SNAP
    
```

NetWareとの共存を行う場合

ここではLANDライバREXR280Aを使用してTCP/IPサポートソフトとNetWareのクライアントを動作させる場合のNET.CFGファイルの記述例を示します。

(1).サーバ上のLANDライバがETHERNET_IIを使用する場合

```

Protocol IP
  Bind 1
Protocol ARP
  Bind 1
Protocol IPX (a)
  Bind 1 (b)
; REX-R280 for DOS/V
Link Driver REXR280A
  INT 5
  PORT 300
  FRAME Ethernet_II
Protocol IP 0800 Ethernet_II
Protocol ARP 0806 Ethernet_II
Protocol IPX 8137 Ethernet_II (c)
    
```

(a)「Protocol IP」 ~ Protocolメインセクション見出し ~
TCP/IPのプロトコル「IP」と「ARP」以外にNetWare標準プロトコル「IPX」について記述します。

(b)「Bind」 ~ Bindオプション ~
ETHERNET_IIの論理ボード番号「1」を記述しています。

(2).サーバ上のLANドライバがETHERNET_802.2を使用する場合

Protocol	IP		
Bind		1	
Protocol	ARP		
Bind		1	
Protocol	IPX		
Bind		2	(a)
; REX-R280 for DOS/V			
Link Driver	REXR280A		
INT		5	
PORT		300	
FRAME		Ethernet_II	
FRAME		Ethernet_802.2	
Protocol	IP	0800	Ethernet_II
Protocol	ARP	0806	Ethernet_II
Protocol	IPX	E0	Ethernet_802.2 (b)

(a)「Bind」 ~ Bindオプション ~

ETHERNET_802.2の論理ボード番号「2」を記述しています。

(b)「Protocol IPX 8137 Ethernet_802.2」 ~ プロトコルオプション ~

NetWareのプロトコル「IPX」の使用するフレームタイプ「ETHERNET_802.2」とそのプロトコルID「E0」を記述します。

アライドテレシス(株) 製CentreNet PC/TCPでの例

ここではTCP/IPサポートソフトウェアとしてアライドテレシス(株)製 CentreNet PC/TCP Ver6.0(以下PC/TCP)をインストールする場合を例に説明します。

PC/TCPは、基本的にはパケットドライバで動作しています。DOSODIドライバを使用する場合、DOSODIドライバ起動後にこれをパケットドライバインターフェースにコンバートするモジュール(PC/TCPに含まれる)を起動します。

PC/TCPのセットアップ

(1).PC/TCPのCD-ROMより「INSTALL.EXE」を起動すると、「インストール種別」を聞いてきますので使用状況に合わせ選択してください(ここでは例として「新規... 標準構成」を選択します)。

[インストール種別]
バージョンアップ
新規... 標準構成
新規... 最小構成
LANアダプタのみ

「PC/TCPをインストールするディレクトリを指定して下さい。」ではインストール先ディレクトリを入力します。ルートディレクトリ以外を指定して<Etner>を押してください。

第8章 DOSODIドライバのインストール

「イーサネットアダプタを選択して下さい。」では「PC/TCPのみインストール」を選択します。

イーサネットアダプタを選択して下さい。

アライドテレシス製イーサネットアダプタ
他社製イーサネットアダプタ
PC / TCPのみインストール

ここで他社製イーサネットアダプタは選択しないでください。

「ドライバ種別の選択」では「ODIワークステーションドライバ」を選択してください。これより後はインストーラのメッセージに従って「シリアル番号」、「認証番号」、「ホスト名」、「IPアドレス」等の入力作業を進めます。

ドライバ種別を選択して下さい。

パケットドライバ
ODIワークステーションドライバ
NDISドライバ

インストーラに従って「AUTOEXEC.BAT」や「CONFIG.SYS」を変更してください。そしてファイルのコピー等が行われインストールが終了します。

(2)「AUTOEXEC.BAT」に追加された「odipkt」と「ethdrv」の2行をコメントアウトしてください。

変更前

```
PATH=C:¥PCTCP;%PATH%  
SET PCTCP=C:¥PCTCP¥PCTCP.INI  
odipkt  
ethdrv
```



変更後

```
PATH=C:¥PCTCP;%PATH%  
SET PCTCP=C:¥PCTCP¥PCTCP.INI  
rem odipkt  
rem ethdrv
```

次にディレクトリ「C:¥PCTCP」にある「NET.PCT」を「NET.CFG」にコピーします。

```
C>CD ¥PCTCP <Enter>  
C>COPY NET.PCT NET.CFG <Enter>
```

既存のNetWareディレクトリからLSL.COMとLANDライバをコピーします。

```
C>COPY ¥NWCLIENT¥LSL.COM ¥PCTCP <Enter>  
C>COPY ¥NWCLIENT¥REXR280A.COM ¥PCTCP <Enter>
```


(3).コピーしたNET.CFGファイルを変更します(ここでは例としてREXR280Aを使用しています)。

```
NET.CFG
link support
  Buffers      8      1514
  max stacks  8

Protocol IP
  Bind        2

Protocol ARP
  Bind        2

Link Driver REXR280A
  Port 300
  Int 5
  Frame ETHERNET_802.3
  Frame ETHERNET_II
  Protocol IP 0800 ETHERNET_II
  Protocol ARP 0806 ETHERNET_II
  Protocol IPX 0000 ETHERNET_802.3
```

(4).起動方法は次の手順で行います。

```
LSL <Enter>
REXR280A <Enter>
ODIPKT <Enter>
ETHDRV <Enter>
```

また実際の起動メッセージを以下に示します。

```
Copyright (c) 1986-1995 by FTP Software, Inc. All rights reserved.  
Copyright (c) 1988-1995 by Allied Telesis, K.K. All rights reserved.
```

```
Configuration:      SINT 0x6E  
                  MLID REXR280A  
                  Ethernet Address: 00:C0:D0:55:23:B7
```

```
C>ETHDRV          PC/TCPカーネルのロード  
CentreNET PC/TCP Resident Module Version 6.0 pl 0  
Copyright (c) 1986-1995 by FTP Software, Inc. All rights reserved.  
Copyright (c) 1988-1996 by Allied Telesis, K.K. All rights reserved.  
Kernel interrupt vector is 0x61  
Using 6 EMM pages...  
Code Segment occupies 2.9K of conventional memory  
Data Segment occupies 22.3K of conventional memory  
Packet Driver found at vector 0x6e  
  name:  
  version: 1, class: 1, type: 71, functionality: 6  
Using Network Driver IRQ (5) to improve performance.  
ifcust (PC/TCP Class 1 packet driver - DIX Ethernet) initialized  
6 free packets of length 160, 6 free packets of length 1514  
The Resident Module occupies 25.5K of conventional memory
```

Pingユーティリティによる動作確認

インストールが終了すると、「Ping」ユーティリティを使用し通信ができるかを確認します。

下記のメッセージが表示される場合セットアップが正常に終了しているので、PC/TCPのマニュアルに従い他のユーティリティの動作確認を行ってください。

```
host responding, time = 25 ms  
  
Debugging information for interface ifcust  Addr(6): 00 c0 d0 55 23 b7  
interrupts: 69 (6 receive, 0 transmit)  
packets received: 6, transmitted: 4  
receive errors: 0, unknown types: 0  
  runts: 0, aligns: 0, CRC: 0, parity: 0, overflow: 0  
  too big: 0, out of buffers: 0, rcv timeout: 0, rcv reset: 0  
transmit errors: 0  
  collisions: 0, underflows: 0, timeouts: 0, resets: 0  
  lost crs: 0, heartbeat failed: 0  
ARP statistics:  
arps received: 1 (0 requests, 1 replies)  
  bad: opcodes: 0, hardware type: 0, protocol type: 0  
arps transmitted: 2 (2 requests, 0 replies)  
0 huge buffers; 0 free now; minimum of 0 free  
6 large buffers; 5 free now; minimum of 5 free  
6 small buffers; 6 free now; minimum of 5 free
```

セットアップが正常に終了していない場合やドライバパラメータの設定に誤りがある場合、1行目に以下のメッセージが表示されます。

```
Ping failed:Host unreachable:ARP failed
```

このようなメッセージが表示される場合、もう一度設定を確認して状況・設定ファイル等を明記し、弊社サポートセンターまで連絡してください。

ドライバの表示メッセージ

Slot1, Int5, Port 300, Node Address C0D05500FF
 Max Frame 1514 bytes, Line Speed 10Mbps, Bus ID 3
 Board 1, Frame ETHERNET_802.3, LSB Mode

- 意味
- ・割り込み番号「5」、I/Oベースアドレス「300h」で起動しています。
 - ・カードのノードアドレスは「00C0D05500FF」です。

Slot2, Int5, Port 300
 Max Frame 1514 bytes, Line Speed 10Mbps
 Board 1, Frame ETHERNET_802.3

- 意味
- ・割り込み番号「5」、I/Oベースアドレス「300h」で起動しています。
 - ・カードが挿入されていないか、カードを正しく認識していません。

カードが挿入されているにもかかわらず、Node Address が表示されない場合

原因1

- ・「CSALLOC.INI」ファイルの「MEM=」オプションの指定が不正

対処

- ・「EMM386.EXE」の「X」または「/E」オプションの指定エリアと一致させる。

原因2

- ・カード属性読みだしメモリ・ウィンドウがEMSの領域やROMと競合している

対処

- ・「EMM386.EXE」の「X」または「/E」オプションの値を変更してみる(「CSALLOC.INI」ファイルの「MEM=」オプションのエリアも上に合わせて変更する必要があります)。

ドライバをアンロードしました。

意味

- ・エラーによりドライバがロードされなかった

対処

- ・以降に説明するエラーメッセージに対応した処理を行う。

カードサービスプログラムが常駐していません

意味

- ・カードサービスが正しく起動していないため、REXR280x.COMが起動できなかった

原因1

- ・「CSALLOC.INI」ファイルの「MEM=」オプションの指定が不正

対処

- ・「EMM386.EXE」の「X」または「/E」オプションの指定エリアと一致させる。

原因2

- ・カードサービスが使用するメモリがEMSの領域やROMと競合している

対処

- ・「EMM386.EXE」の「X」または「/E」オプションの値を変更してみる(「CSALLOC.INI」ファイルの「MEM=」オプションのエリアも上に合わせて変更する必要があります)。

本カードではそのベースアドレスは使用できません

意味

- ・REX-R280で選択できないアドレスが指定された。

原因

- ・「NET.CFG」ファイルの「PORT」オプションに記述した値が範囲外

- ・「PROTOCOL.INI」ファイルの「IOBASE」項目に記述した値が範囲外

対処

- ・パソコン本体のI/Oポートアドレスが、他のデバイスと競合しない値を記述する。

第8章 DOSODIドライバのインストール

本カードではその割り込み番号は使用できません

- 意味 ・REX-R280で選択できない割り込み番号が指定された。
- 原因 ・「NET.CFG」ファイルの「INT」オプションに記述した値が範囲外
・「PROTOCOL.INI」ファイルの「INTERRUPT」項目に記述した値が範囲外
- 対処 ・パソコン本体の割り込み番号が他のデバイスと競合しない値を記述する。

IRQが取得できません

- 意味 ・カードサービスから割り込み番号の割り当て要求を拒否された。
- 原因1 ・「NET.CFG」ファイルの「INT」オプションを省略している場合、割り込み番号「5」が他のデバイスと競合している
・「PROTOCOL.INI」ファイルの「INTERRUPT」項目を省略している場合、割り込み番号「5」が他のデバイスと競合している
- 対処 ・「INT」オプションを指定して、REX-R280が使用する割り込み番号を「5」以外にする。
・「INTERRUPT」項目を指定して、REX-R280が使用する割り込み番号を「5」以外にする。
- 原因2 ・「NET.CFG」ファイルの「INT」オプションで指定した割り込み番号が他のデバイスと競合している
・「PROTOCOL.INI」ファイルの「INTERRUPT」項目で指定した割り込み番号が他のデバイスと競合している
- 対処 ・「INT」オプションの値を他に変更する。
・「INTERRUPT」項目の値を他に変更する。
- 原因3 ・「NET.CFG」ファイルの「INT」オプションで指定した割り込み番号が「CSALLOC.INI」ファイルの「IRQ=」オプションに含まれていない
・「PROTOCOL.INI」ファイルの「INTERRUPT」項目で指定した割り込み番号が「CSALLOC.INI」ファイルの「IRQ=」オプションに含まれていない
- 対処 ・「INT」オプションの値を「CSALLOC.INI」の「IRQ=」オプションに含まれている値に変更する。
・「INTERRUPT」項目の値を「CSALLOC.INI」の「IRQ=」オプションに含まれている値に変更する。

クライアントの登録ができません

- 原因 ・メモリー不足
- 対処 ・コンベンショナルメモリーを増やす。

カードコンフィギュレーションに失敗しました

- 原因1
- ・「NET.CFG」ファイルの「PORT」オプションを省略している場合、デフォルトI/Oアドレスから16バイトが他のデバイスと競合している
 - ・「PROTOCOL.INI」ファイルの「IOBASE」項目を省略している場合、デフォルトI/Oアドレスから16バイトが他のデバイスと競合している
- 対処
- ・「PORT」オプションを指定して、REX-R280が使用するI/Oベースアドレスを、デフォルト以外にする。
 - ・「IOBASE」項目を指定して、REX-R280が使用するI/Oベースアドレスを、デフォルト以外にする。
- 原因2
- ・「NET.CFG」ファイルの「PORT」オプションで指定したI/Oアドレスが他のデバイスと競合している
 - ・「PROTOCOL.INI」ファイルの「IOBASE」項目で指定したI/Oアドレスが他のデバイスと競合している
- 対処
- ・「PORT」オプションの値を他に変更する。
 - ・「IOBASE」項目の値を他に変更する。
- SystemSoftカードサービスのリソースファイル「CSALLOC.INI」を使用する機種の場合、「CSALLOC.INI」ファイルの「IO=」オプションのリストの範囲で変更する必要があります。

ICカードが違います

ICカードが違います または指定されたソケットにカードがありません

- 意味
- ・カード属性情報がREX-R280のものでない。
- 原因
- ・REX-R280以外のカードが挿入されている
- 対処
- ・PCカードをREX-R280に変更する。

第9章 NDISドライバのインストール

NDISドライバについて

NDISとは「Network Driver Interface Specification」のイニシャルを組み合わせたネットワークカード用ドライバの名称で、3com社とMicrosoft社によって仕様が提唱されました。本製品に添付するNDISドライバはVersion 2.0.1/ 3.0/ 3.1に準拠しています。

この章ではDOS/Windows3.1上で本製品に添付するNDISドライバを日本語MS LANマネージャ v2.1x/ CHAMELEONで使用する場合のインストール手順を説明します。

また実際に使用されるLANDライバ名の一覧を以下に示します。DOS上でLANDドライバをロードする場合この名称を入力します。対応PCMCIAドライバに関しては後述の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

日本語MS LANマネージャ v2.1x/ CHAMELEONの場合

機種	PCMCIAドライバ	LANDライバ
DOS/V	カードサービス	NDR280A.DOS
	i82365直接制御	NDR280I.DOS
PC-9821	カードサービス	NDR280N.DOS
EPSON	カードサービス	NDR280E.DOS

パラメータ値について

NDIS用のLANDドライバに設定できる値は以下の通りです。

INTERRUPTオプション(ハードウェア割り込み)

機種	設定できる割り込み番号	デフォルト値
DOS/V	3, 5, 9, 10, 11, 12, 15	5
PC-9821	3, 5, 6, 10, 12	5
EPSON	3, 5, 12	3

IOBASEオプション(I/Oベースアドレス)

機種	設定できるポートアドレス	デフォルト値
DOS/V	240, 280, 2C0, 300, 340, 380	300
PC-9821	カードサービス D0, 1D0, 2D0, 3D0, 4D0, 5D0	D0
EPSON	380, 3A0, 3C0	3C0

16進を示す0xffff形式で指定します

MEMBASEオプション(メモリウインドウ)

機種	設定できるメモリアドレス	デフォルト値
DOS/V	Cn000 ~ Dn000 (n:0 ~ F) ROMおよびEMS,USBが使用していないメモリアドレス	CE000

DOS/Vの i82365直接制御のみ設定可能

16進を示す0xffff形式で指定します

SOCKETオプション(ソケット番号)

機種	設定できるソケット番号	
共通	0 (自動検出), 1 (下側), 2 (上側)	0 (自動検出)

BEEPオプション(カード挿入時のビープ音)

機種	設定できる値	デフォルト値
DOS/V カードサービスのみ	0 (なし), 1 (あり)	1 (あり)

TXEVENPADオプション(偶数パディング)

機種	設定できる値	デフォルト値
共通	0 (なし), 1 (偶数パディング)	0 (なし)

NODEオプション(ローカルノードアドレス)

機種	設定できる値
共通	"nnnnnnnnnnnn" (n: 0-F)

PCIC BASEオプション(DOS/V i82365直接制御のみ)

機種	設定できる値	デフォルト値
EPSON Vividy Note	3000	3E0

第9章 NDISドライバのインストール

日本語MS LANマネージャ v2.1でのインストール

ここでは日本語MS LANマネージャ v2.1以降(以後LANマネージャ)を、MS-DOS/Windows3.1用ワークステーションとしてインストールする手順を説明します。

インストールディスクの準備

クライアントパソコンの機種に対応したLANマネージャディスクと、本製品添付のLANドライバディスクを用意してください

インストーラの起動

LANマネージャの「Disk1」をパソコン本体のフロッピーディスクドライブに挿入し、次のように入力します。

C:¥>A: <Enter>
A:¥>SETUP <Enter>

カレントドライブをDisk1に移動
インストーラの起動

次のような画面ではインストール元のフロッピーディスクドライブと、インストール先のディレクトリを入力します。ご使用状況に合わせて変更してください。入力し終わったら<Enter>キーを押してください。

LAN Manager のインストール

次のドライブからインストールします:
[A:.....]

(ドライブ名を含む)次のディレクトリにインストールします:
[C:¥LANMAN.DOS.....]

[了解] < 取消 > < 終了 > < ヘルプ >

インストールの開始

「拡張版」と「基本版」のいずれかを選択して続行してください。この説明では「基本版」を選択します。この選択を行うとファイルのコピーが開始されますので、メッセージに従ってLANマネージャディスクを挿入してください。その後以下のような画面が表示されますので、「< その他のドライバ(D) >」を選択して(「Alt」+「D」キーを押す)ください。

ネットワークアダプタドライバ

使用可能なネットワークアダプタドライバを選択してください:

'Soliton SB-AT01 アダプタ (AT 16-Bit バス用)'
'Soliton SB-AT01 アダプタ (XT 8-Bit バス用)'
'Soliton SN-5501 アダプタ (PS/55 Note 用)'
3Com Etherlink Adapter (3C501)
3Com Etherlink II Adapter (3C503)
3Com Etherlink Plus Adapter (3C505-B)
3Com Etherlink/MC Adapter (3C523)
3Com Etherlink16 and 16 TP Adapter (3C507)
3Com TokenLink Adapter (3C603)
COMPAQ 32-Bit Token Ring EISA Adapter

[了解] < その他のドライバ(D) > < 取消 > < 終了 > < ヘルプ >

LANドライバのコピー

この画面が表示されたら、本製品添付のLANドライバディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、LANマネージャ用ドライバがあるディレクトリを入力してください。LANマネージャ用ドライバは以下のパスにあります(ディレクトリパスに含まれる「A:」、「C:」は各パソコンのフロッピーディスクドライブに割り当てられているものとします)。

——— ドライバまたはプロトコルファイルのコピー ———

指定されたドライブにネットワークドライバディスクを挿入してください。

または新規のパス名を指定してください:

そのあとで <了解>を選択してください。

[了解] < 取消 > < 終了 > < ヘルプ >

機種	PCMCIAドライバ	LANドライバ名	ディレクトリパス名
DOS/V	カードサービス	NDR280A.DOS	A:¥
	i82365直接制御	NDR280I.DOS	A:¥
PC-9821	カードサービス	NDR280N.DOS	C:¥
EPSON	カードサービス	NDR280E.DOS	C:¥

対応PCMCIAドライバに関しては後述の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

入力が完了したら<Enter>キーを押してください。以下のように表示されます(以下の画面は先ほどのパス指定で「A:¥」を入力したものです)。

——— ネットワークアダプタドライバ ———

使用可能なネットワークアダプタドライバを選択してください:

RATOC REX-R280 LAN PC card for PC-98
 RATOC REX-R280 LAN PC card for EPSON PC
RATOC REX-R280 LAN PC card for DOS/V (Card Services)
 RATOC REX-R280 LAN PC Card for DOS/V (PCIC Direct)

[了解] < その他のドライバ(D) > < 取消 > < 終了 > < ヘルプ >

第9章 NDISドライバのインストール

インストールの完了

設定を保存し、メッセージに従ってインストールを完了してください。

設定の完了

LAN Manager ワークステーションの設定が完了しました。

設定を見直すには <再設定> を選択してください。

設定を保存するには <保存> を選択してください。

[保存(S)] < 再設定(R) > < 終了(E) > < ヘルプ >

パラメータの設定

インストールが完了すると、自動的にSIS(Service Installation System)が起動されます。ここではREX-R280のI/Oアドレス・割り込み等を設定します。設定できる値は、この章の初めの「パラメータ値について」を参照してください。

パラメータの設定

I/OBASE	[0x300.....]
INTERRUPT	[5.....]

< 確認 > < 取消 >

システムの再起動

以上でドライバのインストールは終了です。システムを再起動することにより、新しく設定された値でLANマネージャが起動します。

LANマネージャのアップデート (PC-9821)

この処理はREX-R280をPC-98シリーズで使用する場合のみ必要です。

カードサポートソフトウェアに含まれるアップデートコマンド「CARDLM」を実行して、LANマネージャをアップデートしておく必要があります。

- (1).PC-98本体添付または別売りのカードサポートソフトウェアディスクを用意します。
- (2).そのディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、カレントドライブをそのドライブに変更します。
- (3).「CARDLM」コマンドを実行してLANマネージャをアップデートしてください。

```
A:¥>C: <Enter>
C:¥>CARDLM C:¥LANMAN.DOS <Enter>
```

ドライバパラメータの再設定

ドライバパラメータの再設定を行う場合、「SIS.EXE」ユーティリティを使用します。まずLANマネージャをインストールしたディレクトリに、カレントディレクトリを移動してください。

C:¥>CD ¥LANMAN.DOS <Enter>

カレントを「LANMAN.DOS」に移動

次に「SIS.EXE」を起動してください。

C:¥LANMAN.DOS>SIS <Enter>

「SIS.EXE」を起動

SISのメニューから「操作(O)」「サービスのレベル(E)」を選択してください。ここで「インストールされているサービス」項目に「ドライバのチューニング」を選んでください。

変更するセクションが表示されたら、「REXR280A_NIF」を「Yes」に変更して<Enter>キーを押してください。

===== 変更するセクション =====

NETBEUI_XIF	[No.....]
TCP/IP_XIF	[No.....]
NDR280A_NIF	[Yes.....]

< 確認 > < 取消 >

設定の変更

必要に応じて「IOBASE」、「INTERRUPT」、「MEMBASE」の値を変更して、<確認>を選択してください。変更が完了したら「SIS.EXE」を終了して、新しい設定を有効にするためシステムを再起動してください。

===== REXR280A_NIFの設定 =====

IOBASE	[0x300.....]
INTERRUPT	[5.....]
DRIVERNAME	[NDR280A\$.....]

< 確認 > < 取消 >

LANマネージャのユーティリティは「CONFIG.SYS」のマルチコンフィグに対応していません。マルチコンフィグを使用している場合はLANマネージャ自身が正しく起動しないため、お手持ちのテキストエディタ等で修正してください。

第9章 NDISドライバのインストール

CHAMELEONでのインストール

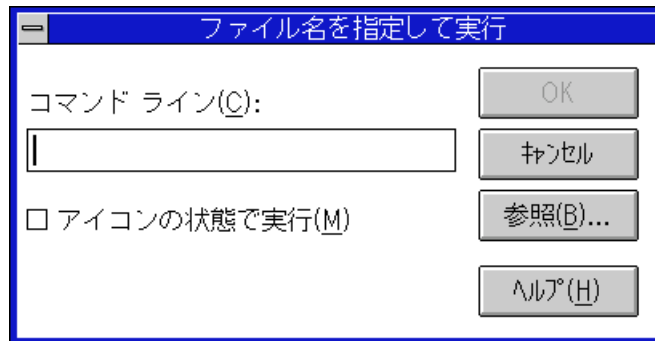
ここではCHAMELEON TCP/IP for Windows日本語版 3.11/4.0x(以後CHAMELEON)を、Windows3.1でインストールする手順を説明します。

インストールディスクの準備

クライアントパソコンの機種に対応したCHAMELEONディスクと、本製品添付のLANドライバディスクを用意してください。

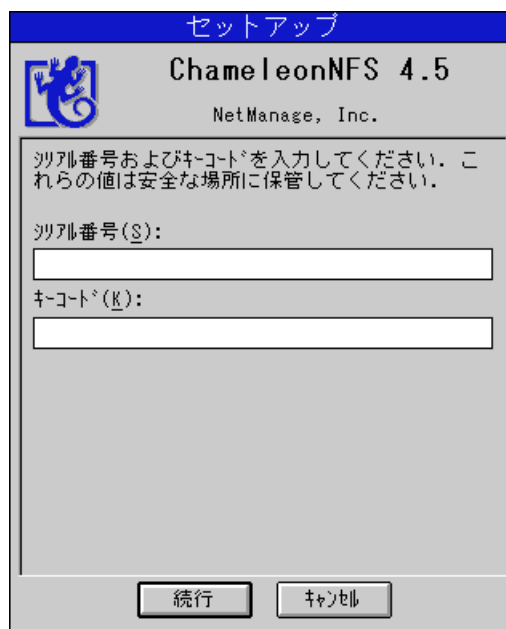
インストーラの起動

CHAMELEONの「Setup-Disk1」をパソコン本体のフロッピーディスクドライブに挿入し、「アイコン(E)」メニューより「ファイル名を指定して実行(R)...」を選択してください。次に下のウインドウの「コマンドライン(C):」に「A:¥SETUP」を入力して「OK」をクリックしてください。



シリアル番号等の入力

インストーラーが起動すると以下のような画面が表示されます。ここで「シリアル番号(S):」、「キーコード(K):」の入力を行ってください。次にインストールするディレクトリ名を設定すると、ファイルのコピーが始まります。メッセージに従ってディスクを挿入してください。



Customのハードウェア設定

以下の画面が表示されるまでインストール作業を続けてください。セットアップの終了で「OK」をクリックすると、ハードウェアの設定が表示されます。



この「ハードウェア」の設定画面では以下の通りに入力してください。



(a)「ベンダ (V):」

この項目は「その他」をメニューから選択してください。

(b)「セクション名(S):」

この項目はご使用のパソコンによって変わります。下の表を参考に入力してください。

(c)「ドライバ名(N):」

この項目もご使用のパソコンによって変わります。下の表を参考に入力してください。

機種	セクション名	ドライバ名
DOS/V	NDR280A_NIF	NDR280A\$
Direct	NDR280I_NIF	NDR280I\$
PC-9821	NDR280N_NIF	NDR280N\$
EPSON	NDR280E_NIF	NDR280E\$

(d)「ドライバファイル(E):」

この項目はご使用のパソコン・PCMCIAドライバによって変わります。下の表を参考に入力してください。対応PCMCIAドライバに関しては後述の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

機種	PCMCIAドライバ	ドライバファイル名
DOS/V	カードサービス	???¥NDR280A¥NDR280A.DOS
	i82365直接制御	???¥NDR280I¥NDR280I.DOS
PC-9821	カードサービス	???¥NDR280N¥NDR280N.DOS
EPSON	カードサービス	???¥NDR280E¥NDR280E.DOS

第9章 NDISドライバのインストール

(e).I/Oポートアドレス・割り込み番号等

この項目はユーザ自身で記述します。ここには使用するI/Oポートアドレス・割り込み番号・メモリ開始アドレスを記述します。記述できる値は、この章の初めの「パラメータ値について」を参照してください。

ハードウェア設定が終わったら続けて「インターネットアドレス」、「サブネットマスク」、「ホスト名」等の設定を行います。

NDISドライバのコピー

本製品添付のLANドライバディスクをパソコン本体のフロッピーディスクドライブに挿入してください。次に「Custom」ユーティリティの「ファイル(F)」メニューから「上書き保存(S)」を選択してください。この時点でLANドライバディスクからNDISドライバがコピーされます。

あとはメッセージに従ってパソコン本体を再起動すれば、インストールが完了します。

「Custom」ユーティリティは「CONFIG.SYS」のマルチコンフィグに対応していません。マルチコンフィグを使用している場合はCHAMELEON自身が正しく起動しないため、お手持ちのテキストエディタ等で修正してください。

CHAMELEONでの設定ファイル例

PROTOCOL.INIファイルの例

```
[NDR280A_NIF]
DRIVERNAME=NDR280A$
INTERRUPT=5
IOBASE=0x300
```

セクション名
ドライバ名
割り込み番号
I/Oベースアドレス

```
[NETMANAGE]
DRIVERNAME=NETMNG$
BINDINGS=NDR280A_NIF
```

CONFIG.SYSファイルの例

```
DEVICE=C:¥NETMANAG¥PROTOMAN.DOS /I:C:¥NETMANAG
DEVICE=C:¥NETMANAG¥NDR280A.DOS
DEVICE=C:¥NETMANAG¥NETMANAG.DOS
```

AUTOEXEC.BATファイルの例

```
C:¥NETMANAG¥NETBIND
```

エラーメッセージについて

下のメッセージが表示される場合、上記いずれかの設定ファイルに誤りがあると思われます。もう一度設定を確認してください。

```
Failed to get interface characteristics table
```

```
Failed to initialize interface
```

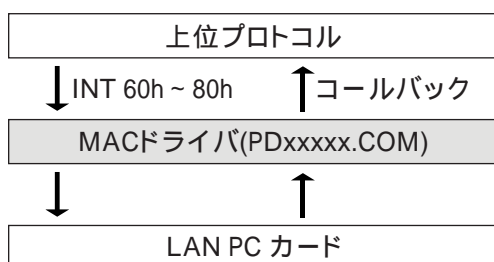
第10章 パケットドライバのインストール

パケットドライバについて

この章では、DOS/Windows3.1上でパケットドライバを使用する場合のインストール手順を説明します。パケットドライバはMCAドライバと上位プロトコルのインターフェース仕様で、米FTP社などを中心に開発されました。本製品に含まれるパケットドライバPDxxxx.COMは、パケットドライバ仕様v1.11に対応したMCAドライバです。

上位プロトコルのドライバモジュールは含まれていませんので別途ご用意ください。

プロトコルモデル図



パケットドライバのインストール

ドライバのコピー

(1)パケットドライバ関連ファイルを格納するためのディレクトリを作成します。

```

C:¥>MD C:¥PD <Enter>
C:¥>CD ¥PD <Enter>
C:¥PD>
  
```

(2).LANドライバディスクからのコピー

フロッピーディスクドライブに本製品付属のLANドライバディスクを挿入してパケットドライバ関連のファイルをコピーします。

```

C:¥PD>COPY A:¥PD C: <Enter>
  
```

以下に使用できるパケットドライバ名を示します。対応PCMCIAドライバに関しては後述、第6章付録の「PCMCIAデバイスドライバについて」をご覧ください。

機種	PCMCIAドライバ	パケットドライバ名
DOS/V	カードサービス	PDR280A.COM
	i82365直接制御	PDR280I.COM
PC-9821	カードサービス	PDR280N.COM
EPSON	カードサービス	PDR280E.COM

ドライバのパラメータ

パラメータは以下の2種類の書式で指定できます。

書式1

```
PDxxxx [option] <packet_int_no> [int_no] [io_addr] [mem_addr] [slot_no]
```

「packet_int_no」パラメータは省略できません。

「int_no」～「slot_no」のパラメータは順番通りに指定しなければなりません。これらは省略可能ですが、途中のパラメータだけを省略することはできません。

書式2

```
PDxxxx [option] <packet_int_no> [-i int_no] [-a io_addr] [-m mem_addr] [-s slot_no] [-n node_address]
```

「packet_int_no」パラメータは省略できません。

以下の5つのパラメータは任意に指定可能です。

- 「-i」 割り込み番号指定
- 「-a」 I/Oベースアドレス指定
- 「-m」 占有メモリアドレス指定
- 「-s」 スロット番号指定
- 「-n」 ノードアドレス指定

オプション ~ option ~

指定可能なオプションは「-u」のみです。

- 「-u」 ドライバの常駐解除(アンロード)を行います。

割り込みベクタ ~ Packet_int_no ~

1番目のPacket_int_noパラメータは、MACドライバが上位プロトコルドライバとの間で使用するソフトウェア割り込みのベクタ番号を指定します。0x60～0x80の間で他のソフトウェアが使用していない値を指定します。

割り込み番号 ~ int_no ~

2番目のint_noパラメータは、PCカードに割り当てるハードウェア割り込みの割り込み番号を指定します。設定可能な割り込み番号は使用機種などによって異なります。また必ず「NICUT.EXE」のループバックテストで動作が確認された割り込み番号で、他のデバイスが使用していない値を指定します。

機種	設定できる割り込み番号	デフォルト値
DOS/V	3, 5, 9, 10, 11, 12, 15	5
PC-9821	3, 5, 6, 10, 12	5
EPSON	3, 5, 12	3

I/Oベースアドレス ~ io_addr ~

3番目のio_addrパラメータは、PCカードに割り当てるI/Oウインドウのベースアドレスを指定します。設定可能なI/Oベースアドレスは使用機種・PCMCIAドライバなどによって異なります。また必ず「NICUT.EXE」のループバックテストで動作が確認されたI/Oベースアドレスで、他のデバイスが使用していない値を指定します。

機種	設定できるI/Oベースアドレス	デフォルト値
DOS/V	240, 280, 2C0, 300, 340, 380	300
PC-9821	カードサービス D0, 1D0, 2D0, 3D0, 4D0, 5D0	D0
EPSON	380, 3A0, 3C0	3C0

メモリアドレス ~ mem_addr ~

4番目のmem_addrパラメータは、カード属性情報を直接読み出すためのメモリウインドの開始セグメント値を指定します。PCMCIAドライバにカードサービスが導入されている場合、カードサービス経由でカード属性情報を読み出すため、このオプション指定は必要ありません。

機種	設定できるメモリアドレス	デフォルト値
DOS/V	Cn000 ~ Dn000 (n:0 ~ F) ROMおよびEMS,USBが使用していないメモリアドレス	CE000

DOS/Vの i82365直接制御のみ使用可能

スロット番号 ~ slot_no ~

5番目のslot_noパラメータは、PCカードを装着するPCカードスロットの番号を指定します。

機種	設定できるスロット番号	デフォルト値
DOS/V	0 (自動検出)	0 (自動検出)
PC-9821	1 (下側)	
	2 (上側)	

EPSONは0のみ設定可能ですが、デフォルト値ですので設定する必要はありません。

ノードアドレス指定 ~ node_address ~

6番目のnode_addressパラメータは、接続されているネットワークシステムでノードアドレスに制限があるために、ハードウェアの持つグローバルアドレス以外の値が必要な場合に指定します。ノードアドレスは12桁の16進数で指定します(16進数を表す「0x」は必要ありません)。

パケットドライバの起動確認

ドライバのロード

PCカードスロットにREX-R280を装着して、目的のパケットドライバをロードしてみます。

このとき、「NICUT.EXE」で正常な動作を確認した「I/Oアドレス」、「割り込み番号」等のパラメータを指定します。

```
C>PDR280A 0x60 0x5 0x300 <Enter>          パケットドライバのロード
Packet driver for REX-R280 version 11.9
Portions Copyright 1994-1997, RATOC System Inc.
Packet driver skeleton copyright 1988-93, Crynwr Software.

Packet driver software interrupt is 0x60 (96)
Interrupt number 0x5 (5)
I/O port 0x300 (768)
Slot number 0x1 (1)
My Ethernet address is 00:C0:D0:55:23:B7

C>
```

MACドライバが正常にロードされたら、別途用意した上位プロトコルのドライバモジュールをロードします。このとき上位プロトコルモジュールに対して指定するMACドライバのソフトウェア割り込み番号は、MACドライバのロード時に指定したものと同一値を指定します。詳しくは、上位プロトコルモジュールのマニュアル等を参照してください。

ドライバのアンロード

MACドライバのアンロードは、必ず上位プロトコルモジュールをアンロードした後に実行します。MACドライバのアンロードは「-u」オプションにより行います。

```
C>PDR280A -u 0x60 <Enter>          パケットドライバのアンロード
Packet driver for REX-R280 version 11.9
Portions Copyright 1994-1997, RATOC System Inc.
Packet driver skeleton copyright 1988-93, Crynwr Software.

Uninstall completed

C>
```

packet_int_noパラメータは、上位のプロトコルモジュールとの間で使用するソフトウェア割り込みのベクタ番号で、必ずMACドライバをロードするときに指定した値を指定します。

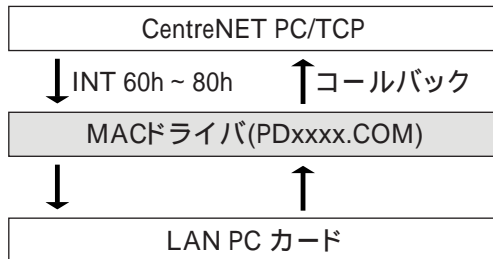
パケットドライバの常駐後に他の常駐プログラムがロードされている場合は、パケットドライバの常駐を解除できません。他の常駐プログラムの常駐解除を先に行ってください。

アライドテレシス(株)製 CentreNET PC/TCPでの例

ここではTCP/IPサポートソフトウェアとしてアライドテレシス(株)製 CentreNET PC/TCP Ver. 6.0 (以下PC/TCP)をインストールする場合を例に説明します。

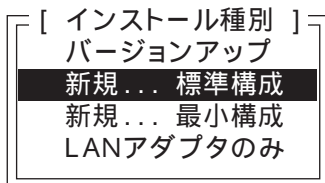
PC/TCPは基本的にパケットドライバ上で動作しています。

プロトコルモデル図



PC/TCPのセットアップ

(1).PC/TCPのCD-ROMより「INSTALL.EXE」を起動すると、「インストール種別」を聞いてきますので使用状況に合わせ選択してください(ここでは例として「新規... 標準構成」を選択します)。



「PC/TCPをインストールするディレクトリを指定して下さい。」ではインストール先ディレクトリを入力します。ルートディレクトリ以外を指定して<Enter>を押してください。

「イーサネットアダプタを選択して下さい。」では「PC/TCPのみインストール」を選択します。

イーサネットアダプタを選択して下さい。

アライドテレシス製イーサネットアダプタ
他社製イーサネットアダプタ
PC/TCPのみインストール

ここで他社製イーサネットアダプタは選択しないでください。

「ドライバ種別の選択」では「パケットドライバ」を選択してください。これより後はインストーラのメッセージに従って「シリアル番号」、「認証番号」、「ホスト名」、「IPアドレス」等の入力作業を進めます。

ドライバ種別を選択して下さい。

パケットドライバ
ODIワークステーションドライバ
NDISドライバ

第10章 パケットドライバのインストール

インストーラに従って「AUTOEXEC.BAT」や「CONFIG.SYS」を変更してください。そしてファイルのコピー等が行われインストールが終了します。

(2)「AUTOEXEC.BAT」に追加された「ethdrv」の1行をコメントアウトしてください。

変更前

```
PATH=C:¥PCTCP;%PATH%
SET PCTCP=C:¥PCTCP¥PCTCP.INI
ethdrv
```



変更後

```
PATH=C:¥PCTCP;%PATH%
SET PCTCP=C:¥PCTCP¥PCTCP.INI
rem ethdrv
```

フロッピーディスクドライブに本製品付属のLANドライバディスクを挿入して「¥PD」ディレクトリからパケットドライバをコピーします(目的のパケットドライバはこの章初めの「パケットドライバのコピー」を参照してください)。

```
C:¥>CD ¥PCTCP <Enter>
C:¥PCTCP>COPY A:¥PD C: <Enter>
```

(3)起動方法は次の手順で行います。

最初にパケットドライバPDxxx.COMを起動します。各オプションの先頭には16進数を表す0xを付けます。割り込みベクタは0x60から0x80が指定できますが、PC/TCPが0x61をデフォルトで使用するためそれ以外の値を指定してください。

次に「ETHDRV.EXE」を起動してください。

実際の起動メッセージを以下に示します。

```
C>PDR280A 0x60 0x5 0x300 <Enter>          パケットドライバのロード
Packet driver for REX-R280 version 11.9
Portions Copyright 1994-1997, RATOC System Inc.
Packet driver skeleton copyright 1988-93, Crynwr Software.

Packet driver software interrupt is 0x60 (96)
Interrupt number 0x5 (5)
I/O port 0x300 (768)
Slot number 0x1 (1)
My Ethernet address is 00:C0:D0:55:23:B7

C>ETHDRV <Enter>                          PC/TCPカーネルのロード
CentreNET PC/TCP Resident Module Version 6.0 pl 0
Copyright (c) 1986-1995 by FTP Software, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1988-1996 by Allied Telesis, K.K. All rights reserved.
Kernel interrupt vector is 0x61
Using 6 EMM pages...
Code Segment occupies 2.9K of conventional memory
Data Segment occupies 22.3K of conventional memory
Packet Driver found at vector 0x60
name:
version: 11, class: 1, type: 0, functionality: 2
Using autodetected IRQ (5) to improve performance.
ifcust (PC/TCP Class 1 packet driver - DIX Ethernet) initialized
6 free packets of length 160, 6 free packets of length 1514
The Resident Module occupies 25.5K of conventional memory

C>
```

Pingユーティリティによる動作確認

「ETHDRV.EXE」の起動が正常に完了すると、「Ping」ユーティリティを使用して通信できるか確認します。下記のメッセージが表示される場合セットアップが正常に終了していますので、PC/TCPのマニュアルに従い他のユーティリティの動作確認を行ってください。

```

C>Ping 192.168.2.202 <Enter>           Pingの実行
host responding, time = 25 ms

Debugging information for interface ifcust  Addr(6): 00 c0 d0 55 23 b7
interrupts: 524 (28 receive, 0 transmit)
packets received: 28, transmitted: 8
receive errors: 0, unknown types: 0
  runts: 0, aligns: 0, CRC: 0, parity: 0, overflow: 0
  too big: 0, out of buffers: 0, rcv timeout: 0, rcv reset: 0
transmit errors: 0
  collisions: 0, underflows: 0, timeouts: 0, resets: 0
  lost crs: 0, heartbeat failed: 0
ARP statistics:
arps received: 2 (2 requests, 0 replies)
  bad: opcodes: 0, hardware type: 0, protocol type: 0
arps transmitted: 3 (2 requests, 1 replies)
0 huge buffers; 0 free now; minimum of 0 free
6 large buffers; 5 free now; minimum of 5 free
6 small buffers; 6 free now; minimum of 4 free

C>
    
```

セットアップが正常に終了していない場合やドライバパラメータの設定に誤りがある場合、1行目に以下のメッセージが表示されます。

Ping failed:Host unreachable:ARP failed

このようなメッセージが表示される場合、もう一度設定を確認して状況・設定ファイル等を明記し、弊社サポートセンターまで連絡してください。

ドライバの表示メッセージ

usaga: PDxxxx [option] packet_int_no <int_level> <io_addr> <slot_no>

usaga: PDxxxx [option] packet_int_no <int_level> <io_addr> <slot_no> <mem>

意味 ・必要なパラメータが指定されていない。

対処 ・この章の「ドライバのパラメータ」に従って設定を確認する。

Error: There is already a packet driver(you may uninstall it using -u) at 0x60 (96)

意味 ・指定されたソフトウェア割り込みは既にパケットドライバで使用されている。

対処 ・違うベクタ番号を指定する。

Error: There is no packet driver at 0x60

意味 ・指定されたソフトウェア割り込みに常駐しているパケットドライバがない。

対処 ・パケットドライバの常駐解除は実行しない(必要なし)。

Error: no packet dirver found between 0x60 and 0x80

- 意味 ・ソフトウェア割り込み0x60～0x80に常駐しているパケットドライバがない。
対処 ・パケットドライバの常駐解除は実行しない(必要なし)。

Error: There are two packet drivers(specify the desired one after -u)

- 意味 ・ソフトウェア割り込み0x60～0x80にパケットドライバが2つ以上常駐している。
対処 ・常駐解除したいパケットドライバのソフトウェア割り込みを指定する。

Error: <int_no> should be between 0 and 15 inclusive

- 意味 ・指定されたIRQの値が0～15の範囲にない。
対処 ・そのカードで使用できるIRQの値を指定する。

指定された割り込み番号は使用できません

- 意味 ・指定された割り込み番号はそのカードでは使えない。
対処 ・そのカードで使用できる割り込み番号を指定する。

指定されたI/Oポートは使用できません

- 意味 ・指定されたI/Oベースアドレスはそのカードでは使えない。
対処 ・そのカードで使用できるI/Oベースアドレスを指定する。

カードがありません

- 意味 ・カード属性情報がREX-R280のものではなかった。
原因 ・REX-R280以外のカードが挿入されている。
・メモリウィンドウが正しく確保されていない。
対処 ・PCカードを確認する。
・EMM386.EXEの「X」または「E」オプションの値を変更する。
・mem_addrオプションの値を変更する。

IRQが取得できません

- 意味 ・カードサービスから割り込み番号の割り当て要求を拒否された。
対処 ・カードサービスで割り当て可能な、他で使用していない割り込み番号を指定する。
(CSALLOC.INIファイルがある場合、「IRQ=」オプションのリストに含まれている範囲で
変更する必要がある)
・本体をリセットする。

指定のロットは使用できません

- 意味 ・カードサービスからサポートしていないロットが指定された。
対処 ・カードサービスがサポートしているロット番号を指定する。
・本体をリセットする。

カードロットがありません

- 意味 ・PCMCIAコントローラがi82365互換ではない。
対処 ・カードサービスをインストールして対応ドライバを使用する。
・本体をリセットする。

I/Oウィンドウを取得できません

- 意味 ・カードサービスからI/Oの割り当て要求を拒否された。
- 対処 ・カードサービスで割り当て可能な、他で使用していないI/Oアドレスを指定する。
(CSALLOC.INIファイルがある場合、「IO=」オプションのリストに含まれている範囲で変更する必要がある)
- ・本体をリセットする。

カードサービスが常駐していません

- 意味 ・カードサービスが正しく起動していないため、パケットドライバが起動できない。
- 原因 ・カードサービスの使用するメモリがEMSの領域やROMと競合している。
- 対処 ・「EMM386.EXE」の「X」または「/E」オプションのエリアを変更してみる。
- SystemSoft版カードサービスの「CSALLOC.EXE」が組み込まれている場合。
- 原因 ・「CSALLOC.INI」の「MEM=」オプションが不正。
- 対処 ・「EMM386.EXE」の「X」または「/E」オプションのエリアに合わせる。
- Phoenix Technologies版カードサービスの「PCMCS.EXE」が組み込まれている場合。
- 原因 ・「PCMCS.EXE」の「/ADDR」オプションが不正。
- 対処 ・「EMM386.EXE」の「X」オプションのエリアに合わせる。

カードを使用できません。

- 意味 ・カードサービスのエラー。
- 対処 ・カードサービスの設定を確認する。
- ・本体をリセットする。

カードはすでに使用されています。

- 意味 ・他のドライバによってすでにコンフィグレーションされている。
- ・「AUTODRV.SYS」や「PCMSCD.EXE」によってコンフィグレーションされている。
- 対処 ・他のドライバをアンロードする。
- ・「AUTODRV.INI」や「PCM.INI」を変更する。
- ・本体をリセットする。

第11章 PCMCIAデバイスドライバについて

ここではREX-R280用ソフトウェアを使用する場合のパソコン側の設定(PCMCIAドライバ、各設定ファイル)について示します。

「カードサービス」について

MS-DOS上でPCカードスロットおよびPCカードを使用するために専用のデバイスドライバを組み込む必要があります。このドライバソフトは「カードサービス」と呼ばれ、通常パソコン本体のメーカーより提供されているため、本製品には添付していません。

本製品に添付するソフトウェアはカードサービスの機能を使用してPCカードを制御します。本製品ではPC Card Standard 95以降のカードサービスに対応しており、現在動作確認済みのカードサービスのベンダーおよびバージョンは以下のとおりです。

DOS/V

種類およびバージョン	ドライバファイル名	主なパソコン機種
IBM Play At Will	IBMDSS01.SYS, IBMDOSCS.SYS	DOS/Vパソコン
IBM版PCMCIA 1.07相当	DICSS001.SYS, DICCS.SYS	IBM ThinkPad
IBM版PCMCIA 2.00相当 (ATバス用)	IBMDSS01.SYS, IBMDOSCS.SYS	IBM ThinkPad(ATバス) Panacom PRONOTE jet
IBM版PCMCIA 2.00相当 (MCAバス用)	IBMDSS02.SYS, IBMDOSCS.SYS	IBM ThinkPad(MCAバス)
System Soft版 PCMCIA 2.01相当 v4.11	SS365SL.EXE, SSCIRRUS.EXE, SSDBOOK.EXE, CS.EXE, CIC.EXE	
System Soft版 PCMCIA 2.01相当 v4.12 PCMCIA 2.10相当 v2.0x	SS365SL.EXE, SSCIRRUS.EXE, SSDBOOK.EXE, SSVADEM.EXE, CS.EXE, CSALLOC.EXE	SOTEC WinBook IDEXON NT66CL2 DELL Latitude
System Soft版 PCMCIA 2.1相当 v2.0x	SSVLSI.EXE, CS.EXE, CSALLOC.EXE	COMPAQ CONTURA AERO 4/25, 4/33C
Phoenix Technologies版 PCMPLUS PCMCIA 2.00対応 v1.0 PCMCIA 2.10対応 v2.2x	PCMSS.EXE, PCMCS.EXE, PCMSCD.EXE	FUJITSU FM-V NoteBook TOSHIBA DynaBook V486FV, EZ Vision, SS433, SS425
Phoenix Technologies版 PCMPLUS PCMCIA 2.00対応 v1.0 PCMCIA 2.10対応 v3.x	CNFIGNAM.EXE, PCMSS.EXE, PCMCS.EXE, PCMSCD.EXE	FUJITSU FM-V BIBLO TOSHIBA DynaBook GT450, GT475, SS450, SS475, SS-R590
DATABOOK版	SOCKET.SYS, CTALKCS.EXE, CARDTALK.SYS	MDT Arowana

また、IBMから発売されている「PC-DOS J6.1/V」、「PC-DOS J6.3/V」および「PC-DOS J7.0/V」に含まれているPhoenix Technologies版のカードサービスでも動作が確認されています。

PC-9821

種類およびバージョン	ドライバファイル名	主なパソコン機種
カードサービス(別売り) SystemSoft CardService2.10 Version2.06	SSMECIA.SYS CS.EXE,CSALLOC.EXE等	PC-9801 NX/C,P,NS/A,NL/R PC-9821 Ne
カードサービス SystemSoft CardService2.10 Version2.06	SSDRV.SYS CS.EXE,CSALLOC.EXE等	PC-9801NL/A PC-9821 シリーズ (PC-9821Ne 以外)

ソケットサービスには対応していません。

EPSON

種類およびバージョン	ドライバファイル名	主なパソコン機種
カードサービス SystemSoft CardService2.10 Version4.17	SS.EXE, CS.EXE, CSALLOC.EXE等	EPSON PC シリーズ PC-486NAU/NAV等

「DATABOOK CardTalk」について

DATABOOK社のPCMCIAコントローラが搭載されているパソコンでは、「CardTalk」と呼ばれるドライバが提供されていることがあります。

この場合は、CardTalk用のLANドライバを用意しておりませんので、パソコンメーカーよりカードサービス版のCard Talkを入手するか、IBMのPlay At Will をインストールしてお使いください。

種類およびバージョン	ドライバファイル名	主なパソコン機種
DATABOOK CardTalk v2.20.14, v2.20.12	CARD SOCK.SYS, SSH.SYS, SOCKET.SYS, CARDTALK.SYS	PCiN P-NOTE, P-BOOK, AT&T Wave Note, MDT Arowana, 日本サーテックTinyNote

カードサービスがない場合

パソコンによってはカードサービスが提供されていない場合があります。そういう場合はまず、パソコン本体のメーカーや販売店にお問い合わせください。ここでは、メーカーや販売店がカードサービスを提供していない場合の対処法について説明します。

別途カードサービスを用意する

別途カードサービスを用意するには次の方法があります。

DOS/V

IBMカードサービス「Play at Will」を用意する。

「IBM版カードサービスPlay at Will ver3.xx」

「IBM版カードサービスPlay at Will ver2.xx」

IBMの「PC-DOS J6.1/V,J6.3V,J7.0/V」に含まれる「PCPLUS」を用意する。

「PC-DOS J7.0/V版カードサービス」

「PC-DOS J6.1/V,J6.3V版カードサービス」

マイクロソフト社のMS-DOS 5.0/VやMS-DOS 6.2/Vにはカードサービスが含まれていませんので注意してください。

PC-98

NECより発売されている「SystemSoftカードサービス」を用意する。

カードサービスを使用しない (DOS/Vのみ)

カードサービスを使用しない場合、次のいずれかの条件であれば使用可能です。ただし、活線挿抜機能には対応しません。

PCMCIAコントローラがi82365およびその互換LSIの場合

「PCMCIAコントローラ(i82365)の確認方法」で確認できた場合は、i82365直接制御のLANDライバが使用可能です。

PCMCIAコントローラ(i82365)の確認方法(DOS/V)

DOS/V機でパソコン側にカードサービスモジュールサービスモジュールも用意されていない場合、PCMCIAコントローラLSIを直接制御するタイプのLANDライバを使用します。しかし、このLANDライバではインテルのExCA規格に基づいたハードウェアを想定していますので、DATABOOK社製コントローラ上では動作しません。使用されているPCMCIAコントローラの種別は次の方法で簡単に調査することができます。

```
C:¥DOS> DEBUG <Enter> (A)
-o 3E1 0 <Enter> (B)
-i 3E1 <ENter> (C)
-83
-q <Enter> (D)
C:¥DOS>
```

- (A).MS-DOSの「DEBUG.COM」というコマンドを起動します。このコマンドは通常MS-DOSの標準ユーティリティのあるディレクトリに存在します。
- (B).I/Oポート「3E0」に「00」を書き込みます。
- (C).I/Oポート「3E1」の内容を読み出します。
- (D).確認したら、「q」コマンド入力して「DEBUG」を終了します。

読み出した内容が「82」～「88」であればインテルi82365または互換製品が使用されていますので直接制御のLANDライバは動作します。

読み出した内容が「FF」であった場合、直接制御のLANDライバは使用できません。

第12章 診断プログラムの使用方法

ループバックテスト(NICUT)

ここで使用するプログラムはMS-DOSのコマンドプロンプトからのみ実行可能です。
Windows 95/NTのDOSプロンプト(DOS窓)からでは正常に動作しませんのでご注意ください。
Windows 95がインストールされたパソコンで実行する場合は、Windows 95を終了しDOSモードで再起動してください。

割り込みを使用しないループバックテスト

(1).本製品添付のフロッピーに含まれる「NICUT.EXE」プログラムを起動します。

```
C:¥>A: <Enter>  
A:¥>CD ¥UTIL <Enter>  
A:¥UTIL>NICUT <Enter>
```

カレントドライブをフロッピードライブに移動
カレントディレクトリを「UTIL」に移動
「NICUT.EXE」を起動

(2).メインメニューの「ネットワーク・インターフェイス・カードの動作確認」を選択します。そして「ループバックテスト」を選択すると下の画面が表示されます。

```
REXLAN Series Network Interface Card Utility (NICUT.EXE) Version x.xx  
ループバックテスト  
パソコン本体機種          DOS/V          カードの設定  
ネットワーク・インターフェイス・カード          ループバックテスト  
I/Oベースアドレス          送信間隔(0-60)          0秒  
MACアドレス          送信回数(0-9999)          100回  
割り込み
```

メニューを選択してください。

(3).最初に「カードの選択」を選択します。下のカードリストが表示されたら下表に従って「カード名称」を選択します。

ネットワーク・インターフェイス・カードを選択してください。

```
カード名称  
REX-5580/81  
REX-5584  
REX-5585  
REX-5586/87  
REX-5580T/C/F  
REX-5588  
REX-R280
```

- (4).下のベースアドレスのリストが表示されたら「未使用」とされているアドレスを選択します。そして割り込み番号は「なし」を選択します。

セットしたいI/Oベ - スアドレスを選択してください。		
カ - ド名称	ベ - スアドレス	割り込み番号
REX-R280	280h	使用済
	2C0h	使用済
	300h	未使用
	340h	未使用
	380h	未使用

コンパクトCONTURA AERO 4/33Cの場合は、割り込み「なし」のチェックが行えませんので「割り込みを使用するループバックテスト」に進んでください。

- (5).次に「ループバックテスト」を選択してテストを開始します。

REXLAN Series Network Interface Card Utility (NICUT.EXE)				Version x.xx	
				ループバックテスト	
パソコン本体機種	DOS/V	TX TimeOut	0000	Rx TimeOut	0000
ネットワーク・インターフェイス・カード	REX-280	TX ShortPKT	0000	Rx ShortPKT	0000
I/Oベースアドレス	300h	16 Colision	0000	Rx OverFlow	0000
MACアドレス	00:C0:D0:55:85:01	BusWrite Er	0000	AligmentEr	0000
割り込み	なし	CRC Error	0000	DataCompEr	0000
送信状態 A0		受信状態 80		送信間隔 0秒	
				送信回数 2/100回	
97/07/06 15:40:10 00001 a quick brown fox jumps over the lazy dog. 0123456789					
97/07/06 15:40:10:00002 0123456789.A QUICK BROWN FOX JUMPS OVER THE LAZY DOG					

送信回数で指定された回数分テストを行うと終了します。

割り込みを使用するループバックテスト

- (1).割り込み番号の選択時に「選択可」が表示されている番号を指定し、「ループバックテスト」を開始してください。

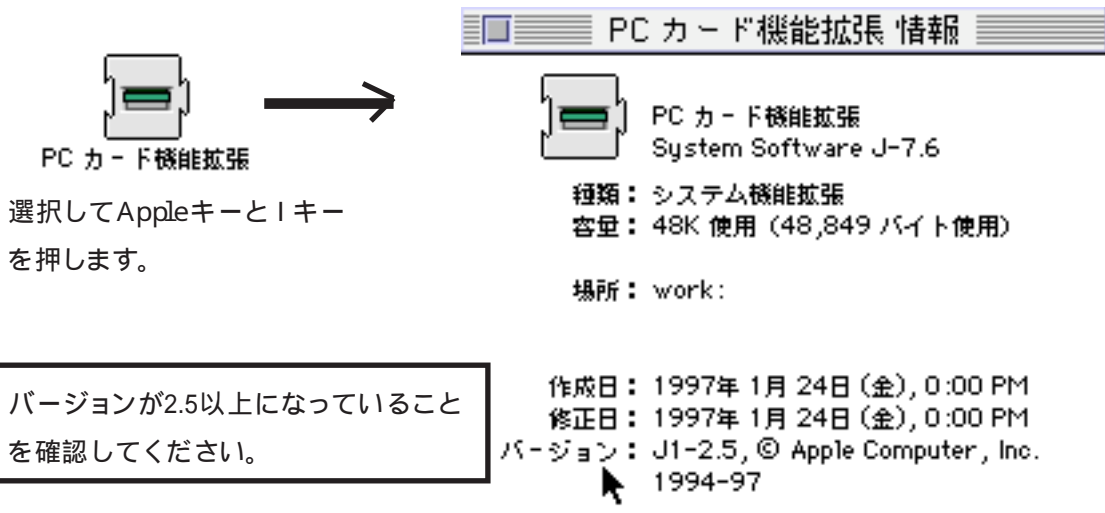
I/Oベースアドレス	300h	16 Colision	0000	Rx OverFlow	0000
MACアドレス	00:C0:D0:55:85:01	BusWrite Er	0000	AligmentEr	0000
割り込み	IRQ5	CRC Error	0000	DataCompEr	0000
	:				

以上のテストで正常動作が確認されれば、ハードウェア側のインストールは完璧です。

第13章 Macintoshでのインストール

PC Card Manager 3.0の確認 (Mac OS 7.6.1 以前)

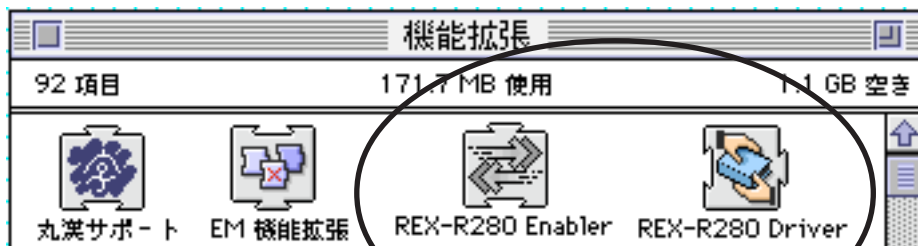
システム機能拡張のPC Card Manager(PC カード拡張機能)のバージョンをチェックします。
システムフォルダの機能拡張フォルダにPCカード拡張機能を見つけます。
なお、Mac OS 8では、PCカード拡張機能はありません。確認は必要ありません。



ドライバのインストール

LAN PC Card REXR280シリーズをMacintoshで使用する場合の実際のインストール手順を示します。

- (1) REX-R280を挿入しないでMacintoshを起動し、添付のドライバディスクより「REX-R280 Enabler」および「REX-R280 Driver」をシステムフォルダの機能拡張にコピーします。
コピーの方法については、お使いのMacintoshのマニュアルをお読みください。



- (2) システム終了を選択し、次にREX-R280をPCカードスロットに装着してシステム起動します。

- (3).デスクトップに次のカードのアイコンが表示されていることを確認します。もし表示されない場合、REX-R280 PCカードの装着を確認してください。また前項のドライバのコピーを確認してください。



- (4).REX-R280 PCカードを取り出す場合、上記アイコンを「ごみ箱」にドラッグアンドドロップします。

- (5).コントロールパネルよりAppleTalkを起動します。以下のエラーメッセージが表示される場合があります。「はい」を選択してください。



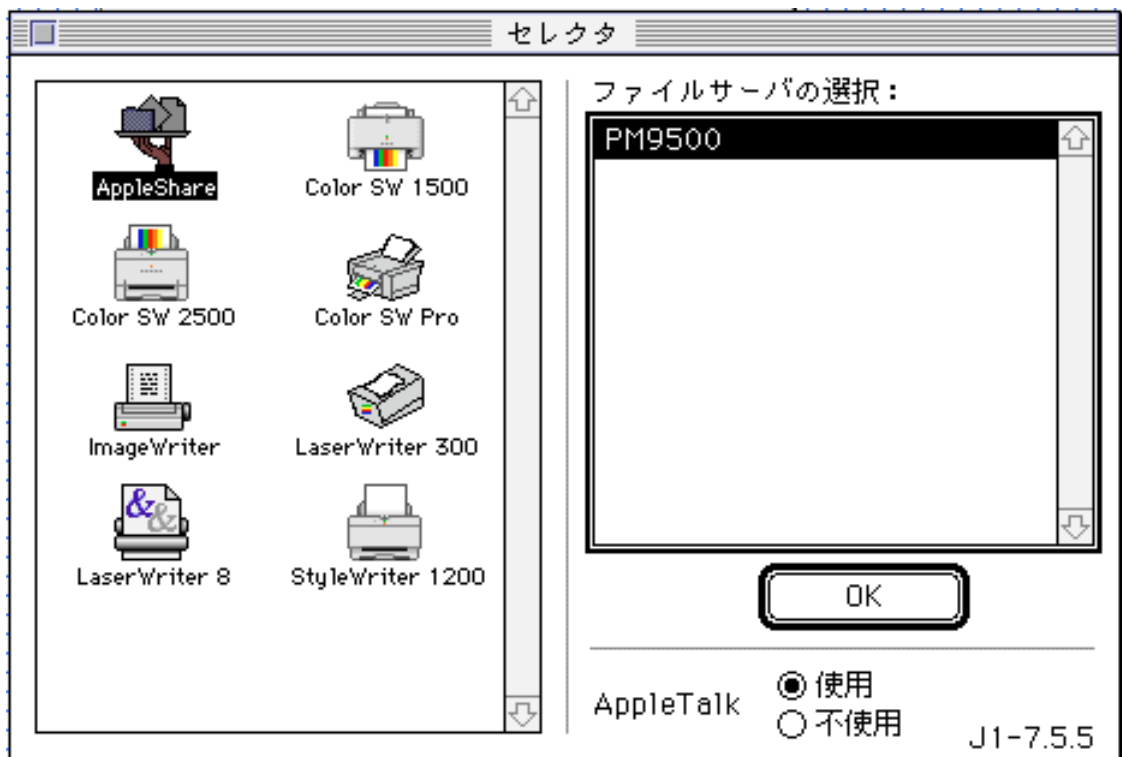
- (6)AppleTalkの画面が表示されます。経由先のボックスでREX-R280を選択してください。



- (7).AppleTalkを他のネットワークで使用中の場合、以下の画面が表示されます。「保存」を押して設定内容を保存します。



- (8).コントロールパネルよりセレクトタを選択します。 AppleShareを選択し他のファイルサーバ等が表示されることを確認してください。



- (9).以上でインストールおよび接続の確認は終了です。REX-R280 PCカードを取り出すときは必ずデスクトップに表示されているサーバ等のアイコンをごみ箱にいれてから、REX-R280のアイコンをごみ箱にいれてください。

第14章 トラブルシューティング

その他のデバイスに ? PCMCIA Cardがある場合

Q.

「その他のデバイス」のカテゴリの中に「 ? PCMCIA Card Servies」または「 ? PCMCIA カードサービス」という項目が表示されています。

問題ないのでしょうか。

A.

?マークはエラーではありません。

本カードを挿入すると「その他のデバイス」に現われます。

この項目を削除しないでください。もし誤って削除した場合、PCカードが使用できなくなります。

LSL実行時Ver2.11以上で実行してくださいとなる場合

Q.

NetWare 3.12以前のLSLを実行するとVer2.11以上で実行してくださいとなる。

どうしたらよいのでしょうか。

A.

REX-R280はVer2.11以上でしか動作しません。

NetWare 4.1Jには、LSL 2.14が格納されています。

NetWare 4.11Jには、LSL 2.20が格納されています。

NetWareからLSL等をダウンロードできます。

LSLのバージョンアップを行ってご使用ください。

ダウンロードした最新ドライバを組み込めない場合

Q.

最新のドライバをダウンロードしディレクトリ上で実行するとアイコンがいっぱい登場し、ドライバの更新ができません。どうしたらよいのでしょうか。

A.

ダウンロードしたファイルは、ハードディスクの作業用ディレクトリにコピーして、そこでEXEファイルを実行してください。ドライバの更新時は、ハードディスクの作業用ディレクトリを指定してください。

AppleTalkの経由先にREX-R280が表示されないとき

Q.

AppleTalkの経由先の選択でREX-R280を選択できません。

A1.

システム機能拡張のPC Card Manager(PC カード拡張機能)のバージョンをチェックします。
3.0以上であることを確認します。

A2.

システム機能拡張にREX-R280 Driverが入っていることを確認します。

カードアイコンの名前が10BASE-T CARD R280となる時

Q.

REX-R280 PCカードを挿入するとカードアイコンの名前が10BASE-T CARD R280となる。

A.

システム機能拡張にREX-R280 Enablerが入っていることを確認します。

REX-R280をクリックするとフォーマットしますかとなる時

Q.

REX-R280 のカードアイコンをクリックすると「フォーマットしますか」となる。

A.

カードの情報が壊れている可能性があります。弊社サポートセンターまで連絡してください。

他のWindows パソコンを参照できないとき

Q.

REX-R280 のプロパティは正常に動作していますと表示されているがネットワーク上の他のパソコンが参照できません。

A.

ネットワークプロトコルが他のパソコンと一致しているか確認してください。問題なくとも一度ネットワークプロトコルを全て削除して再度インストールしてください。

また、[コントロールパネル]-[ネットワーク]のプロパティでMicrosoftネットワーク共有サービスを入れてみてください。ファイルとプリンタの共有にもチェックを入れてください。

第15章 付録

LAN PC カードの仕様

製品名	REX-R280	
LAN PCカード	PC Card Standard準拠 (TypeII)	
PC Card Slot	PC Card Standard	
入出力ポート	10BASE-T	
入出力コネクタ	モジュージャックコネクタ(RJ-45)インピーダンス100	
本体CPUとのインターフェース	16bit I/O制御方式	
バッファ容量	32Kバイト (カード上)	
I/Oアドレス	DOS/V	260h/ 280h/ 2A0h/ 2C0h/ 2E0h/ 300h/ 320h/ 340h/ 360h/ 380h/ 3A0h/ 3C0h
	PC-98	260h/ 280h/ 2A0h/ 2C0h/ 2E0h/ 300h/ 320h/ 340h/ 360h/ 380h/ 3A0h/ 3C0h
	PC-9821Ne	280h/ 2A0h/ 2C0h/ 2E0h/ 300h/ 320h/ 340h/ 360h/ 380h/ 3A0h/ 3C0h
	EPSON	2A0h/ 2C0h/ 2E0h/ 300h/ 320h/ 340h/ 380h/ 3A0h/ 3C0h
割り込み番号	Windows 95/Windows NT/DOS Card Serves によって割り当てられる割り込み番号を使用	
メモリアドレス	Windows 95/DOS Card Serves によって割り当てられるメモリアドレスを使用 Windows NT C0000h/ C4000h/ C8000h/ CC000h/ D0000h/ D4000h/ D8000h/ DC000h	
グローバルアドレス (MACアドレス)	カード上のEPROMに記憶 アドレスを印刷したシールがカード上に貼られています	
電源電圧・消費電流	+5V・80mA(MAX)	
動作保証温度(湿度)	+0 ~ +55 (結露しないこと)	
保存保証温度(湿度)	-20 ~ +70 (結露しないこと)	

デスクトップパソコンでREX-R280を使用する場合

デスクトップパソコン(DOS/V,PC-9821)でPCカードを使用するためのアダプタを用意しています。これによりREX-R280シリーズがデスクトップパソコンでも使用可能になります。

製品型番・製品仕様・製品価格等は1997年11月現在のものです。

for DOS/V (ISA-Bus)

型番 / 価格	: REX-5051fx / ¥17,800円
内容	: TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (カードドライブに2スロット) : Windows95、Windows NT、OS/2Warp4専用モデル
型番 / 価格	: REX-5051ex / ¥22,800円 外置き用
内容	: TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (カードドライブに2スロット) : Windows 95、Windows NT、OS/2Warp4専用モデル
共通仕様	: PCMCIAコントローラはIntel 82365SL互換 : カードドライブは3.5インチFDDサイズ : 5インチファイルベイ用アタッチメント付属

for PC-9821 (C-Bus)

型番 / 価格	: REX-9851 / ¥23,800円
内容	: TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (ボード上に2スロット) : CardSoft標準装備 (DOS/Windows3.1用カードサービスプログラム)
型番 / 価格	: REX-9851F / ¥29,800円
内容	: TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (カードドライブに2スロット) : CardSoft標準装備 (DOS/Windows3.1用カードサービスプログラム)
型番 / 価格	: REX-9851W / ¥19,800円
内容	: TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (ボード上に2スロット) : Windows 95/NT専用モデル
型番 / 価格	: REX-9851FW / ¥26,800円
内容	: TYPE ×1スロット、TYPE ×1スロット (カードドライブに2スロット) : Windows 95/NT専用モデル
共通仕様	: PCMCIAコントローラはIntel 82365SL互換 : カードドライブは3.5インチFDDサイズ : 5インチファイルベイ用アタッチメント付属(REX-9851F/9851FWのみ)

上記製品に関する詳細等は弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

ネットワークに関する設定例

ここでは、ネットワークに関する具体的な設定例を説明します。ただし、ここではWindows95同士のピアtoピア接続を例ですので、WindowsNTやNetWareサーバ等が設置されているネットワーク環境ではこの例と異なる設定が必要となります。このような環境では、ネットワーク管理者に確認した上で、設定作業を行ってください。

Windows95同士でのネットワーク設定例

Windows95同士でお互いのHDやプリンタを共有する場合、ネットワークのインストールを行っただけではお互いのHDやプリンタを共有することができません。

ここでは、HDやプリンタを共有するための設定例を記述します。

(1)共有設定

コントロールパネルより「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



このアイコンをダブルクリックします

(2)必要なモジュールの確認

下記画面の「現在のネットワーク構成」の中に表示されているものがすべて入っているかを確認します。どれか1つでも足りない場合は後述の説明に従って作業を進めてください。



モジュールが足りない場合

- ・Microsoft ネットワーククライアント
P116 クライアントモジュールの追加
- ・NetWare ネットワーククライアント
P116 クライアントモジュールの追加
- ・Network PC Card REX-R280
P12 ドライバのインストール
(デバイスドライバウィザード)
- ・IPX/SPX 互換プロトコル
P116 プロトコルの追加
- ・NetBEUI
P116 プロトコルの追加

のページを参照してください

(3)共有に関する設定

下記画面で「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックします。

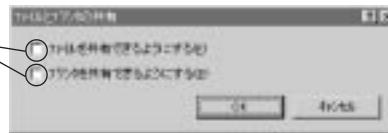


「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックします

(4)共有したいリソースの選択

下記画面で共有したいリソース(ファイル・プリンタ)にチェックマークを入れ「OK」ボタンをクリックします。

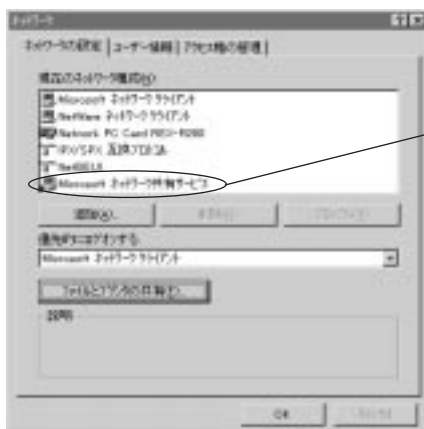
共有したいリソースにチェックマークを入れます



(5)共有サービスの確認

下記画面に戻ったとき「現在のネットワーク構成」一覧の中に「Microsoft共有サービス」が追加されていることを確認します。

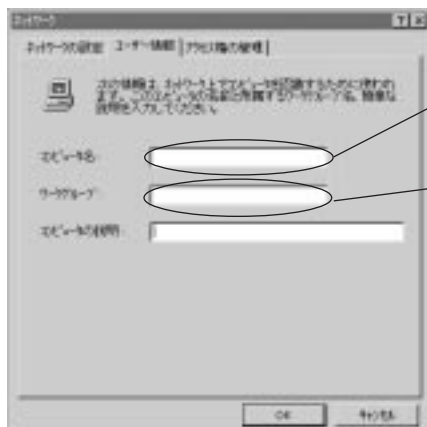
(自動で追加されない場合、「サービスモジュールインストール」を参照して手動で追加作業を行ってください。)



(4)の作業後「Microsoftネットワーク共有サービス」が追加されていることを確認します

(6) コンピュータ名とワークグループの設定

「ユーザー情報」タブをクリックし「コンピュータ名」と「ワークグループ」を設定します。どちらも任意の名前を、半角15文字以内で記述します。



任意のコンピュータ名を半角15文字以内で記述します

任意のワークグループ名を半角15文字以内で記述します

(7) 設定の完了と再起動

ここまでの設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。「再起動しますか」というメッセージが出たら「はい」を選択しパソコンを一旦再起動します。

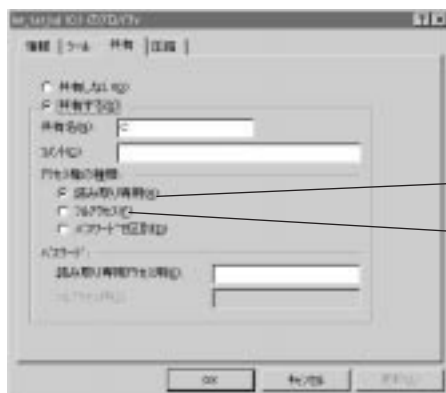
(8) HDの共有設定

再びパソコンが起動したら、共有したいHDあるいはフォルダを選択し、マウスの右ボタンをクリックし「共有」を選択します。(この例ではHD自体を共有します)



共有したいHDやフォルダを選択したあと、マウスの右ボタンをクリックし「共有」を選択する

下記設定画面において「共有する」側をチェックしたあと「アクセス権の種類」を選択します。他のパソコンからファイルを参照するだけの場合「読み取り専用」を選択し、書き込み等も可能にさせる場合「フルアクセス」を選択します。



他のユーザからは「読み取り」専用とする場合

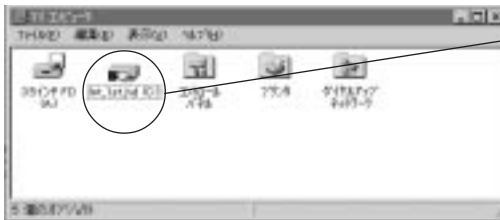
他のユーザから「全ての操作」を行えるようになる場合

設定が完了したら「OK」をクリックします。

(9)共有設定の確認

設定したディスクが正しく共有されているかを確認します。

下図のように、対象のHD・フォルダ等に「共有」を示すアイコンが表示されていれば、正常に共有が開始されていますので、設定は完了です。



このようなアイコン表示になっていれば正常に共有されています

(10)プリンタの共有設定

「マイコンピュータ」より「プリンタ」フォルダを開き、共有したいプリンタのアイコンをマスの右ボタンでクリックし「共有」を選択します。



共有したいプリンタのアイコンをマスの右ボタンでクリックし、メニューより「共有」を選択します。

下記画面において「共有」する側をチェックし「更新」ボタンをクリックしたあと「OK」ボタンを押してダイアログを閉じます。



「共有する」を選択し「更新」ボタンを押したあと「OK」ボタンを押します

(11)共有設定の確認

設定したプリンタが正しく共有されているかを確認します。

下図のように、対象のプリンタに「共有」を示すアイコンが表示されていれば、正常に共有が開始されていますので、設定は完了です。



このようなアイコン表示になっていれば
正常に共有されています

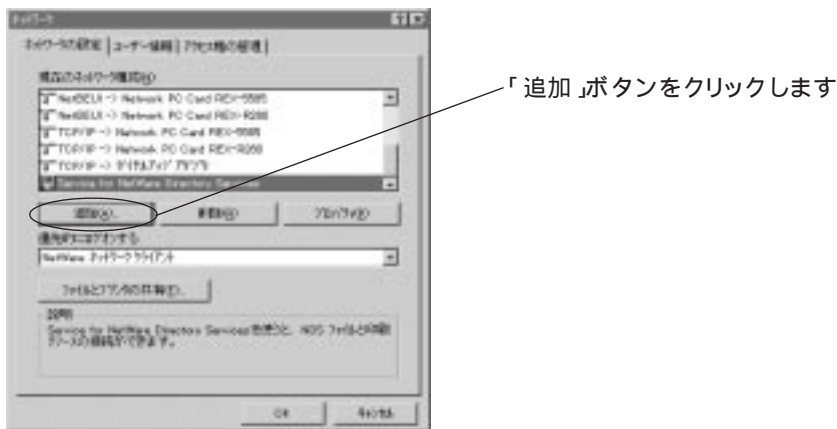
クライアントモジュールの追加

ここでは、クライアントモジュールの追加方法について説明します。

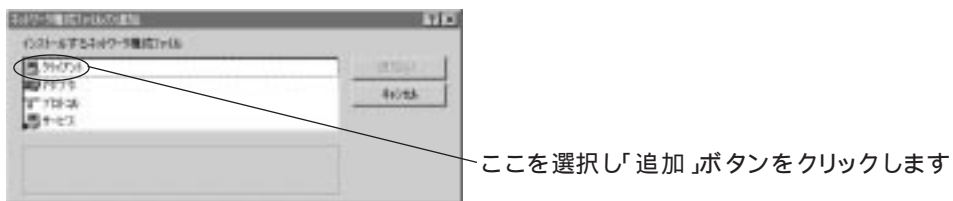
「コントロールパネル」より「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



下記画面が表示されたら「追加」ボタンをクリックします。



下記画面が表示されたら「追加」ボタンをクリックします。



「製造元」に「Microsoft」を指定し「ネットワーククライアント」に必要なクライアントモジュールを選択し「OK」をクリックします。



ネットワーククライアントの種類は
Windows95ピアtoピア接続および
WindowsNTサーバへの接続の場合
Microsoftネットワーククライアント
を選択します
NetWareサーバへの接続する場合
NetWareネットワーククライアント
を選択します

下記画面の「現在のネットワーク構成」一覧の中に、希望するネットワーククライアントが追加されていれば「OK」をクリックし、ウインドウを閉じます。



以上でネットワーククライアントの追加作業は完了です。

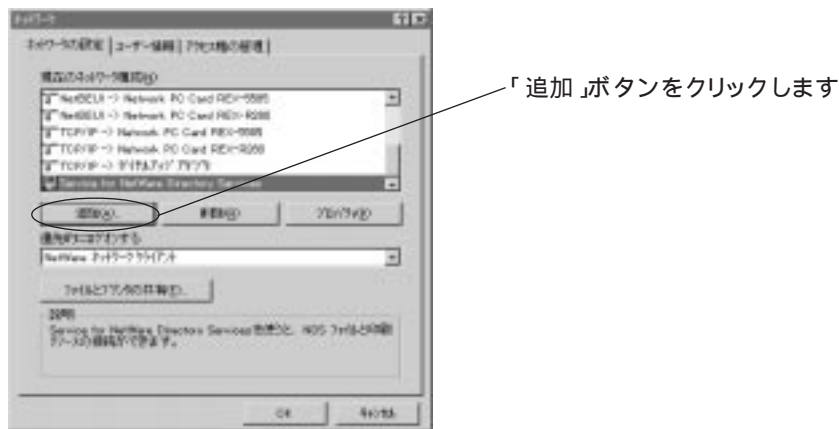
プロトコルの追加

ここでは、ネットワークプロトコルの追加方法について説明します。

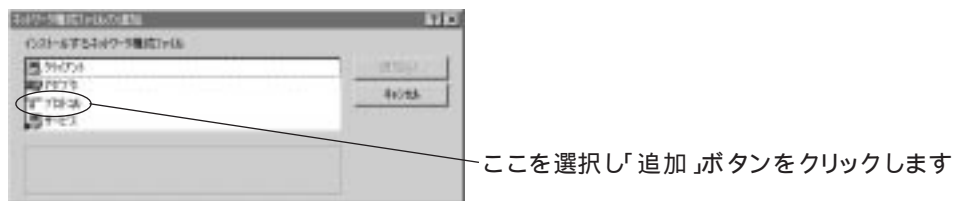
「コントロールパネル」より「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



下記画面が表示されたら「追加」ボタンをクリックします。



下記画面が表示されたら「追加」ボタンをクリックします。



「製造元」に「Microsoft」を指定し「ネットワークプロトコル」に必要なプロトコルを選択し「OK」をクリックします。



ネットワークプロトコルの種類は
Windows95ピアtoピア接続の場合
NetBEUI
を選択します
その他の接続の場合
ネットワーク管理者へ確認して
確認してください

下記画面の「現在のネットワーク構成」一覧の中に、希望するネットワークプロトコルが追加されていれば「OK」をクリックし、ウィンドウを閉じます。



以上でネットワークプロトコルの追加作業は完了です。

WindowsNTサーバ接続への設定例

ここではWindowsNTサーバへの接続において必要な設定例を記述します。
実際にお使いの環境での設定値については、ネットワーク管理者へご確認ください。

(1)「ネットワーク」の起動

「コントロールパネル」より「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



このアイコンをダブルクリックします

(2)プロパティ画面の呼び出し

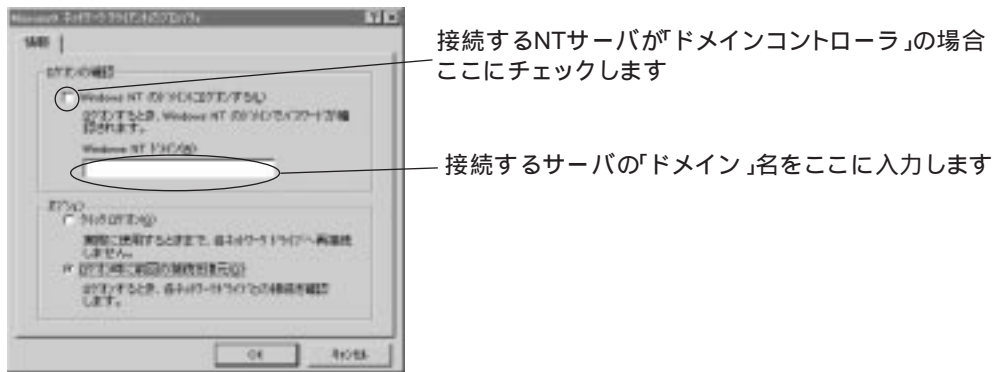
下記画面で「Microsoftネットワーククライアント」をクリックし「プロパティ」ボタンをクリックします。



「Microsoftネットワーククライアント」を選択してから「プロパティ」ボタンをクリックします

接続先のNTサーバが「ドメインコントローラ」に設定されている場合「WindowsNTのドメインにログオンする」と書かれた左側をクリックし、チェックマークを入れます。そして「WindowsNTドメイン」と書かれた下側の項目に接続するNTサーバのドメイン名を記述します。

(WindowsNTサーバが「ワークグループ」サーバの場合、この設定は不要です)



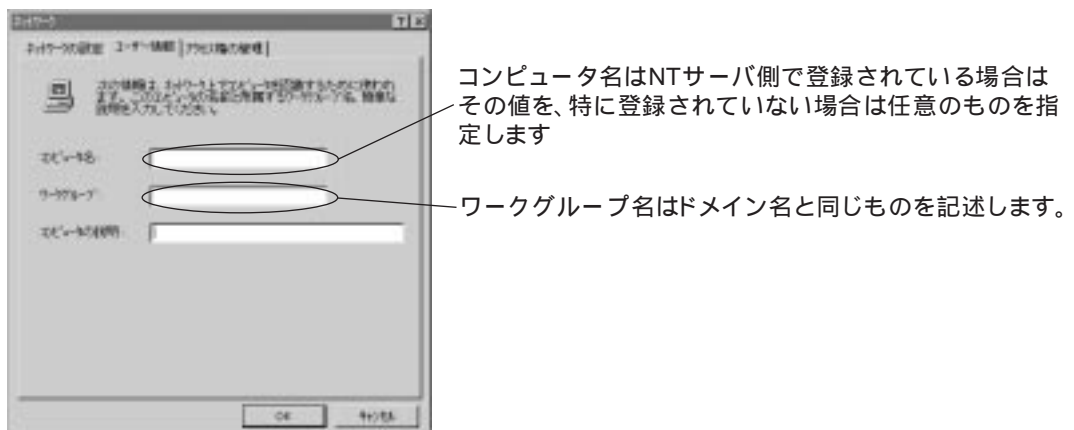
入力が完了したら「OK」をクリックし「Windowsネットワーククライアントのプロパティ」画面を閉じます。

(3) ユーザ情報の設定

「ユーザ情報」タブをクリックし、コンピュータ名とワークグループを指定します。

「コンピュータ名」は任意または、NTサーバ側で登録されているものを記述します。

「ワークグループ」名はさきほど指定した「ドメイン名」と同じものを記述します。



(4) アクセス権管理の設定

「アクセス権の管理」タグをクリックします。一般的には「共有レベルのアクセス管理」を選択します。接続するサーバの環境に合わせて何れかを選択します。



サーバの環境に合わせて設定します

以上でWindowsNTログオンに関する設定は完了です。「OK」ボタンをクリックしウィンドウを閉じパソコンを再起動します。

NetWareサーバ接続への設定例

ここではNetWareサーバへの接続において必要な設定例を記述します。
 実際にお使いの環境での設定値については、ネットワーク管理者へご確認ください。

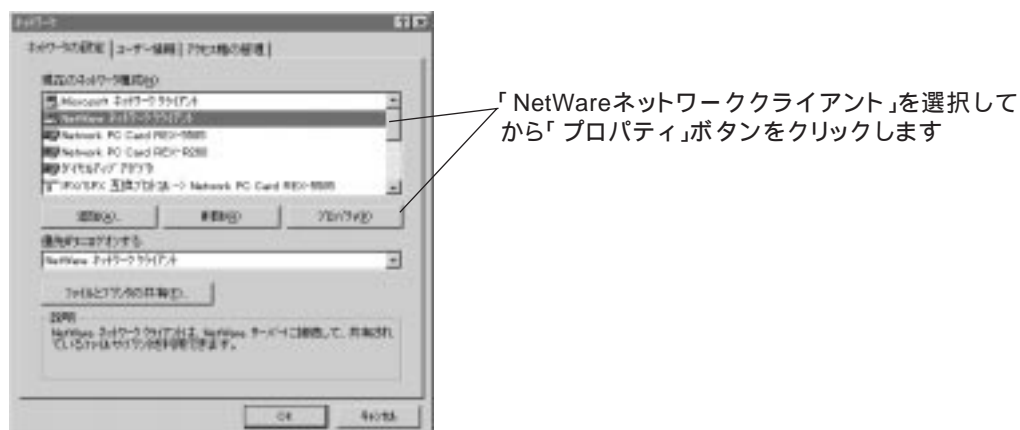
(1) ネットワーク」の起動

コントロールパネル」より「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

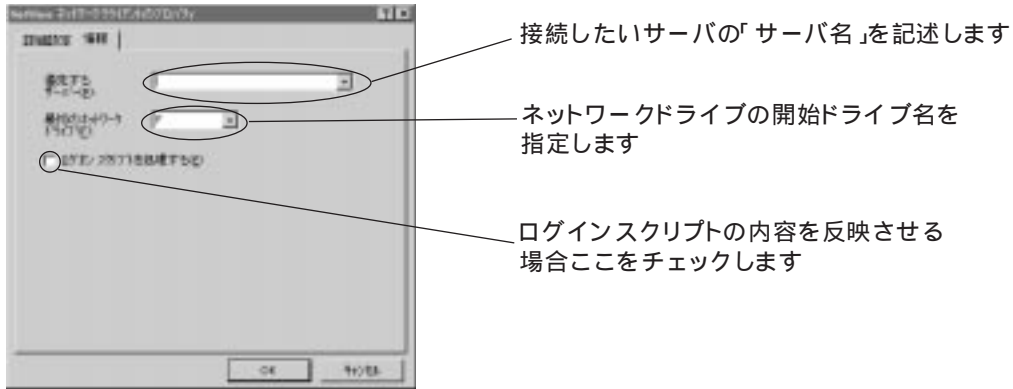


(2) プロパティ画面の呼び出し

下記画面で「NetWareネットワーククライアント」をクリックし「プロパティ」ボタンをクリックします。



「優先するサーバ」の項目に接続したいNetWareサーバ名を記述します。「最初のネットワークドライブ」の項目には、ネットワークボリュームをドライブ名として割り当てる際に使うドライブプレター（D: など）をどこから始めるかを指定します。例えば、ネットワーク用のドライブを「N:」以降に割り当てたい場合、最初のネットワークドライブ項目に「N」を指定します。また、NetWareサーバに接続した際ログインスクリプトの内容を反映させたい場合「ログインスクリプトを処理する」にチェックします。

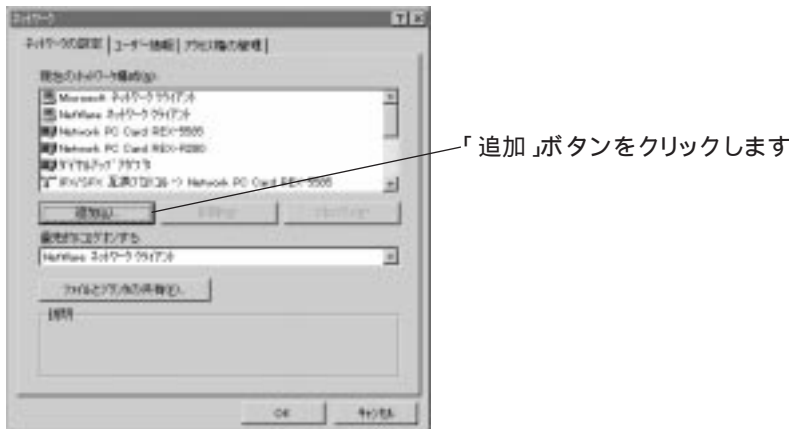


NetWareのバージョンが3.xxの場合、ここまでの設定で完了となります。「OK」ボタンをクリックして「NetWareネットワーククライアントのプロパティ」を終了します。NetWare4.xxの場合、サーバ環境によってはNDSモジュールサービスをインストールする必要があります。その場合下記の例を参考に設定を行ってください。

(NDSモジュールが必要かどうかはネットワーク管理者に確認してください)

(3) NDSモジュールの追加

下記画面で「追加」ボタンをクリックします。



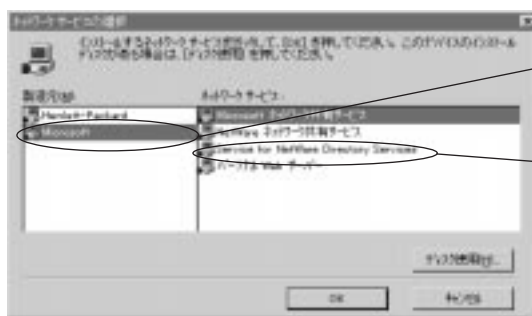
「サービス」を選択し「追加」ボタンをクリックします。



ここを選択し「追加」ボタンをクリックします

「製造元」に「Microsoft」を選択し「ネットワークサービス」から「Service for NetWare Directory Services」を選択して「OK」ボタンをクリックします。

(Windows95のビルド番号が950Bより古い場合、「Service for NetWare Directory Services」が入っておりませんのでマイクロソフトのホームページよりモジュールをダウンロードしてください)



製造元にMicrosoftを指定します

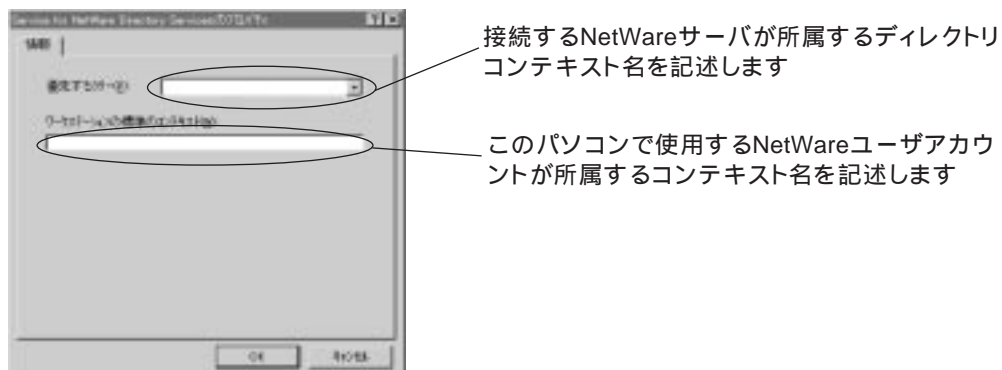
ネットワークサービスより「Service for NetWare Directory Services」を指定します

下記画面に戻ったら、次にNDSモジュールに関する設定を行います。現在のネットワーク環境より「Service for NetWare Directory Services」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。



「Service for NetWare Directory Services」を選択してから「プロパティ」をクリックします

「優先するツリー」には、接続するNetWareサーバが所属するディレクトリツリー名を記述し「ワークステーションのコンテキスト」には使用するユーザアカウントが所属するコンテキスト名を記述します。



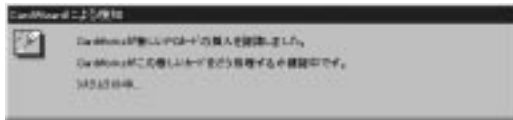
「OK」ボタンをクリックし「Service for NetWare Directory Servicesのプロパティ」を終了します。

CardWizard (CardWorks) がインストールされている場合のセットアップ方法

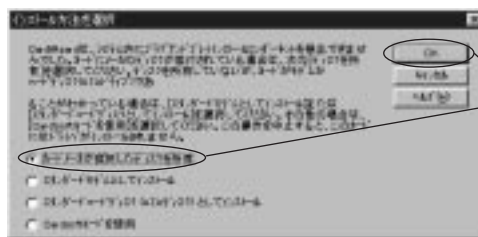
ここではCardWizard(CardWorks)がインストールされているパソコンでのインストール方法を説明します。

(1) REX-R280のPCカードスロットへのセット

REX-R280をスロットに挿入すると、下記画面が表示されます。



しばらくすると、下記画面に変わりますので「カードメーカーが提供したディスクを使用」を選択し「OK」ボタンをクリックします。



「カードメーカーが提供したディスクを所有」を選択し「OK」をクリックします。

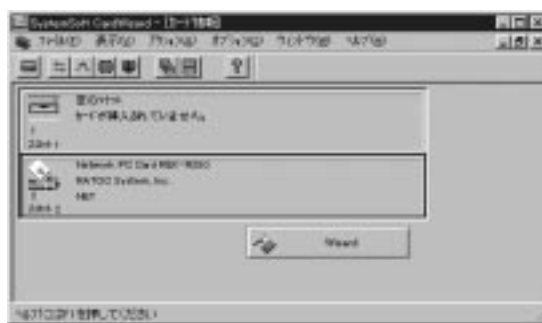
下記画面が表示されたら、REX-R280に添付されているFD(DOS/V・PC-98マシン用)をフロッピードライブにセットし、DOS/V系マシンの場合は「A:¥WIN95¥AT」、NEC PC-9821系マシンの場合「C:¥Win95¥98」と指定します。

(但し、PC-98の場合、ハードディスクの構成により異なりますので、お客様がご使用の環境に合わせてFDドライブを指定してください)

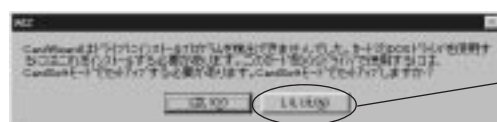


ここにインストール元のドライブを指定します。DOS/V系マシンの場合「A:¥WIN95¥AT」と指定します。PC-9821系マシンの場合「C:¥WIN95¥AT」と指定した後「OK」ボタンをクリックします。

しばらくして、下記画面が表示されればインストールは正常に完了です。



もし、下記画面が表示された場合、ドライブの格納場所の指定が正しくない可能性がありますので、「いいえ」をクリックし、もう一度正しく指定し直してください。



もしこの画面が表示された場合、ドライブの格納場所の指定が正しくない可能性がありますので、「いいえ」をクリックし再度、指定し直してください。

REX-R280質問用紙(拡大コピーの上ご記入ください)

ユーザ情報記入欄

会社名			
所属			
氏名			
住所	〒		
電話番号		FAX番号	
シリアル番号			
販売店名		購入年月日	年 月 日

パソコン環境状況記入欄&質問内容

パソコン機種名							
使用OS	Windows 95	950,950a	950 B	Windows NT	3.5	3.51	4.0
	DOS(Ver)	Windows 3.1	Mac OS	7.6	7.6.1	8	8.1
ネットワークOS	Version						
質問内容							
添付資料:インストール等に関するご質問の場合は、下記のデータが必要です。送付して頂いたデータを チェックしてください。							
デバイスマネージャのシステム概要				Windows NT診断プログラムのレポート			

デバイスマネージャのシステム概要(Windows 95のみ)

- (1).コントロールパネルのシステムのデバイスマネージャから「印刷(N)...」ボタンを押します。
- (2).レポートの種類に「全てのデバイスとシステムの概要」を選択して「OK」ボタンを押します。

Windows NT診断プログラムのレポート(Windows NTのみ)

- (1).Windows NT診断プログラムを起動し、「ファイル」メニューから「レポートの印刷(N)...」ボタンを押します。
- (2).ドライバ、デバイス、IRQ/ポート、ネットワークをチェック選択して「OK」ボタンを押します。